

令和6年度第1回

新宿区

区政モニターアンケート報告書

- テーマ1 震災に備えて
- テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて
- テーマ3 男女共同参画に関する意識について



新宿区

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 集計・分析結果を読む際の注意点	1
4 回答者の属性	2
II 調査の結果	5
テーマ1 震災に備えて	5
(1) 家屋の建築年・建築構造	5
(2) 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況	6
(3) 耐震診断の意向	8
(4) 耐震診断を受けない理由	10
(5) 耐震補強工事の意向	12
(6) 耐震補強工事を行っていない理由	14
(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向	17
(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由	19
(9) 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況	20
テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて	22
(1) 実際に行っている3R活動	22
(2) 食品ロスを減らすために、行っていること	25
(3) プラスチックごみ削減のために、行っていること	35
(4) ごみ・資源の出し方	42
(5) 資源（古紙）の日または地域の集団回収に出している雑がみ	48
(6) 資源プラスチックを資源として出していない理由	49
テーマ3 男女共同参画に関する意識について	50
(1) さまざまな分野での男女平等意識について	50
(2) 男女共同参画に関する言葉について	64
(3) 仕事と生活のバランスの満足度	65
(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて	66
(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	67
(6) DVだと思う行為について	70
(7) DVについての相談機関の窓口について	73
(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて	76
III 資料（調査票）	78

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

2 調査の概要

《第1回》	調査対象	区政モニター 1,000名
	調査内容	テーマ1 震災に備えて
		テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて
		テーマ3 男女共同参画に関する意識について
	調査期間	令和6年7月16日～令和6年7月30日
	調査方法	郵送配布・郵送回収
	回答数	909票（回収率90.9%）

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の合計数を示している。
- 回答はすべて百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100％を前後する場合がある。
- 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100％を超えることがある。
- 複数の選択肢をあわせた項目の構成比（％）は、その選択肢の選択者数を基数で除して算出している。そのため、各選択肢の構成比を足し上げた数値と差が生じることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、本報告書では次の表現を用いる。		
(例)		(表現)
80.1～80.9%	⇒	約8割
81.0～82.9%	⇒	8割強
83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	⇒	9割近く
89.0～89.9%	⇒	9割弱

○ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。

独 身 期 : 40 歳未満の独身者

家 族 形 成 期 : 子どものいない 40 歳未満の夫婦、または一番上の子どもが入学前の人

家族成長前期 : 一番上の子どもが小・中学生の人

家族成長後期 : 一番上の子どもが高校・大学生の人

家 族 成 熟 期 : 64 歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人

(生計を別にした子どもがいる人を含む)

高 齢 期 : 65 歳以上の人 (生計を別にした子どもがいる人を含む)

そ の 他 : 40 歳から 64 歳の独身者、子どものいない 40 歳から 64 歳の夫婦など

4 回答者の属性

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 四谷	135	14.9	6 戸塚	102	11.2
2 簗笥町	129	14.2	7 落合第一	89	9.8
3 榎町	83	9.1	8 落合第二	86	9.5
4 若松町	92	10.1	9 柏木	62	6.8
5 大久保	94	10.3	10 角筈・区役所	37	4.1
			計	909	100.0%

(2) 性別

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 男性	369	40.6	3 自由回答	2	0.2
2 女性	507	55.8	無回答	31	3.4
			計	909	100.0%

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 18～19 歳	8	0.9	9 55～59 歳	82	9.0
2 20～24 歳	24	2.6	10 60～64 歳	95	10.5
3 25～29 歳	31	3.4	11 65～69 歳	55	6.1
4 30～34 歳	57	6.3	12 70～74 歳	56	6.2
5 35～39 歳	88	9.7	13 75～79 歳	62	6.8
6 40～44 歳	64	7.0	14 80 歳以上	69	7.6
7 45～49 歳	89	9.8	無回答	17	1.9
8 50～54 歳	112	12.3	計	909	100.0%

(4) 職業

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 会社員・団体職員	347	38.2	5 学生	24	2.6
2 会社役員・団体役員	50	5.5	6 専業主婦・主夫	78	8.6
3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など	159	17.5	7 無職	128	14.1
4 自営業、自由業	93	10.2	8 その他	10	1.1
			無回答	20	2.2
			計	909	100.0%

(5) 職場や学校の所在地

選択肢	回答数	割合 (%)
1 新宿区内	244	36.3
2 新宿区外	422	62.7
無回答	7	1.0
計	673	100.0%

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 子	329	36.2	6 兄弟姉妹	30	3.3
2 妻または夫	528	58.1	7 その他	31	3.4
3 親	95	10.5	8 ひとり暮らし	202	22.2
4 祖父母	9	1.0	無回答	23	2.5
5 孫	10	1.1	回答総計	1257	138.3%
			計	909	100.0%

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 1人	328	48.0	4 4人	38	5.6
2 2人	174	25.5	5 5人以上	13	1.9
3 3人	122	17.9	不明	8	1.2
			計	683	100.0%

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 一番上の子が小学校入学前	50	15.2	4 一番上の子が学校を卒業	98	29.8
2 一番上の子が小・中学生	94	28.6	無回答	15	4.6
3 一番上の子が高・大学生	72	21.9	計	329	100.0%

(9) 新宿区での居住年数

選択肢		回答数	割合 (%)	選択肢		回答数	割合 (%)
1	1 年未満	0	0.0	5	10 年以上 20 年未満	203	22.3
2	1 年以上 3 年未満	90	9.9	6	20 年以上 30 年未満	150	16.5
3	3 年以上 5 年未満	64	7.0	7	30 年以上	260	28.6
4	5 年以上 10 年未満	120	13.2		無回答	22	2.4
				計		909	100.0%

(10) 住居形態

選択肢		回答数	割合 (%)
一戸建て	1 持ち家の一戸建て	214	23.5
	2 賃貸の一戸建て	18	2.0
	3 社宅・公務員官舎の一戸建て	4	0.4
	4 その他	6	0.7
集合住宅	5 分譲マンション・アパート（自己所有のものを含む）	333	36.6
	6 賃貸マンション・アパート	263	28.9
	7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	4	0.4
	8 賃貸の都営・区営住宅	32	3.5
	9 社宅・公務員官舎	15	1.7
	10 その他	8	0.9
無回答		12	1.3
計		909	100.0%

(11) ライフステージ

選択肢		回答数	割合 (%)	選択肢		回答数	割合 (%)
1	独身期	117	12.9	5	家族成熟期	53	5.8
2	家族形成期	85	9.4	6	高齢期	242	26.6
3	家族成長前期	93	10.2	7	その他	231	25.4
4	家族成長後期	69	7.6		無回答	19	2.1
				計		909	100.0%

Ⅱ 調査の結果

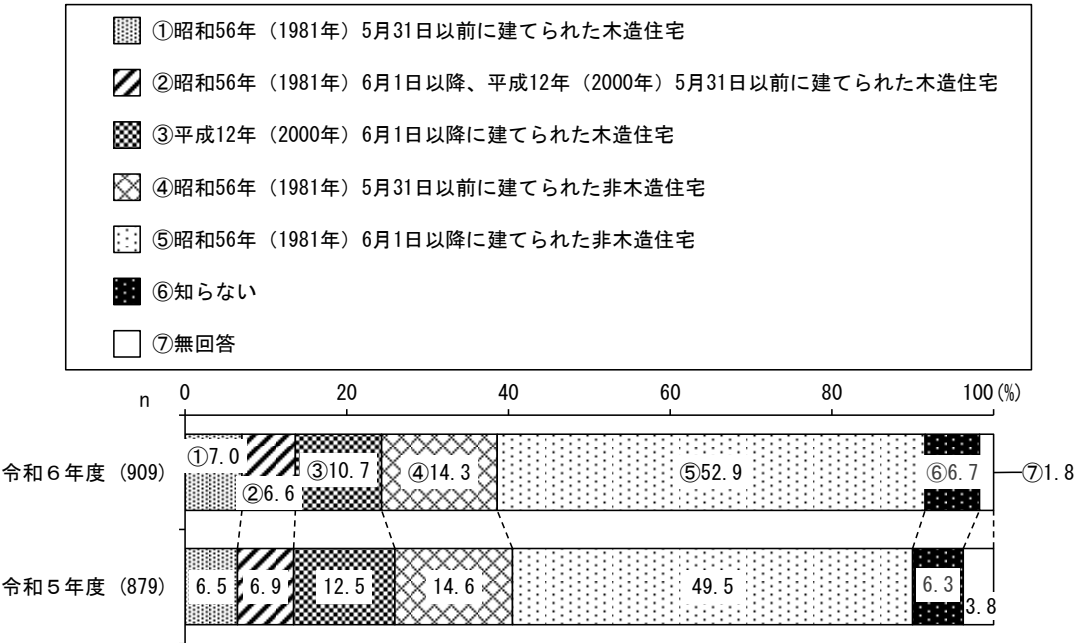
テーマ1 震災に備えて

(1) 家屋の建築年・建築構造

◎《昭和56年（1981年）6月1日以降に建てられた新耐震基準の住宅》が約7割

問1 あなたがお住まいの建物について、教えてください。（○は1つ）		(n=909)
1	昭和56年（1981年）5月31日以前に建てられた木造住宅	7.0%
2	昭和56年（1981年）6月1日以降、平成12年（2000年）5月31日以前に建てられた木造住宅	6.6
3	平成12年（2000年）6月1日以降に建てられた木造住宅	10.7
4	昭和56年（1981年）5月31日以前に建てられた非木造住宅	14.3
5	昭和56年（1981年）6月1日以降に建てられた非木造住宅	52.9
6	知らない	6.7
	無回答	1.8

図1－1 家屋の建築年・建築構造



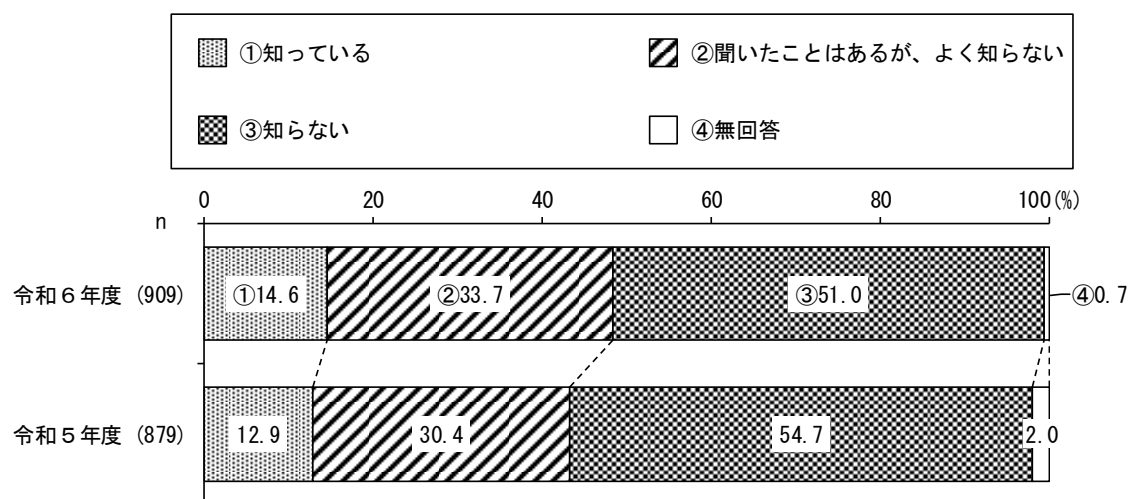
家屋の建築年・建築構造について、「昭和56年（1981年）6月1日以降に建てられた非木造住宅」（52.9%）が5割強となっている。一方、「昭和56年（1981年）6月1日以降に建てられた木造住宅」（「昭和56年（1981年）6月1日以降、平成12年（2000年）5月31日以前に建てられた木造住宅」＋「平成12年（2000年）6月1日以降に建てられた木造住宅」）（17.3%）が1割台半ばを超えている。また、「昭和56年（1981年）6月1日以降に建てられた新耐震基準の住宅」（「昭和56年（1981年）6月1日以降、平成12年（2000年）5月31日以前に建てられた木造住宅」＋「平成12年（2000年）6月1日以降に建てられた木造住宅」＋「昭和56年（1981年）6月1日以降に建てられた非木造住宅」）（70.2%）が約7割となっている。（図1－1）

（２）「建築物等耐震化支援事業」の認知状況

◎支援事業の認知状況は《知っている》が１割台半ば近く

問２ あなたは区の「建築物等耐震化支援事業」を知っていますか。（○は１つ）	
	(n=909)
１ 知っている	14.6%
２ 聞いたことはあるが、よく知らない	33.7
３ 知らない	51.0
無回答	0.7

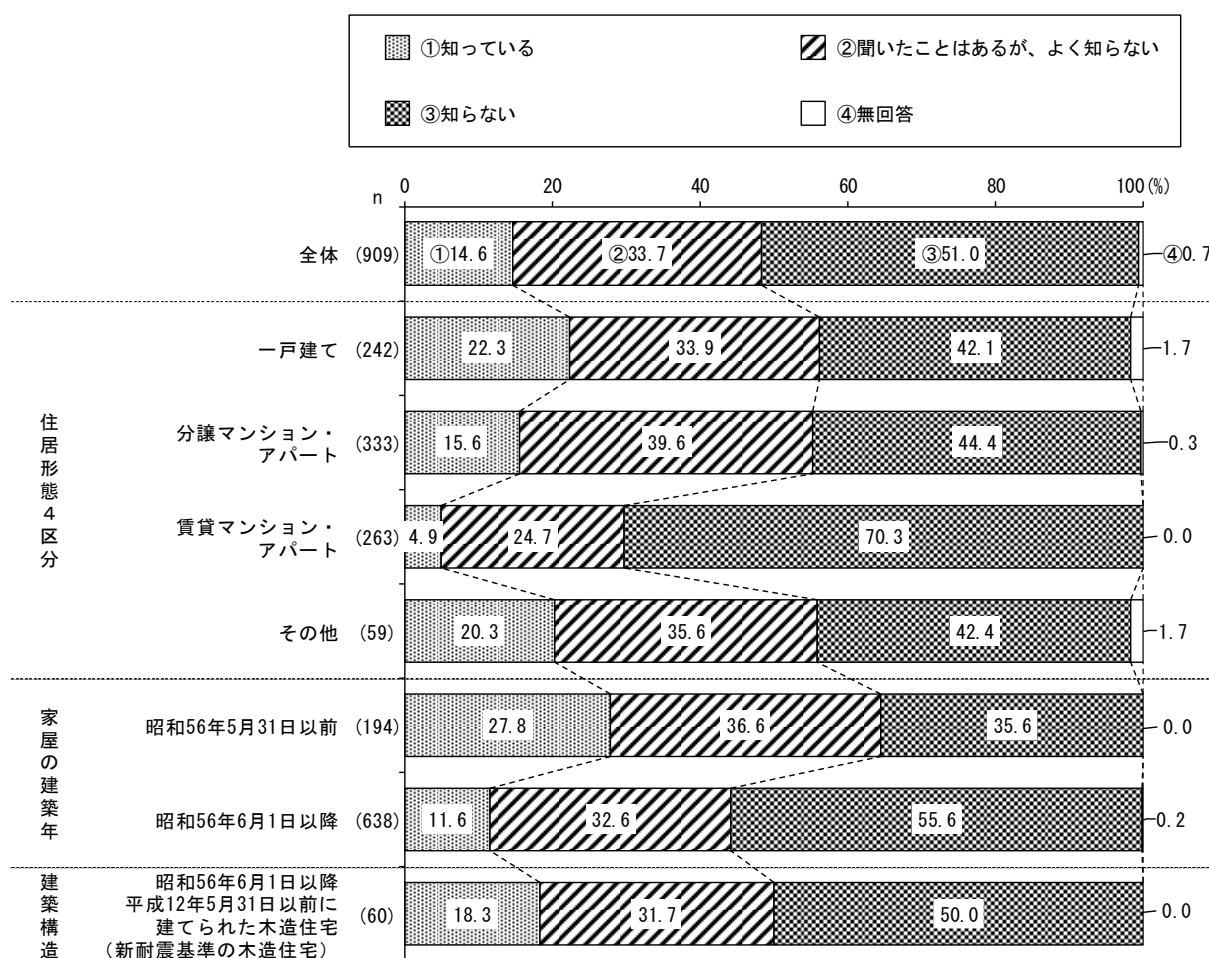
図１－２－１ 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
（経年推移）



「建築物等耐震化支援事業」の認知状況について、「知っている」（14.6％）が１割台半ば近く、「聞いたことはあるが、よく知らない」（33.7％）が３割台半ば近く、「知らない」（51.0％）が５割強となっている。

前回の調査結果（令和５年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「知らない」（51.0％）が前回（54.7％）より 3.7 ポイント低くなっている。（図１－２－１）

図 1-2-2 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
(住居形態別 4 区分／家屋の建築年・建築構造)



住居形態別 4 区分でみると、「知っている」は、一戸建て (22.3%) が 2 割強と、全体 (14.6%) を 7.7 ポイント上回っている。

建築年別でみると、「知っている」は《昭和 56 年 (1981 年) 5 月 31 日以前》(「昭和 56 年 (1981 年) 5 月 31 日以前に建てられた木造住宅」+「昭和 56 年 (1981 年) 5 月 31 日以前に建てられた非木造住宅」) (27.8%) が 2 割台半ばを超え、全体 (14.6%) を 13.2 ポイント上回っている。また、昭和 56 年 (1981 年) 6 月 1 日以降、平成 12 年 (2000 年) 5 月 31 日以前に建てられた木造住宅 (新耐震基準の木造住宅) では、「知っている」(18.3%) が 2 割近くと、全体 (14.6%) を 3.7 ポイント上回っている。

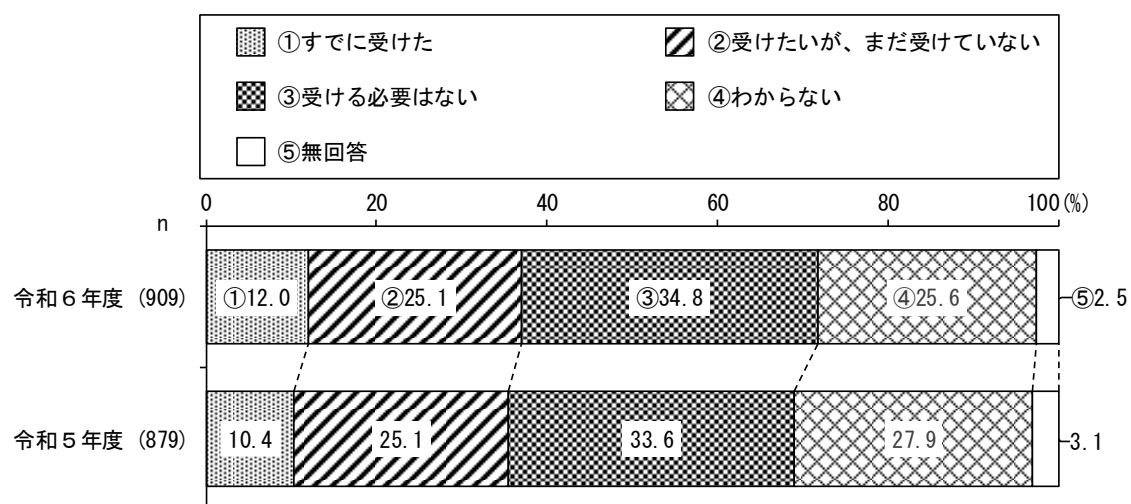
(図 1-2-2)

（３）耐震診断の意向

◎耐震診断を「受ける必要はない」が３割台半ば近く

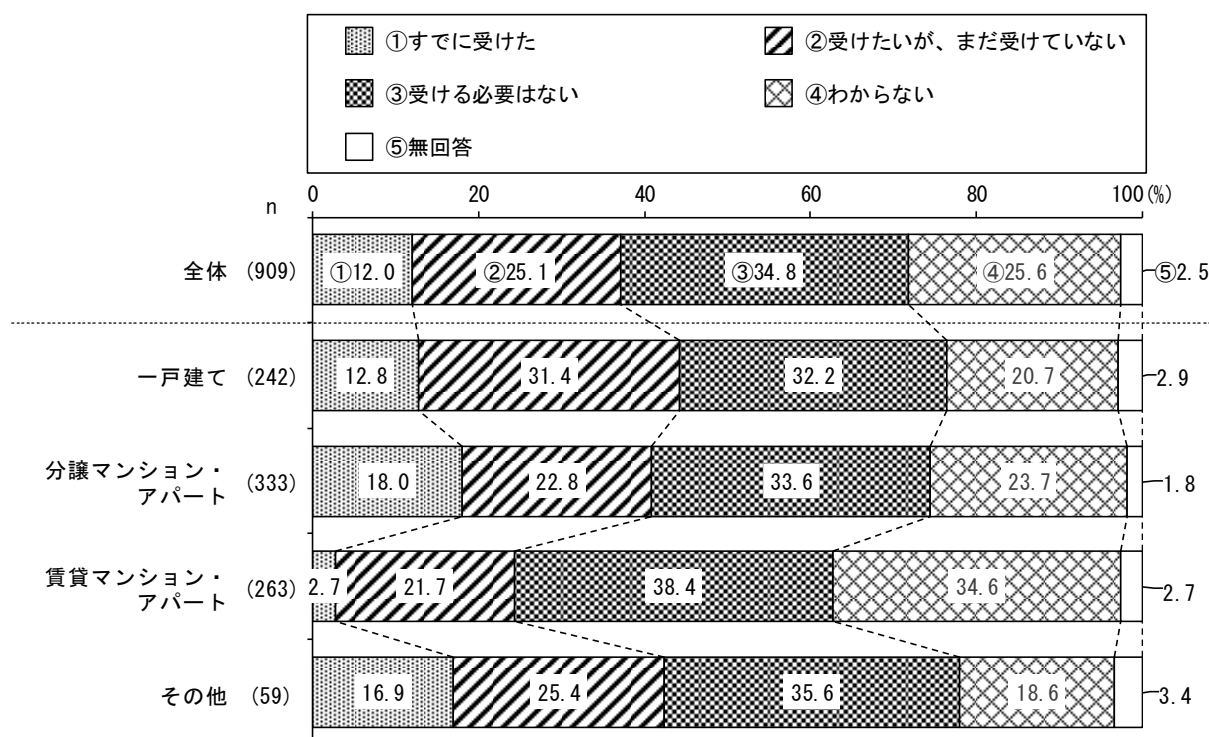
問３ あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。（○は１つ）	
	(n=909)
１ すでに受けた	12.0%
２ 受けたいが、まだ受けていない	25.1
３ 受ける必要はない	34.8
４ わからない	25.6
無回答	2.5

図１－３－１ 耐震診断の意向
（経年推移）



耐震診断の意向について、「すでに受けた」（12.0%）が１割強、「受けたいが、まだ受けていない」（25.1%）が２割台半ばとなっている。一方、「受ける必要はない」（34.8%）が３割台半ば近くとなっている。（図１－３－１）

図 1-3-2 耐震診断の意向
(住居形態別 4 区分)



住居形態別 4 区分でみると、「受けたいが、まだ受けていない」は、一戸建て (31.4%) が 3 割強と、全体 (25.1%) を 6.3 ポイント上回っている。

「すでに受けた」は、分譲マンション・アパート (18.0%) が 2 割近くと、全体 (12.0%) を 6.0 ポイント上回っている。(図 1-3-2)

（４）耐震診断を受けない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が５割強

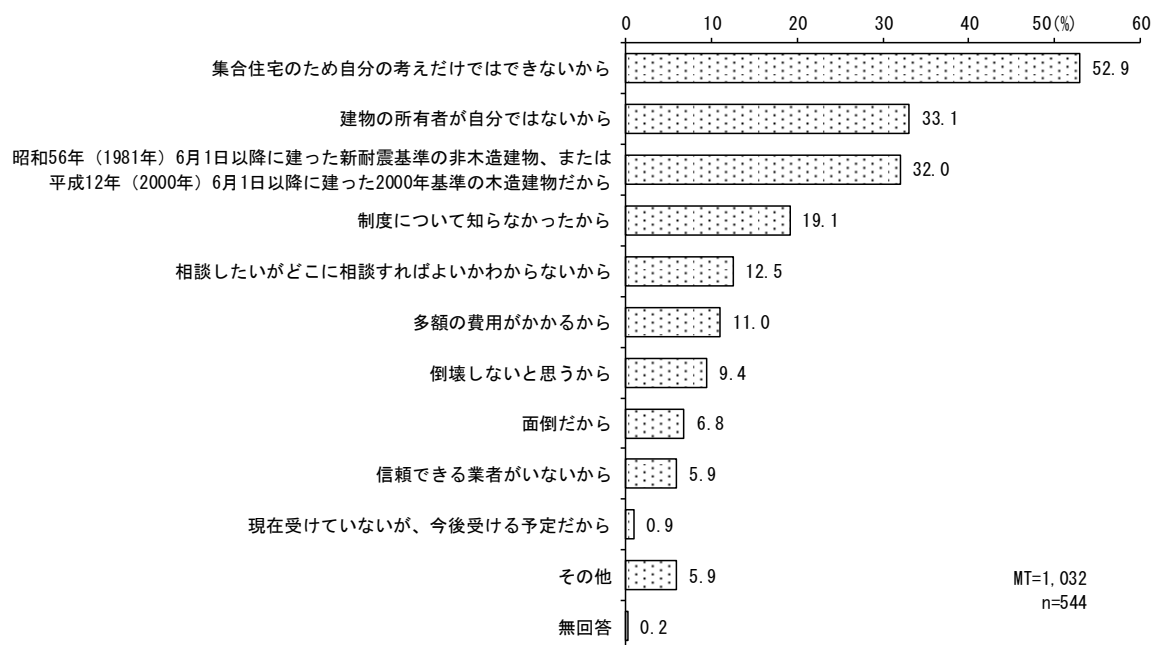
問３－１ 問３で、「２」または「３」に○をした方にお伺いします。

耐震診断を受けていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

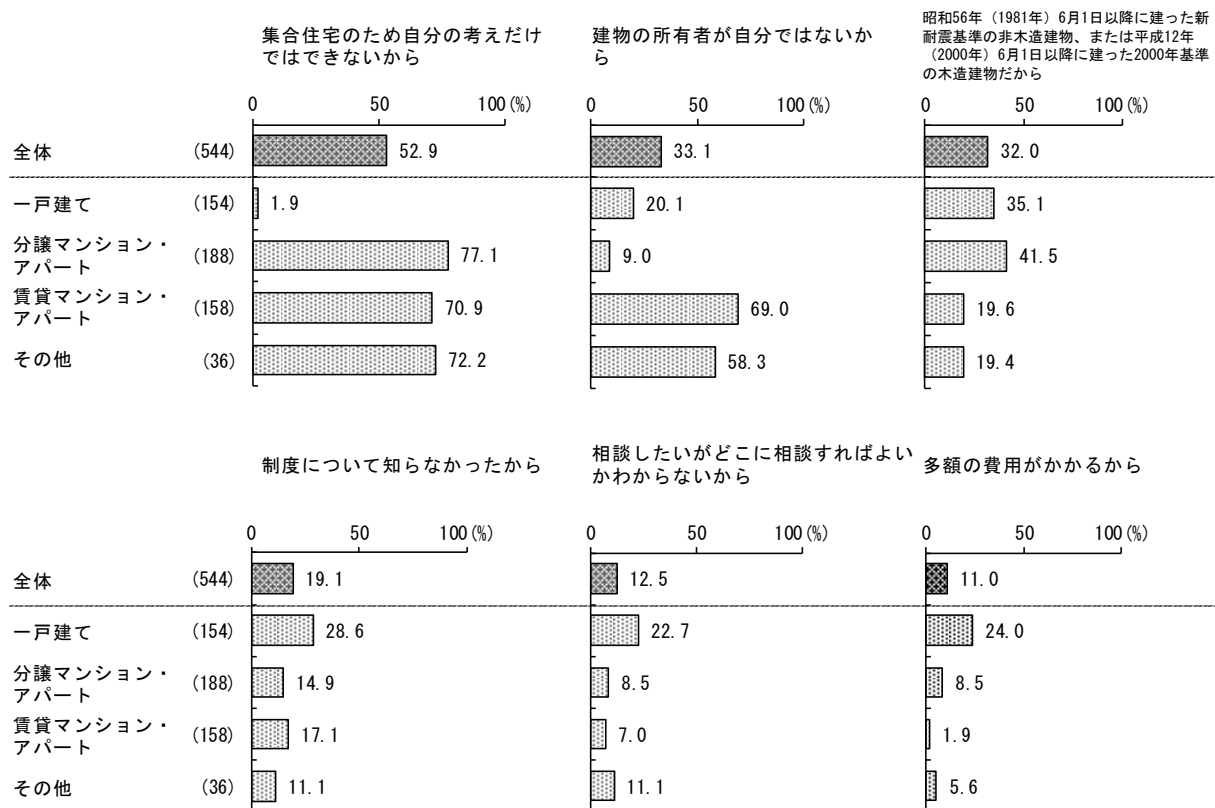
	(n=544)
１ 現在受けていないが、今後受ける予定だから	0.9%
２ 制度について知らなかったから	19.1
３ 集合住宅のため自分の考えだけではできないから	52.9
４ 建物の所有者が自分ではないから	33.1
５ 昭和 56 年（1981 年）6 月 1 日以降に建った新耐震基準の非木造建物、または平成 12 年（2000 年）6 月 1 日以降に建った 2000 年基準の木造建物だから	32.0
６ 多額の費用がかかるから	11.0
７ 倒壊しないと思うから	9.4
８ 信頼できる業者がないから	5.9
９ 相談したいがどこに相談すればよいかわからないから	12.5
10 面倒だから	6.8
11 その他	5.9
無回答	0.2

図 1－4－1 耐震診断を受けない理由



耐震診断を受けない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」（52.9%）が５割強で最も高く、次いで「建物の所有者が自分ではないから」（33.1%）が３割台半ば近く、「昭和 56 年（1981 年）6 月 1 日以降に建った新耐震基準の非木造建物、または平成 12 年（2000 年）6 月 1 日以降に建った 2000 年基準の木造建物だから」（32.0%）が３割強と続いている。（図 1－4－1）

図 1-4-2 耐震診断を受けない理由
(住居形態別 4 区分) 上位 6 項目



上位 6 項目について、住居形態別 4 区分でみると、「建物の所有者が自分ではないから」は、賃貸マンション・アパート（69.0%）が 7 割弱と、全体（33.1%）を 35.9 ポイント上回っている。

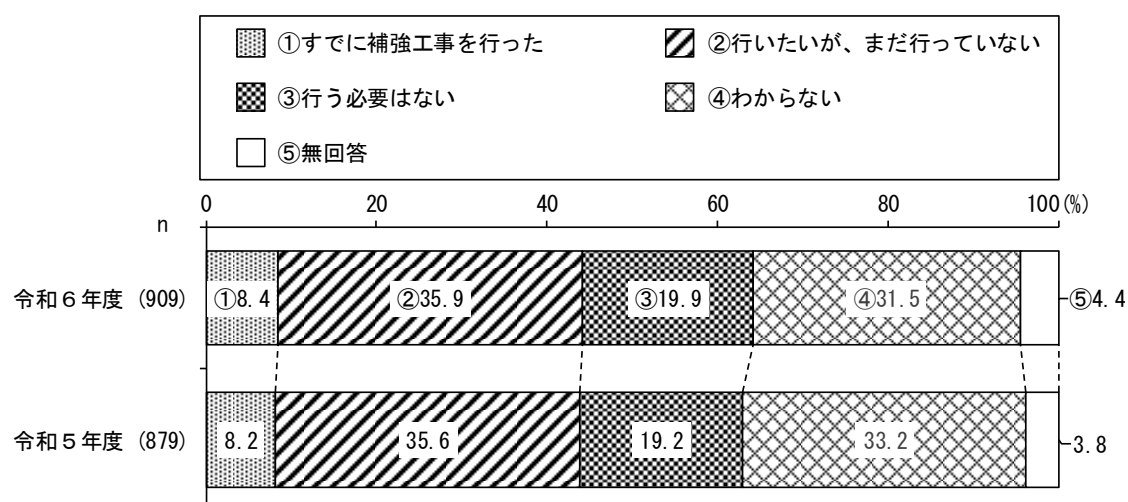
「集合住宅のため自分の考えだけではないから」は、分譲マンション・アパート（77.1%）が 7 割台半ばを超え、全体（52.9%）を 24.2 ポイント上回っている。（図 1-4-2）

（５）耐震補強工事の意向

◎耐震補強工事を「行いたい、まだ行っていない」が３割台半ば

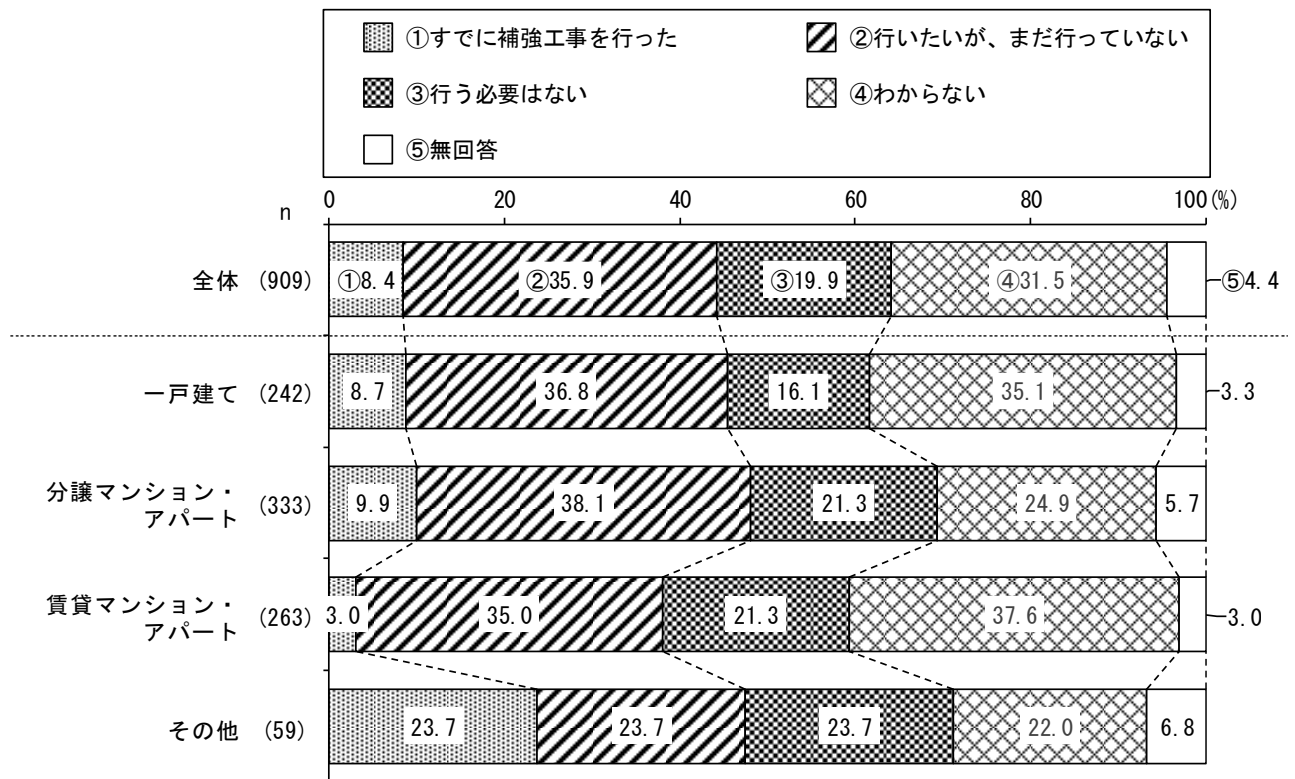
問４ お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。（○は１つ）	
	(n=909)
１ すでに補強工事を行った	8.4%
２ 行いたい、まだ行っていない	35.9
３ 行う必要はない	19.9
４ わからない	31.5
無回答	4.4

図１－５－１ 耐震補強工事の意向
（経年推移）



耐震補強工事の意向について、「行いたい、まだ行っていない」（35.9%）が３割台半ばで最も高く、次いで「わからない」（31.5%）が３割強、「行う必要はない」（19.9%）が２割弱、「すでに補強工事を行った」（8.4%）が１割近くとなっている。（図１－５－１）

図 1－5－2 耐震補強工事の意向
(住居形態別 4 区分)



住居形態別 4 区分でみると、「行いたい、まだ行っていない」は、分譲マンション・アパート (38.1%) が 4 割近くと、全体 (35.9%) を 2.2 ポイント上回っている。(図 1－5－2)

（６）耐震補強工事を行っていない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が５割台半ば

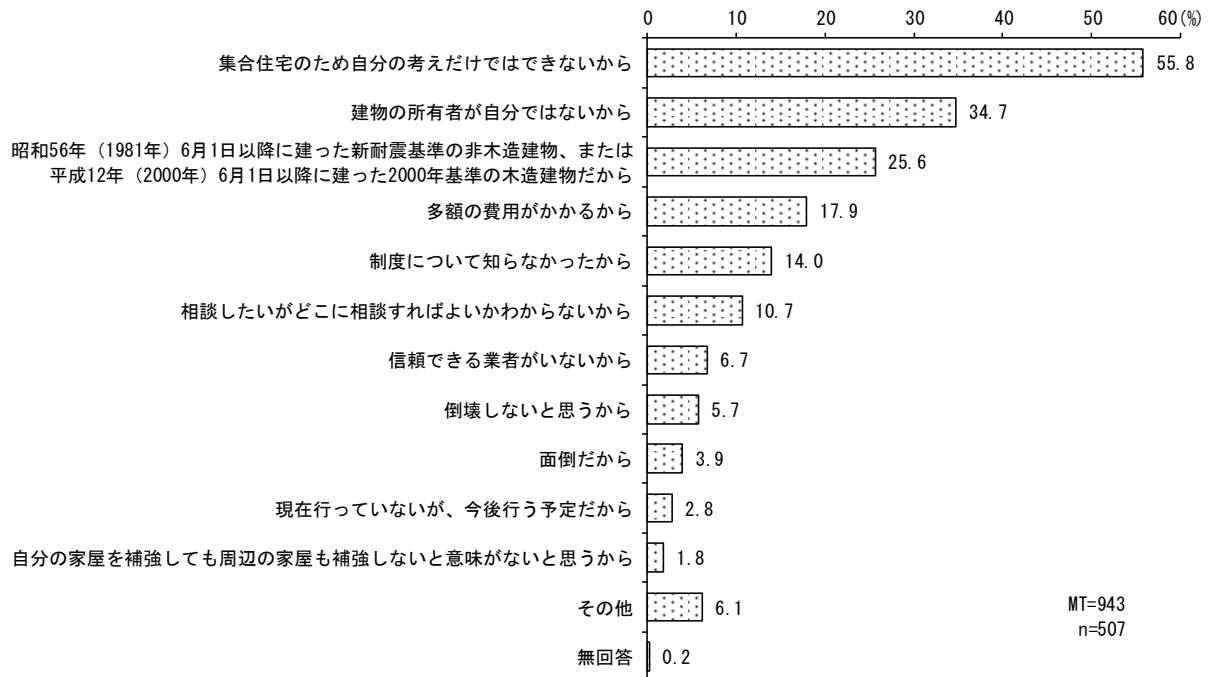
問４－１ 問４で、「２」または「３」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

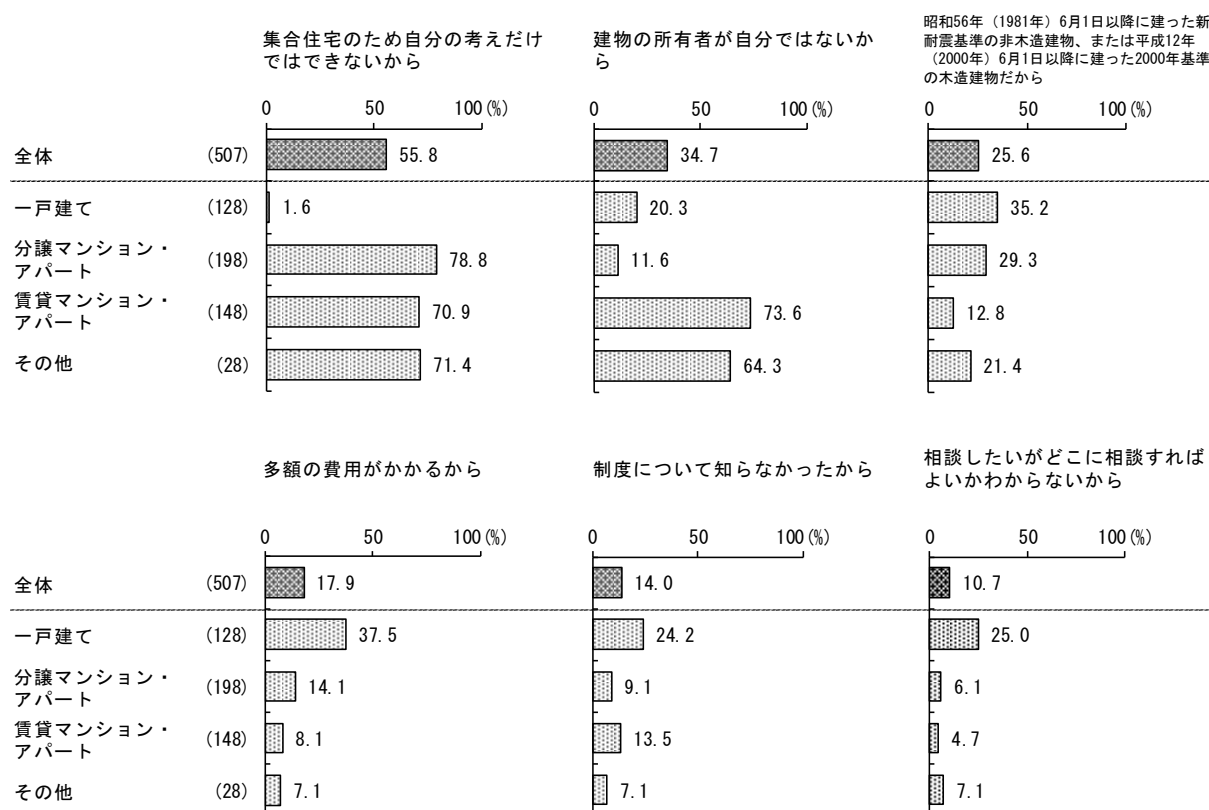
	(n=507)
１ 現在行っていないが、今後行う予定だから	2.8%
２ 制度について知らなかったから	14.0
３ 集合住宅のため自分の考えだけではできないから	55.8
４ 建物の所有者が自分ではないから	34.7
５ 昭和 56 年（1981 年）6 月 1 日以降に建った新耐震基準の非木造建物、または 平成 12 年（2000 年）6 月 1 日以降に建った 2000 年基準の木造建物だから	25.6
６ 多額の費用がかかるから	17.9
７ 倒壊しないと思うから	5.7
８ 信頼できる業者がないから	6.7
９ 相談したいがどこに相談すればよいかわからないから	10.7
10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから	1.8
11 面倒だから	3.9
12 その他	6.1
無回答	0.2

図 1－6－1 耐震補強工事を行っていない理由



耐震補強工事を行っていない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」（55.8%）が5割台半ばで最も高く、次いで「建物の所有者が自分ではないから」（34.7%）が3割台半ば近く、「昭和56年（1981年）6月1日以降に建った新耐震基準の非木造建物、または平成12年（2000年）6月1日以降に建った2000年基準の木造建物だから」（25.6%）が2割台半ばと続いている。（図1－6－1）

図1-6-2 耐震補強工事を行っていない理由
（住居形態別4区分）上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分でみると、「建物の所有者が自分ではないから」は、賃貸マンション・アパート（73.6%）が7割台半ば近くと、全体（34.7%）を38.9ポイント上回っている。

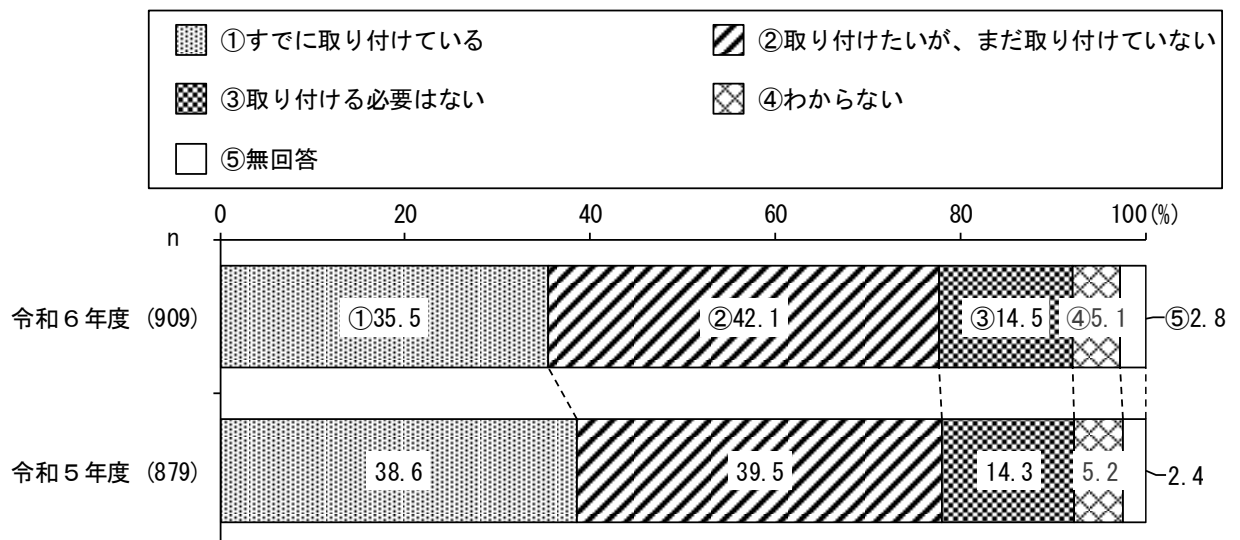
「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」は、分譲マンション・アパート（78.8%）が8割近くと、全体（55.8%）を23.0ポイント上回っている。（図1-6-2）

(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向

◎家具転倒防止器具を「すでに取り付けている」が3割台半ば

問5 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(○は1つ)	
	(n=909)
1 すすでに取り付けている	35.5%
2 取り付けたいが、まだ取り付けしていない	42.1
3 取り付ける必要はない	14.5
4 わからない	5.1
無回答	2.8

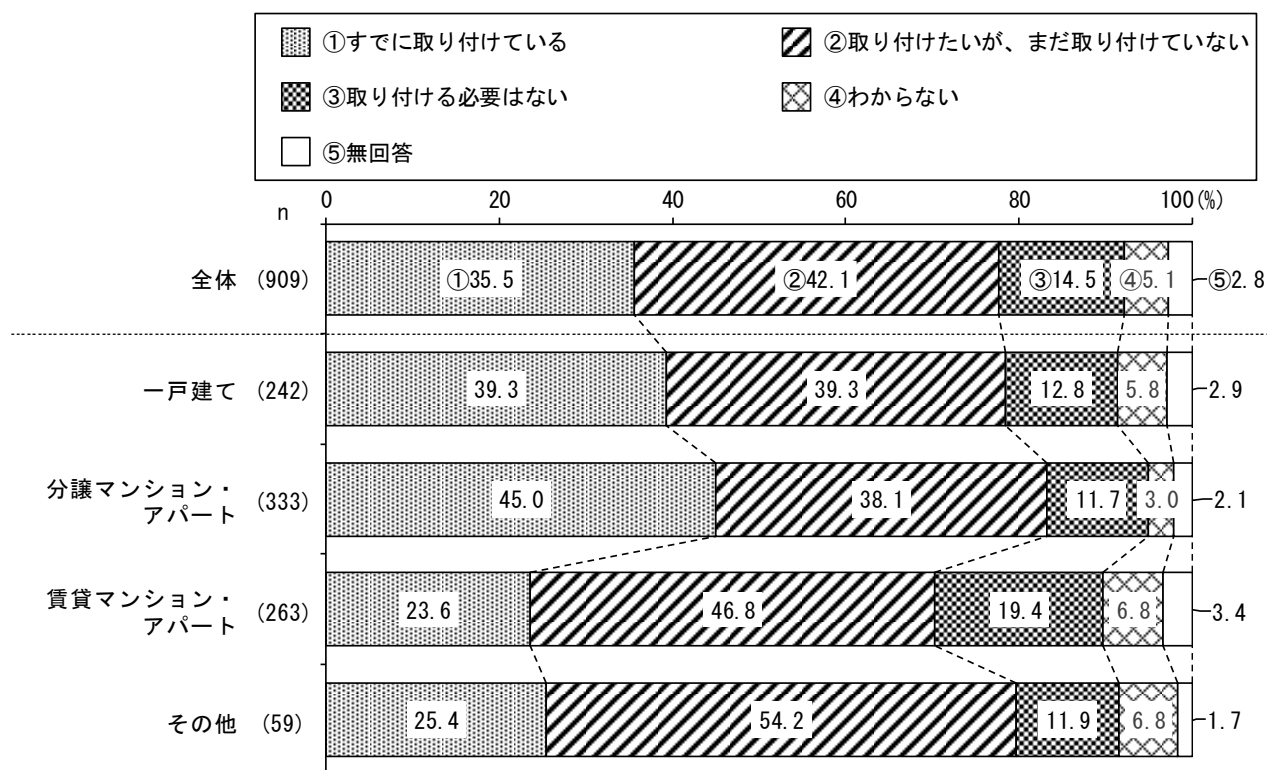
図1-7-1 家具転倒防止器具の取り付けの意向
(経年推移)



家具転倒防止器具の取り付けの意向について、「すでに取り付けている」(35.5%)が3割台半ば、「取り付けたいが、まだ取り付けしていない」(42.1%)が4割強となっている。一方、「取り付ける必要はない」(14.5%)が1割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和5年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「すでに取り付けている」(35.5%)が前回(38.6%)より3.1ポイント低くなっている。(図1-7-1)

図１－７－２ 家具転倒防止器具の取り付けの意向
（住居形態別４区分）



住居形態別４区分でみると、「取り付けたいが、まだ取付けていない」は、賃貸マンション・アパート（46.8%）が４割台半ばを超え、全体（42.1%）を４.7ポイント上回っている。（図１－７－２）

(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由

◎「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」が約3割

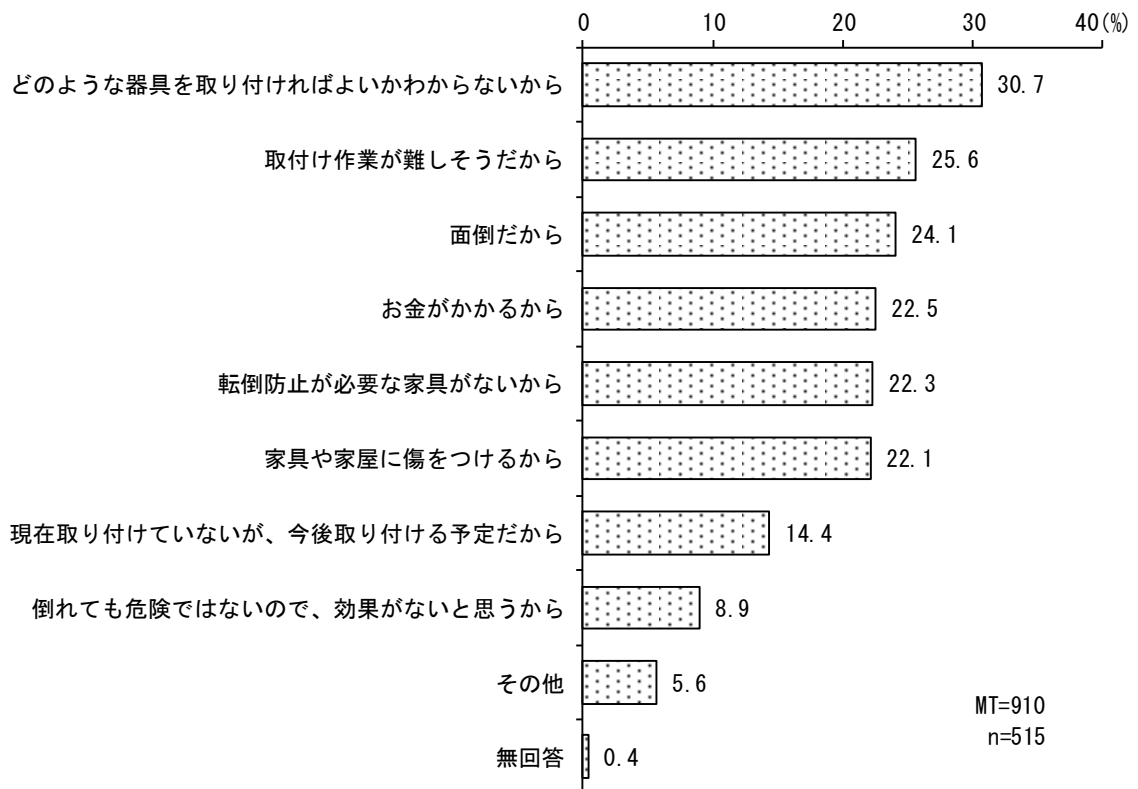
問5-1 問5で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	(n=515)
1 現在取り付けていないが、今後取り付ける予定だから	14.4%
2 どのような器具を取り付ければよいかわからないから	30.7
3 家具や家屋に傷をつけるから	22.1
4 取付け作業が難しそうだから	25.6
5 お金がかかるから	22.5
6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから	8.9
7 面倒だから	24.1
8 転倒防止が必要な家具がないから	22.3
9 その他	5.6
無回答	0.4

図1-8 家具転倒防止器具を取り付けていない理由



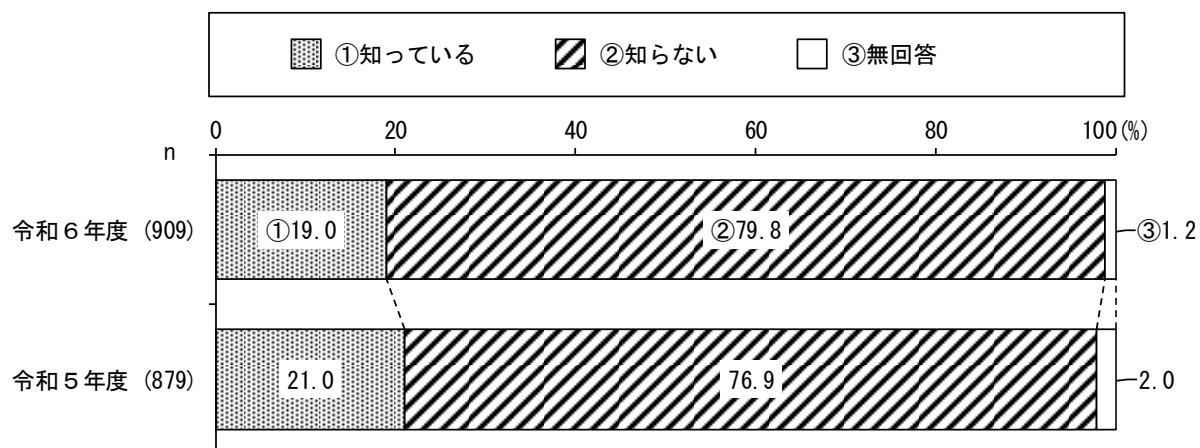
家具転倒防止器具を取り付けていない理由としては、「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」(30.7%)が約3割で最も高く、次いで「取付け作業が難しそうだから」(25.6%)が2割台半ば、「面倒だから」(24.1%)が2割台半ば近くと続いている。(図1-8)

（９）「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況

◎事業を「知らない」が８割弱

問６ あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業（調査費・取付け費無料）を知っていますか。（○は１つ）		(n=909)
１	知っている	19.0%
２	知らない	79.8
	無回答	1.2

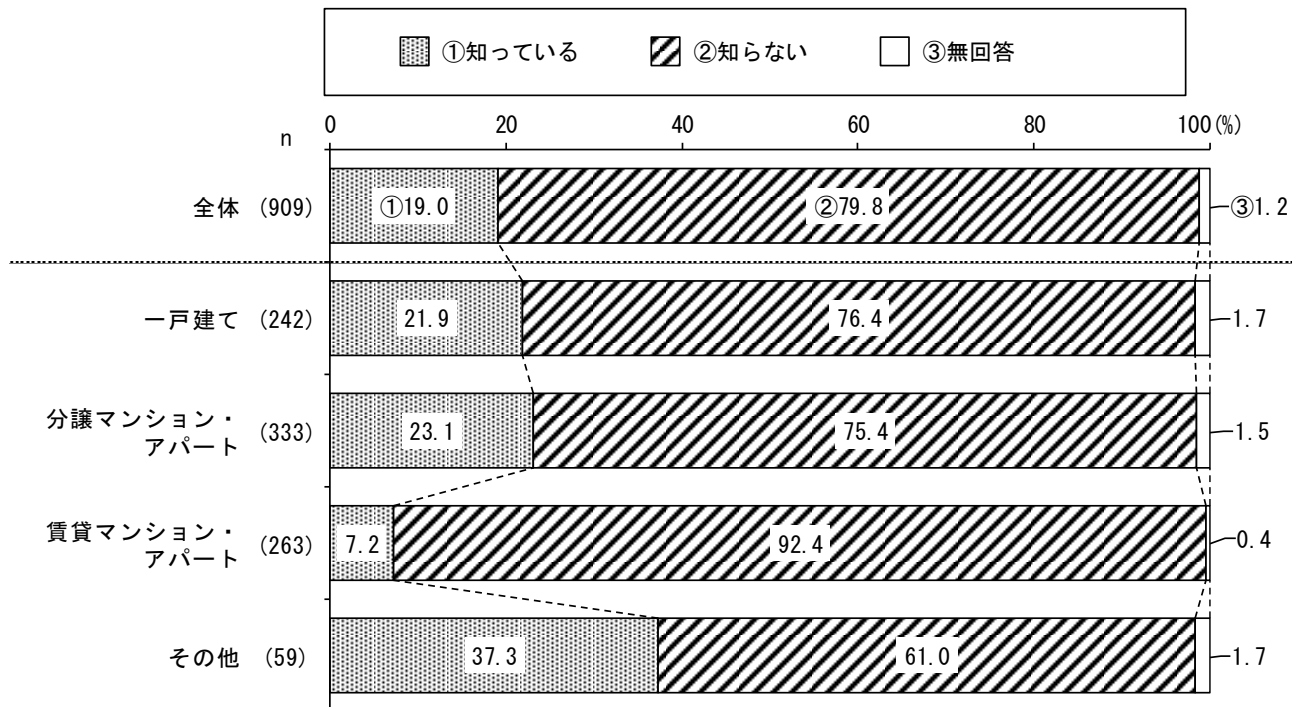
図１－９－１ 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
（経年推移）



「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況について、事業を「知らない」（79.8％）が８割弱となっている。

前回の調査結果（令和５年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「知らない」（79.8％）が前回（76.9％）より 2.9 ポイント高くなっている。（図１－９－１）

図 1－9－2 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
(住居形態別 4 区分)



住居形態別 4 区分でみると、「知らない」は、賃貸マンション・アパート (92.4%) が 9 割強と、全体 (79.8%) を 12.6 ポイント上回っている。(図 1－9－2)

テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて

（１）実際に行っている３Ｒ活動

◎「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」が９割強

問７ 以下の活動（「３Ｒ活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

(n=909)

【リデュース】

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する | 65.5% |
| 2 買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする | 85.6 |
| 3 食品ロスを出さないような取組を行っている | 53.9 |
| 4 使い捨てになるものは、なるべく購入しない | 23.4 |

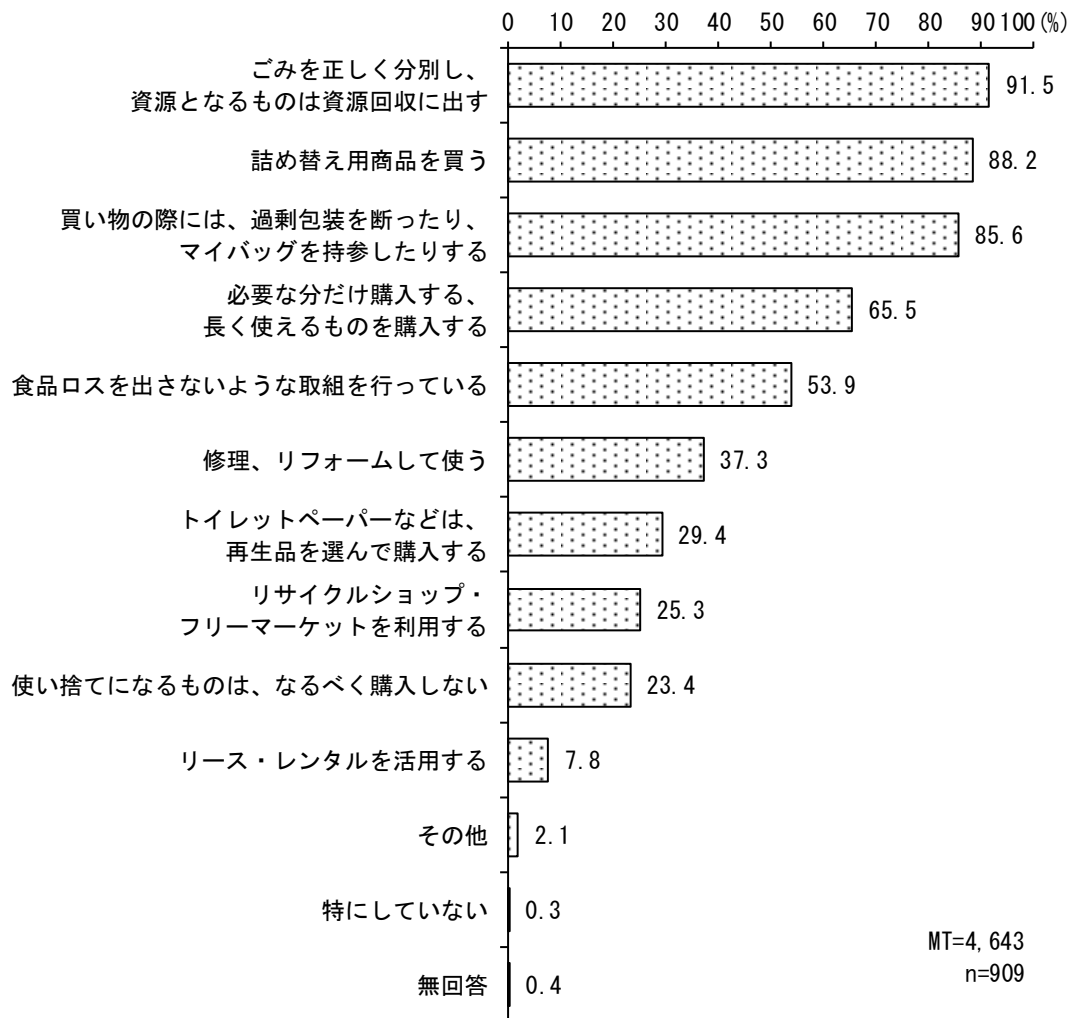
【リユース】

- | | |
|---------------------------|------|
| 5 詰め替え用商品を買う | 88.2 |
| 6 リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する | 25.3 |
| 7 リース・レンタルを活用する | 7.8 |
| 8 修理、リフォームして使う | 37.3 |

【リサイクル】

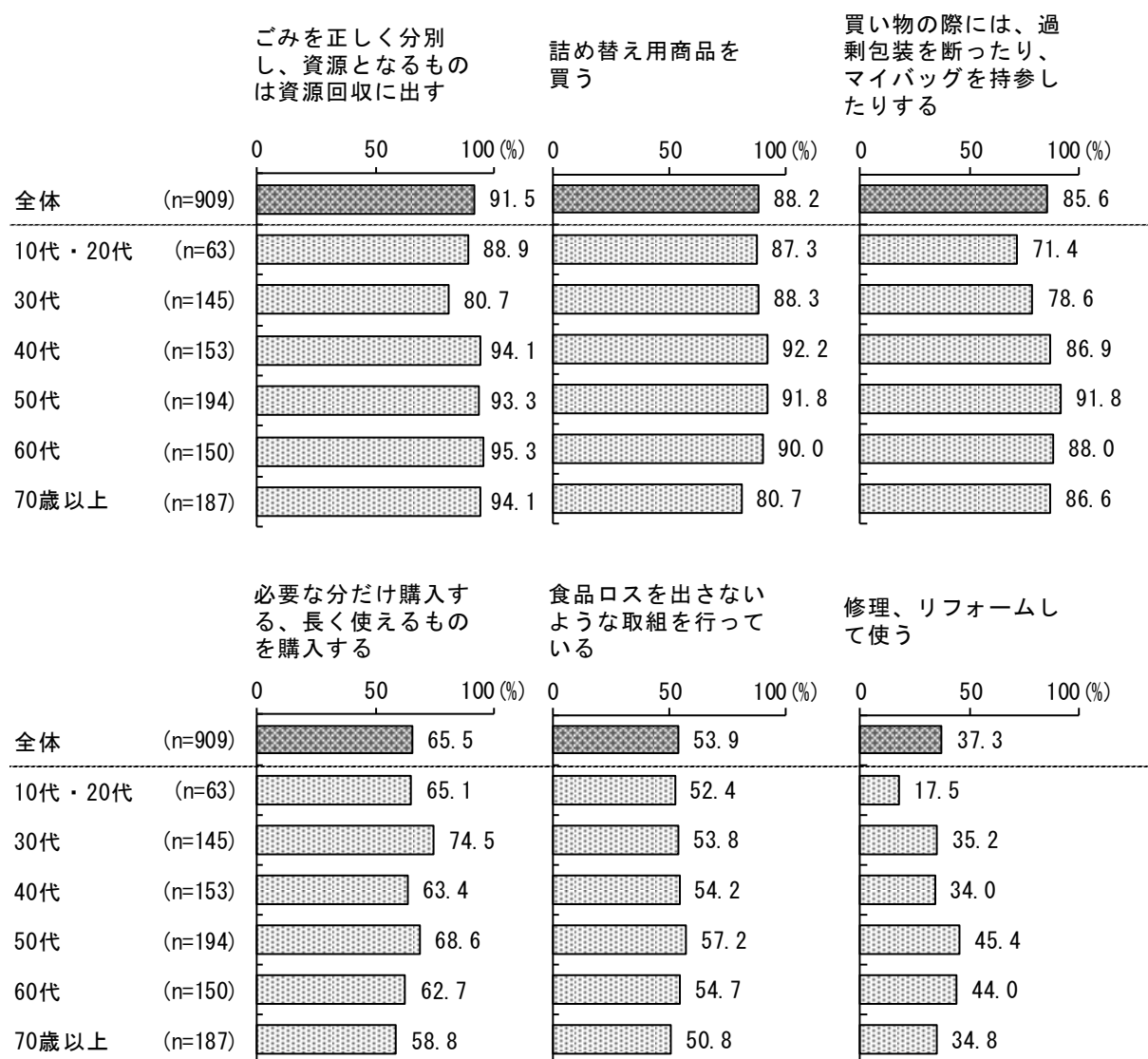
- | | |
|-----------------------------|------|
| 9 ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す | 91.5 |
| 10 トイレットペーパーなどは、再生品を選んで購入する | 29.4 |
| 11 その他 | 2.1 |
| 12 特にしていない | 0.3 |
| 無回答 | 0.4 |

図 2-1-1 実際に行っている 3 R 活動



実際に行っている 3 R 活動について、「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」(91.5%) が 9 割強で最も高く、次いで「詰め替え用商品を買う」(88.2%) が 9 割近く、「買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする」(85.6%) が 8 割台半ばと続いている。(図 2-1-1)

図2-1-2 実際にやっている3R活動
（年代別）上位6項目



上位6項目について、年代別でみると、「必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する」は30代（74.5%）が7割台半ば近くと、全体（65.5%）を9.0ポイント上回っている。

（図2-1-2）

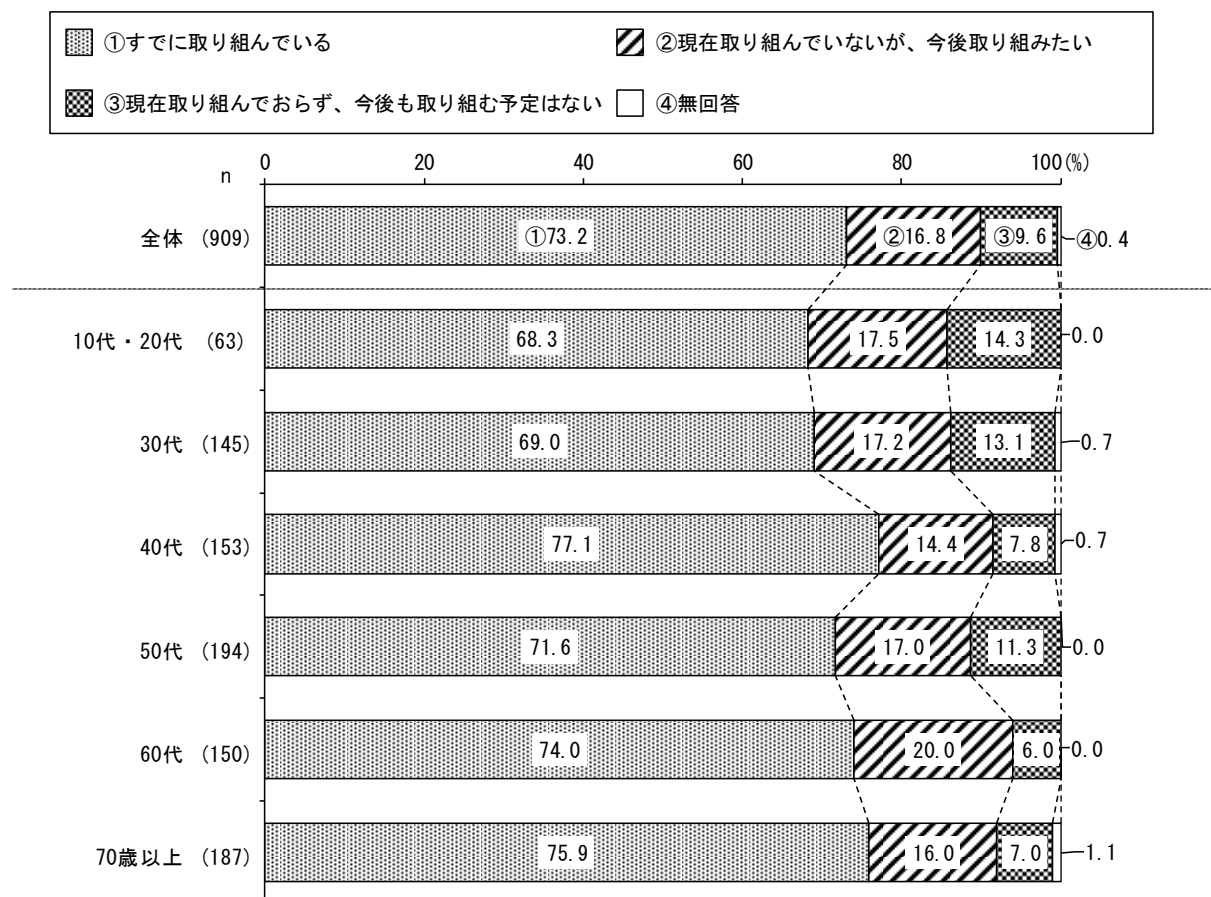
(2) 食品ロスを減らすために、行っていること

◎「すでに取り組んでいる」方が多いのは『家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』が8割台半ば近く

問8 「食品ロス削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。 (ア～ケそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)				
	(n=909)			
	すでに取り組んでいる	現在取り組んでいるが、今後取り組みたい	現在取り組んでおらず、今後取り組み予定はない	無回答
ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	73.2%	16.8%	9.6%	0.4%
イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	55.4	21.2	22.4	0.9
ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	51.6	26.1	21.6	0.8
エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	83.6	11.2	4.3	0.9
オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	51.2	29.3	18.7	0.9
カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	75.0	17.2	6.9	0.9
キ 外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ	83.4	9.9	5.9	0.8
ク フードドライブとして食品を提供する	5.5	41.5	51.8	1.2
ケ フードシェアリングサービスを活用する	1.7	37.7	59.5	1.1

図2-2-1 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

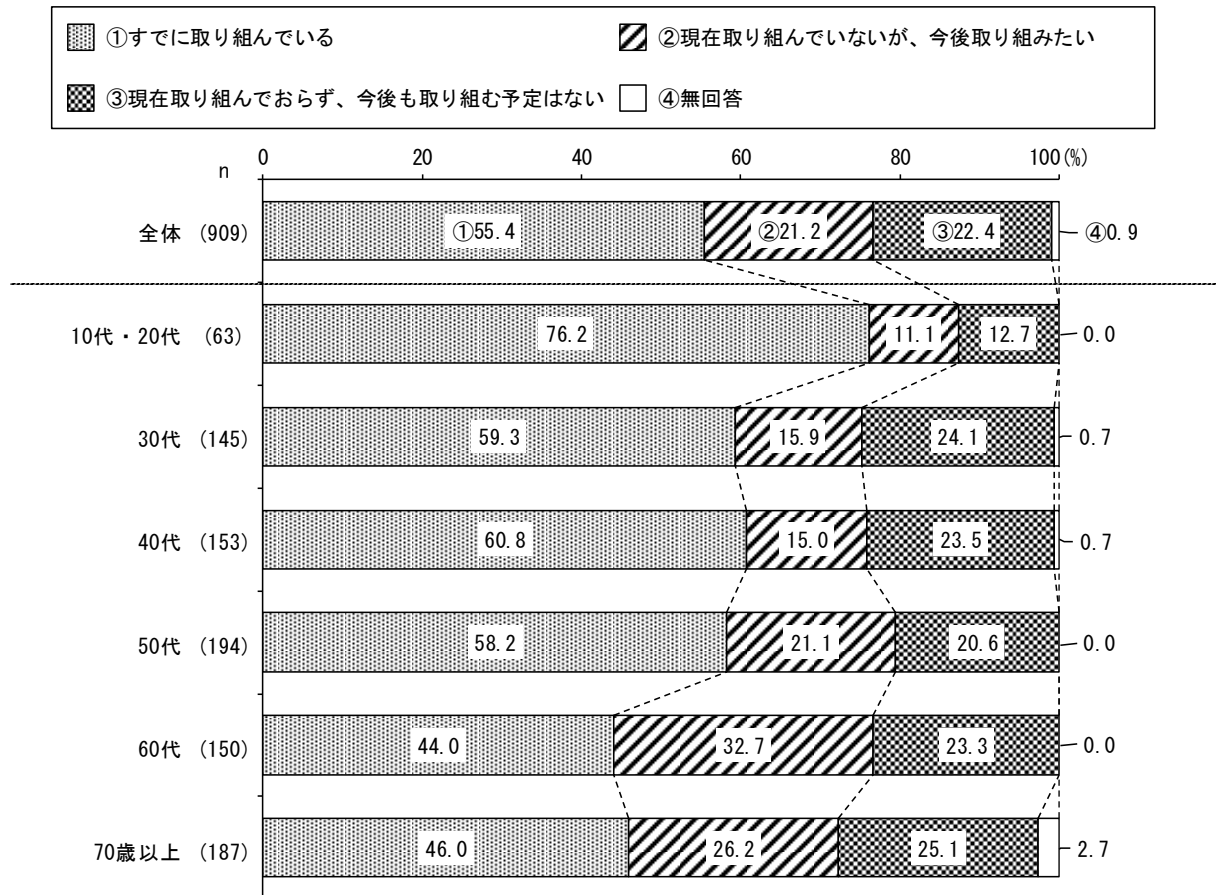
『ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する』



『買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は40代（77.1%）が7割台半ばを超え、全体（73.2%）を3.9ポイント上回っている。（図2-2-1）

図 2-2-2 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

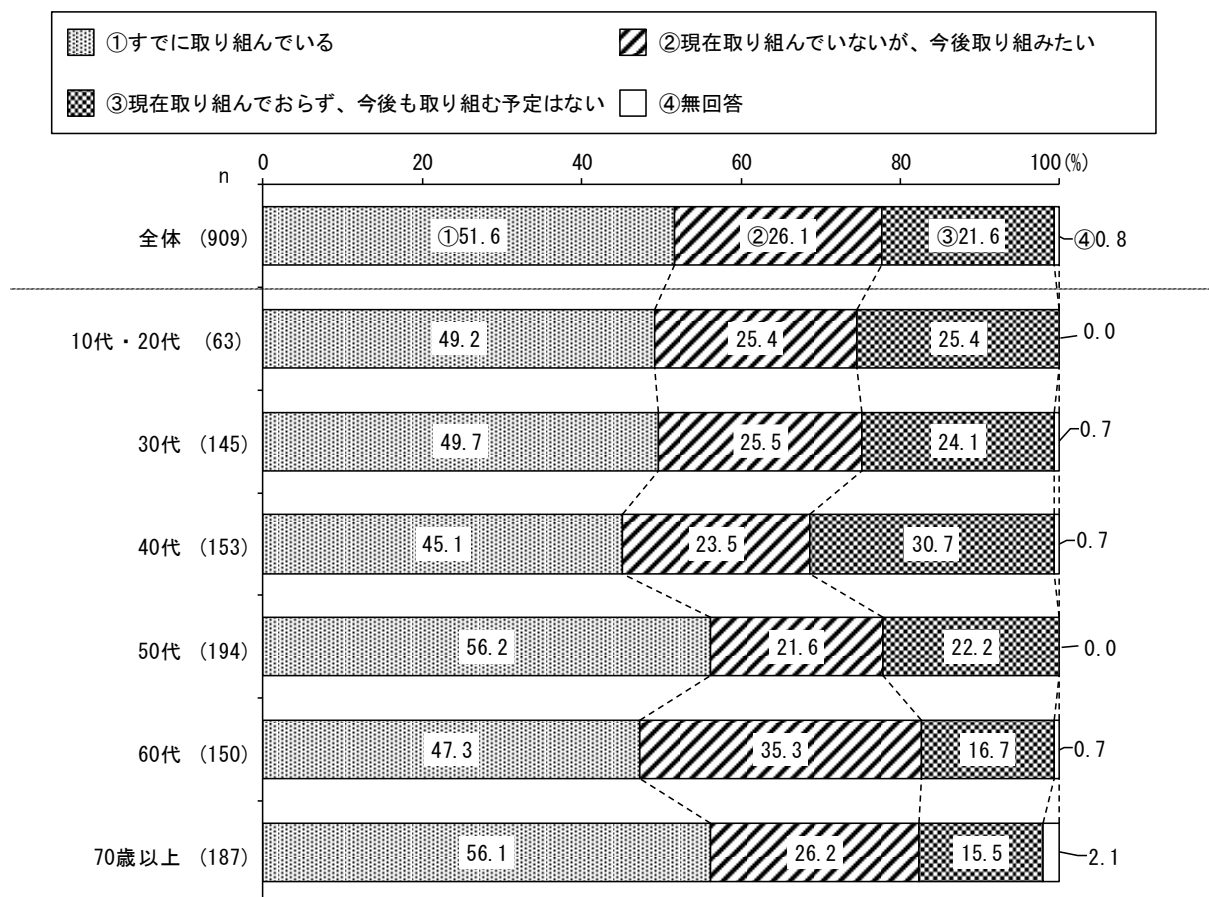
『イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する』



『売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は 10 代・20 代 (76.2%) が 7 割台半ばを超え、全体 (55.4%) を 20.8 ポイント上回っている。(図 2-2-2)

図2-2-3 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

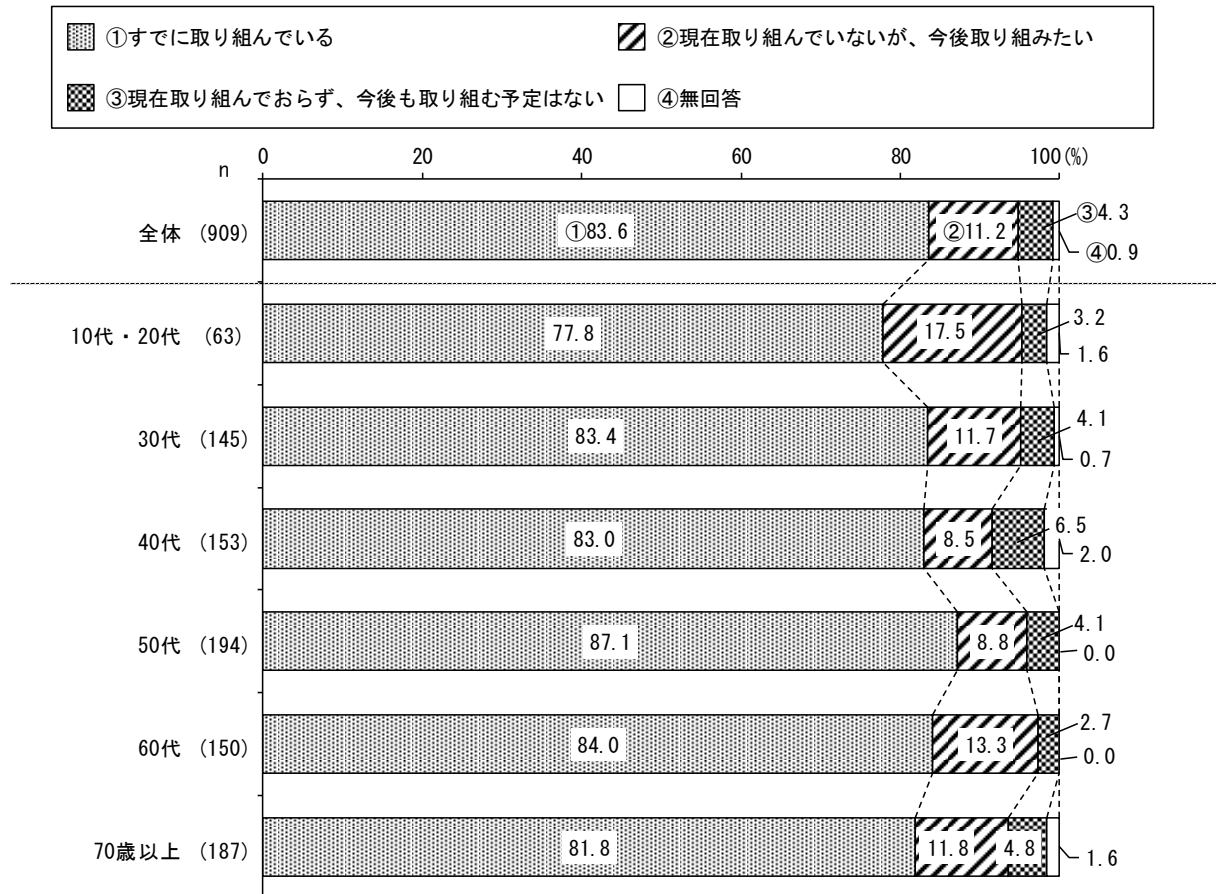
『ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する』



『食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は60代（35.3%）が3割台半ばと、全体（26.1%）を9.2ポイント上回っている。（図2-2-3）

図 2-2-4 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

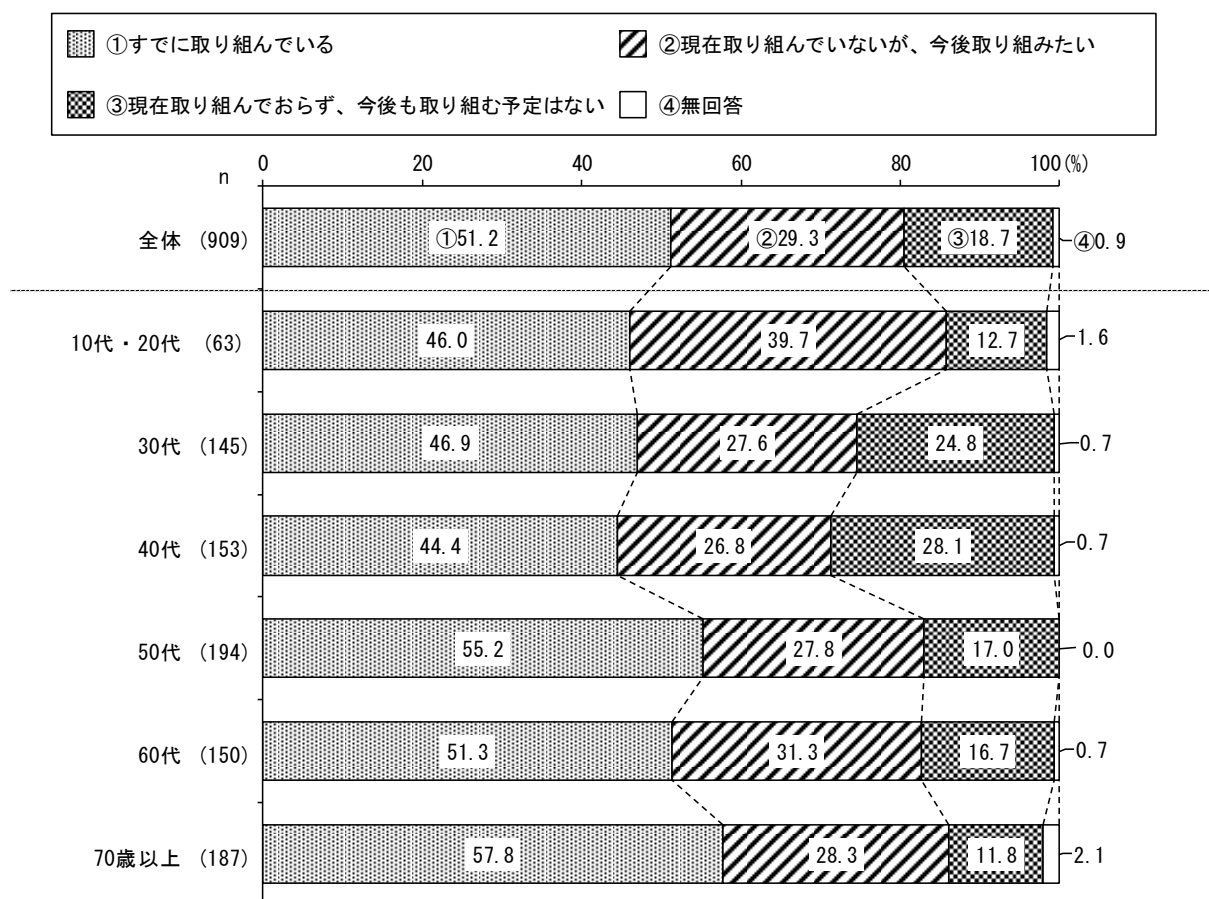
『エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』



『家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（17.5%）が1割台半ばを超え、全体（11.2%）を6.3ポイント上回っている。（図2-2-4）

図2-2-5 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

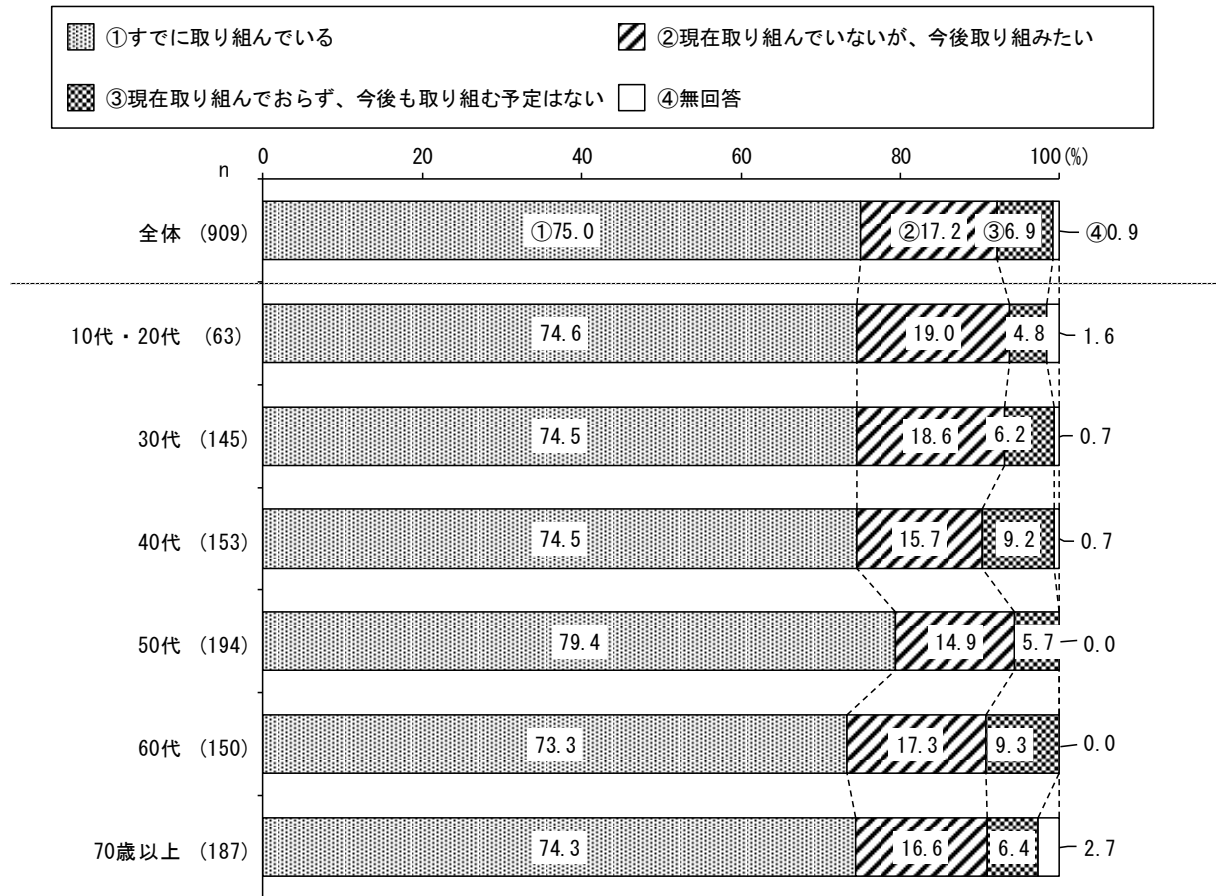
『オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす』



『野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（39.7%）が4割弱と、全体（29.3%）を10.4ポイント上回っている。（図2-2-5）

図 2-2-6 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

『カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する』

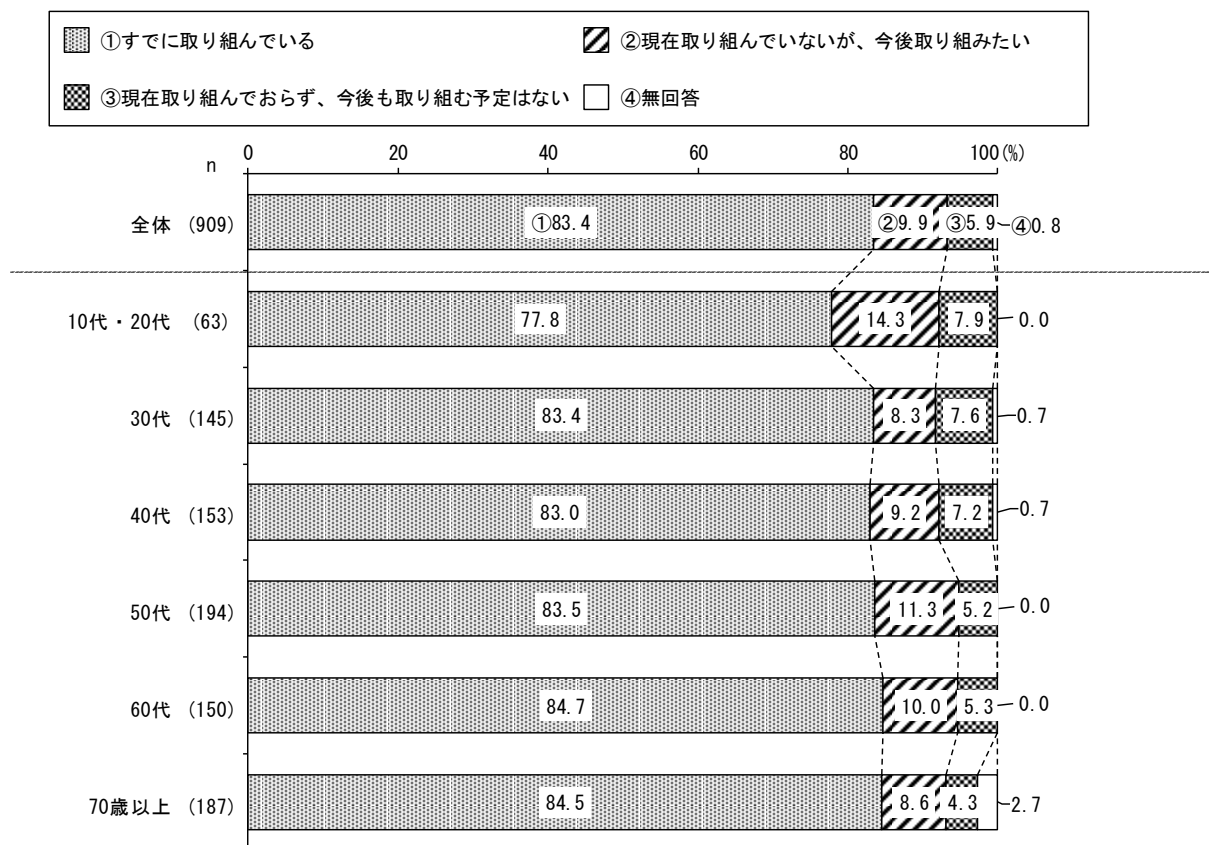


『食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は50代（79.4%）が8割弱と、全体（75.0%）を4.4ポイント上回っている。（図 2-2-6）

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

図2-2-7 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

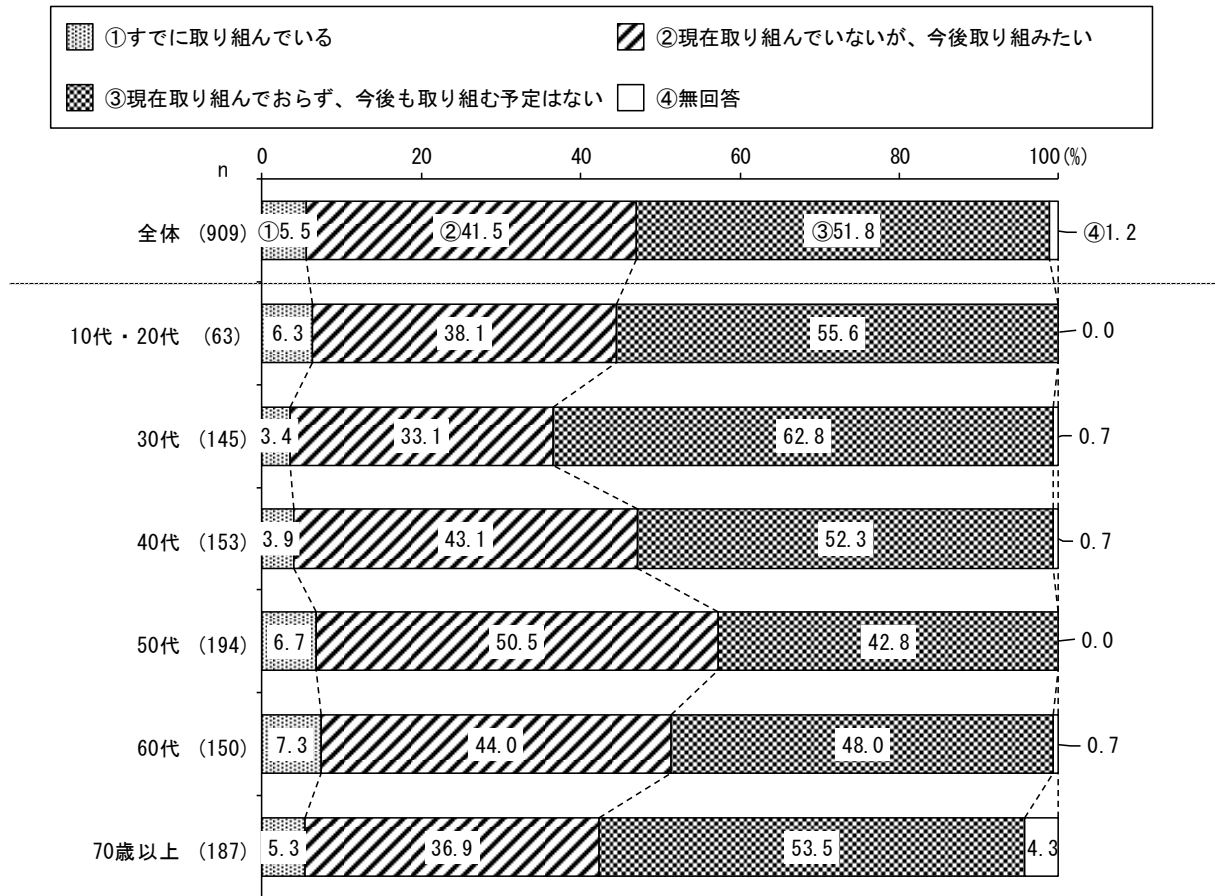
『キ 外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ』



『外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（14.3%）が1割台半ば近くと、全体（9.9%）を4.4ポイント上回っている。（図2-2-7）

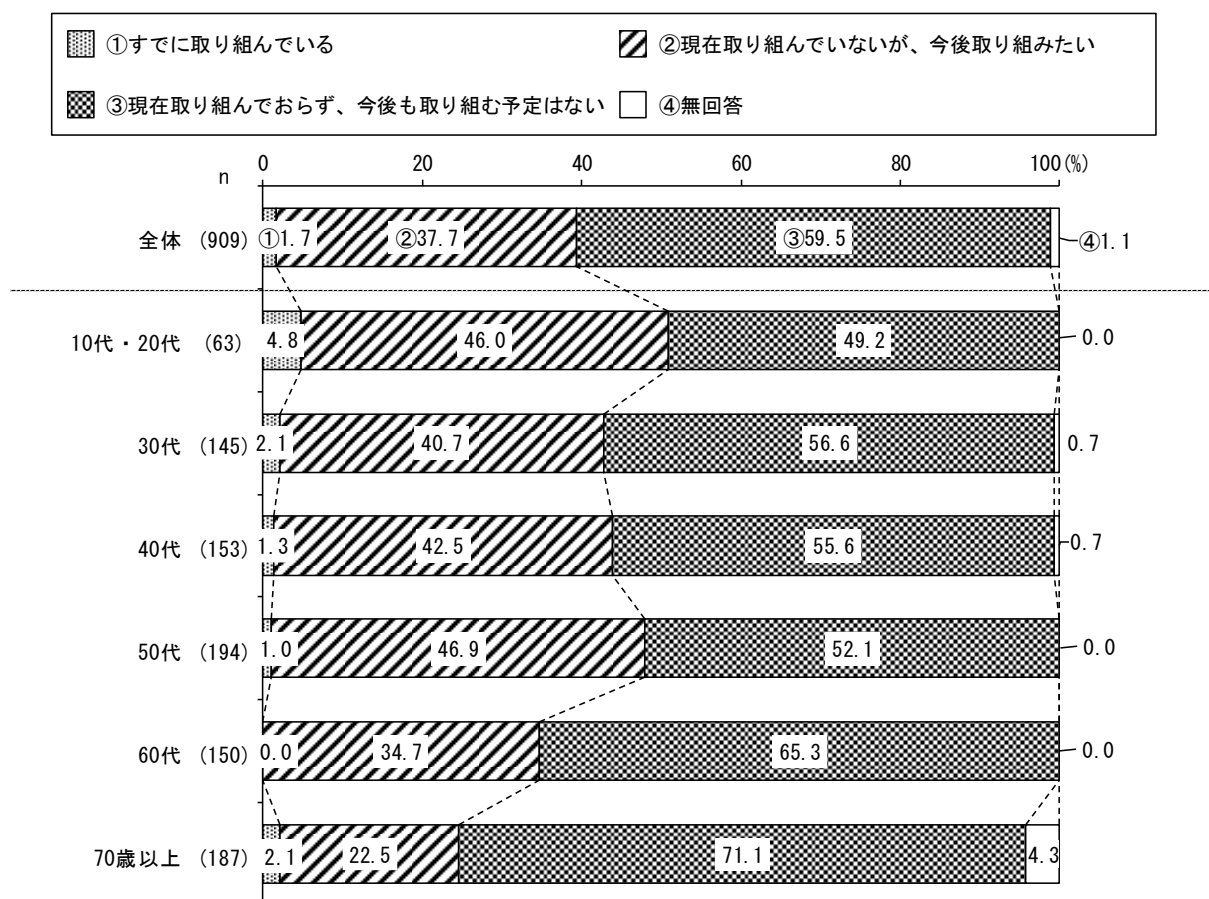
図 2-2-8 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

『ク フードドライブとして食品を提供する』



『フードドライブとして食品を提供する』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は30代（62.8%）が6割強と、全体（51.8%）を11.0ポイント上回っている。（図2-2-8）

図2-2-9 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）
『ケ フードシェアリングサービスを活用する』



『フードシェアリングサービスを活用する』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は70歳以上（71.1%）が7割強と、全体（59.5%）11.6ポイント上回っている。（図2-2-9）

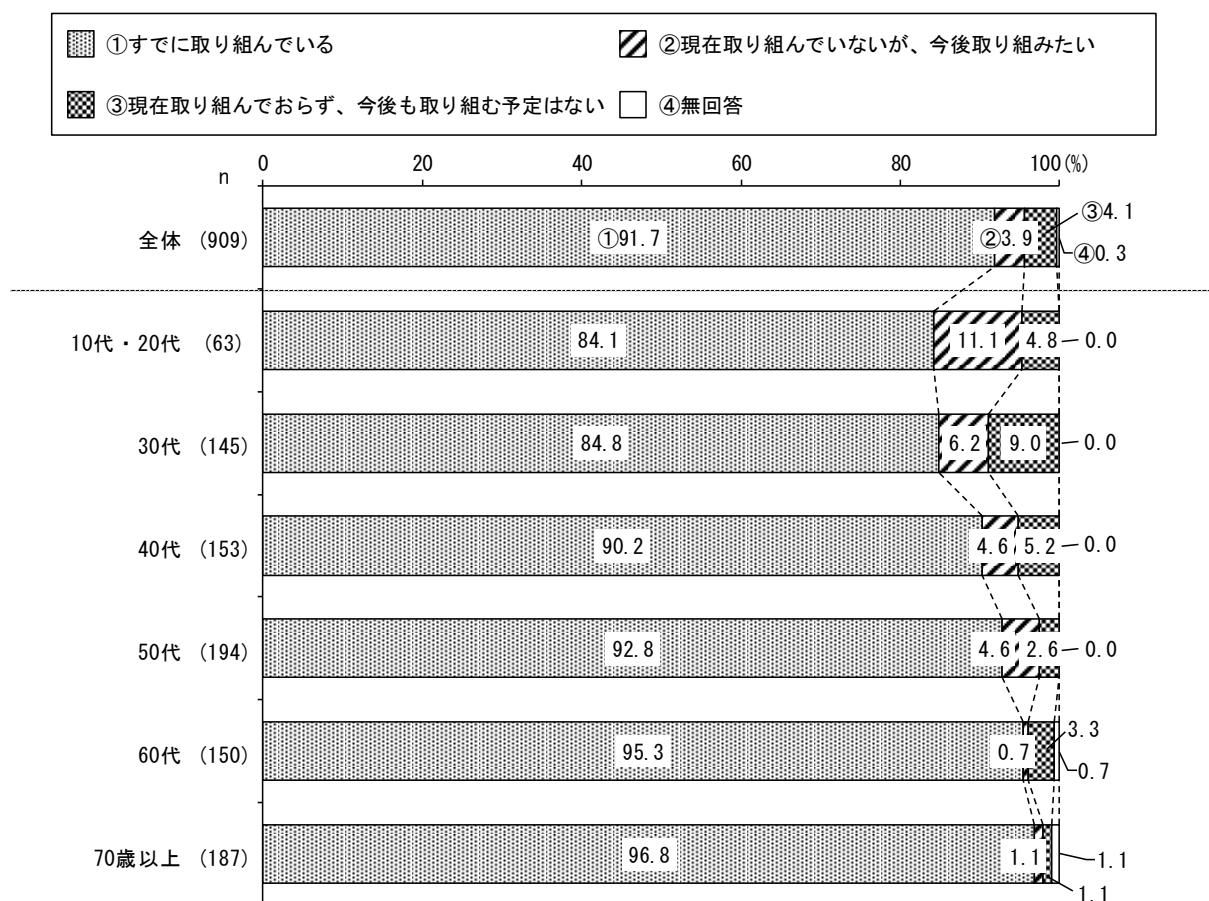
(3) プラスチックごみ削減のために、行っていること

◎「すでに取り組んでいる」方が多いのは『マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』が9割強

問9 「プラスチック使用削減やプラスチックごみ削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。 (ア～カそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)				
	すでに取り組んでいる	今後取り組みたい	現在取り組んでいるが、 後にも取り組む予定はない	現在取り組んでおらず、 後にも取り組む予定はない
無回答				
ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない	91.7%	3.9%	4.1%	0.3%
イ マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトル等）をできる限り使用しない	48.5	28.5	22.3	0.7
ウ プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない	55.9	26.4	17.4	0.3
エ 区の資源回収を利用し、資源プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する	90.1	6.6	2.8	0.6
オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、缶、食品トレイ・ペットボトル等を資源として排出する	39.8	29.6	29.8	0.8
カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマスプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ	23.7	54.9	20.7	0.8

図2-3-1 プラスチックごみ削減のために、行っていること
（年代別）

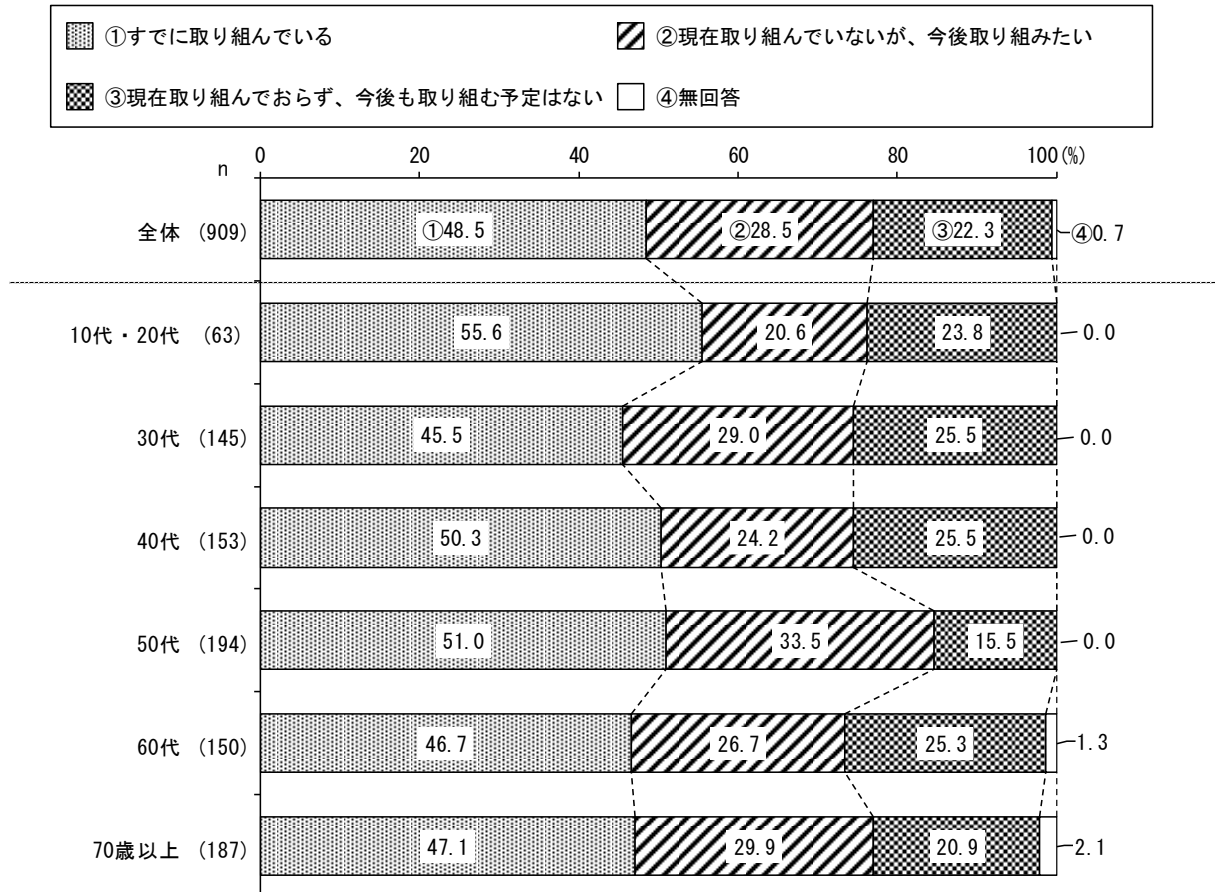
『ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』



『マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（11.1%）が、全体（3.9%）を7.2ポイント上回っている。（図2-3-1）

図 2-3-2 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

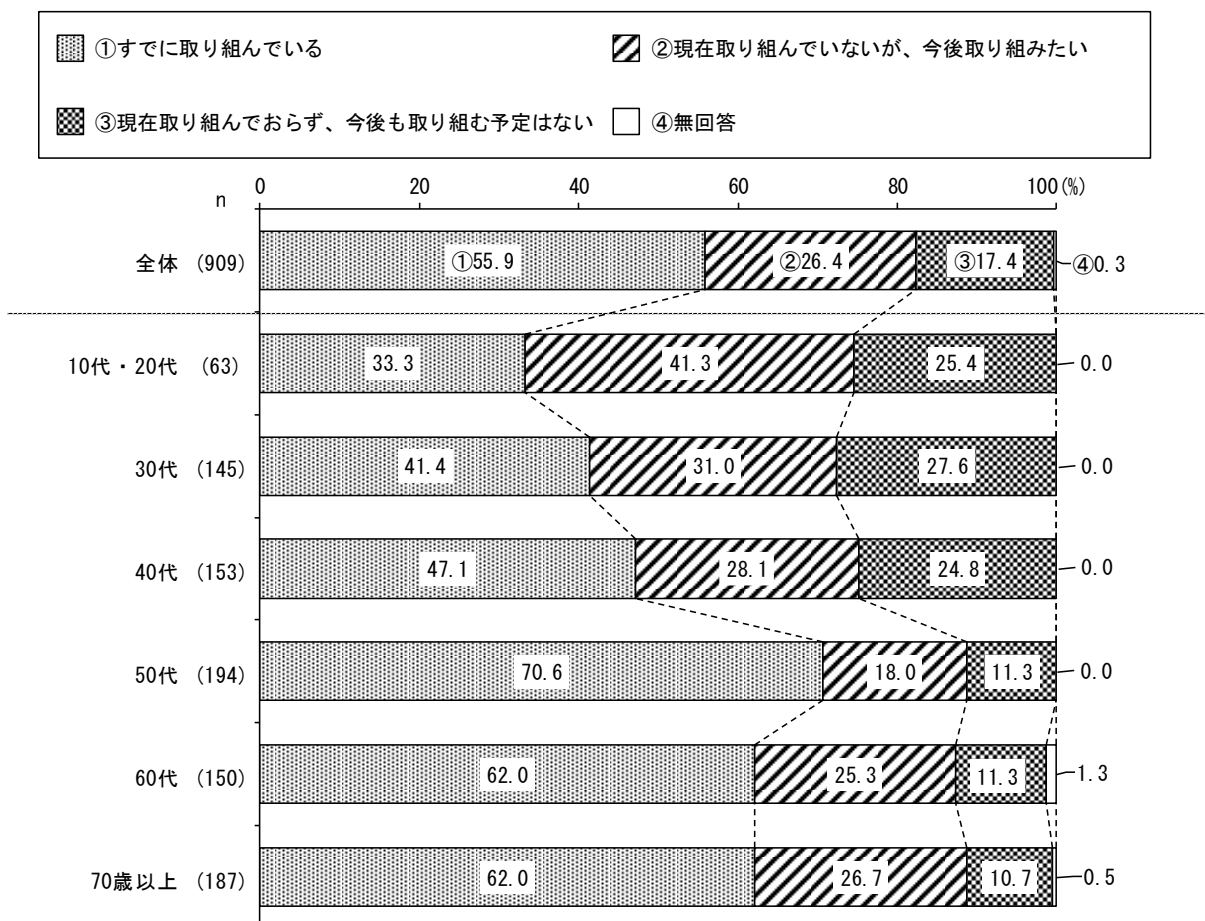
『イ マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトル等）をできる限り使用しない』



『マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトル等）をできる限り使用しない』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は10代・20代（55.6%）が5割台半ばと、全体（48.5%）を7.1ポイント上回っている。（図 2-3-2）

図2-3-3 プラスチックごみ削減のために、行っていること
（年代別）

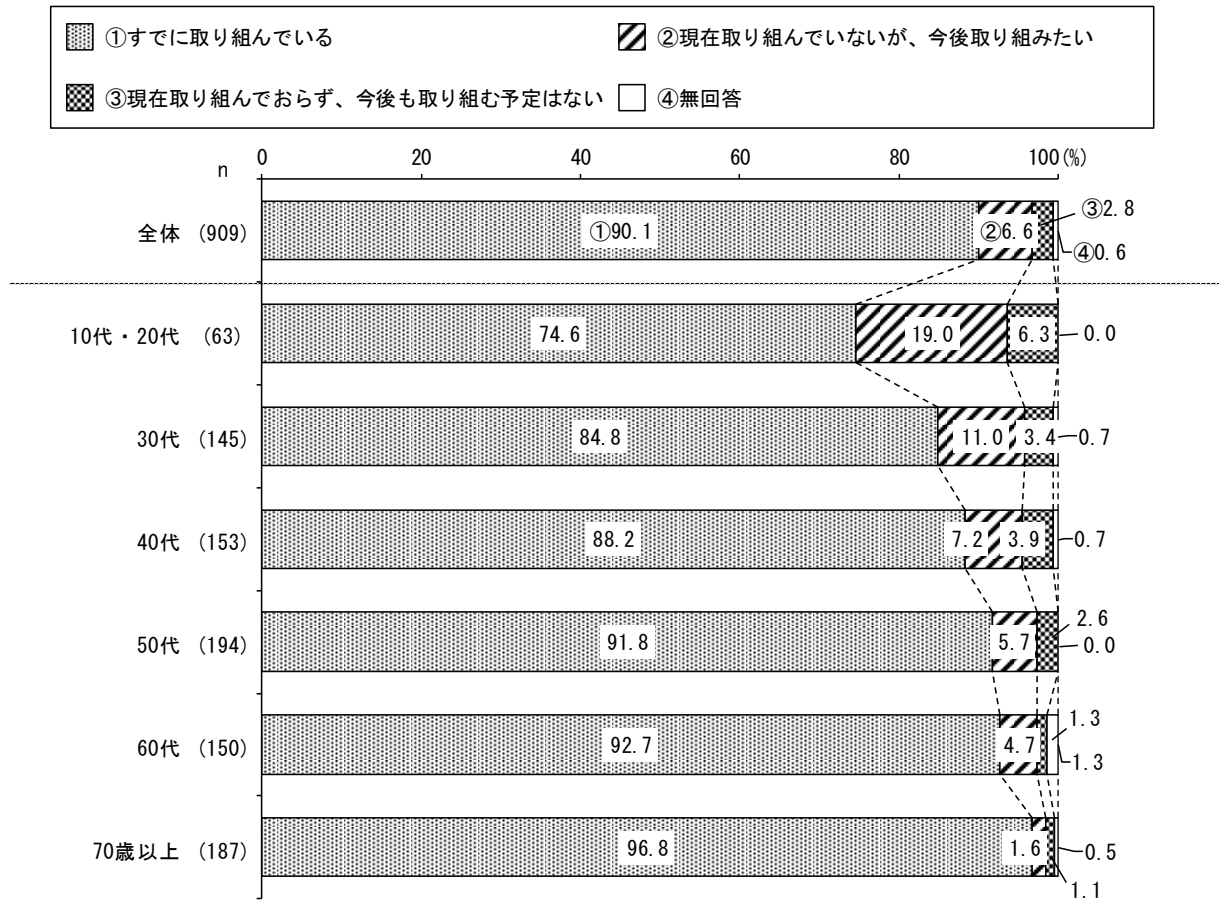
『ウ プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない』



『プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（41.3%）が4割強と、全体（26.4%）を14.9ポイント上回っている。（図2-3-3）

図 2-3-4 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

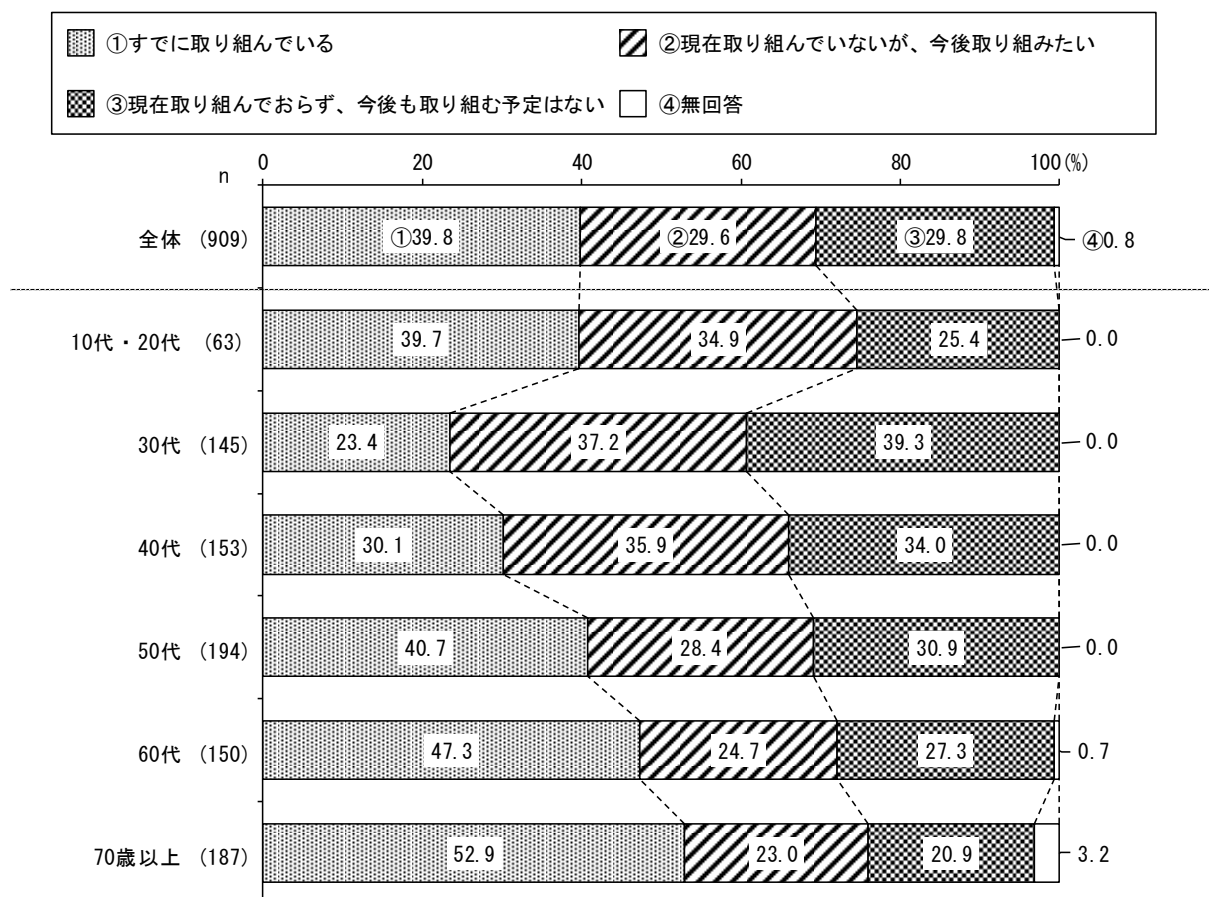
『エ 区の資源回収を利用し、資源プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する』



『区の資源回収を利用し、資源プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代(19.0%)が2割弱と、全体(6.6%)を12.4ポイント上回っている。(図2-3-4)

図2-3-5 プラスチックごみ削減のために、行っていること
（年代別）

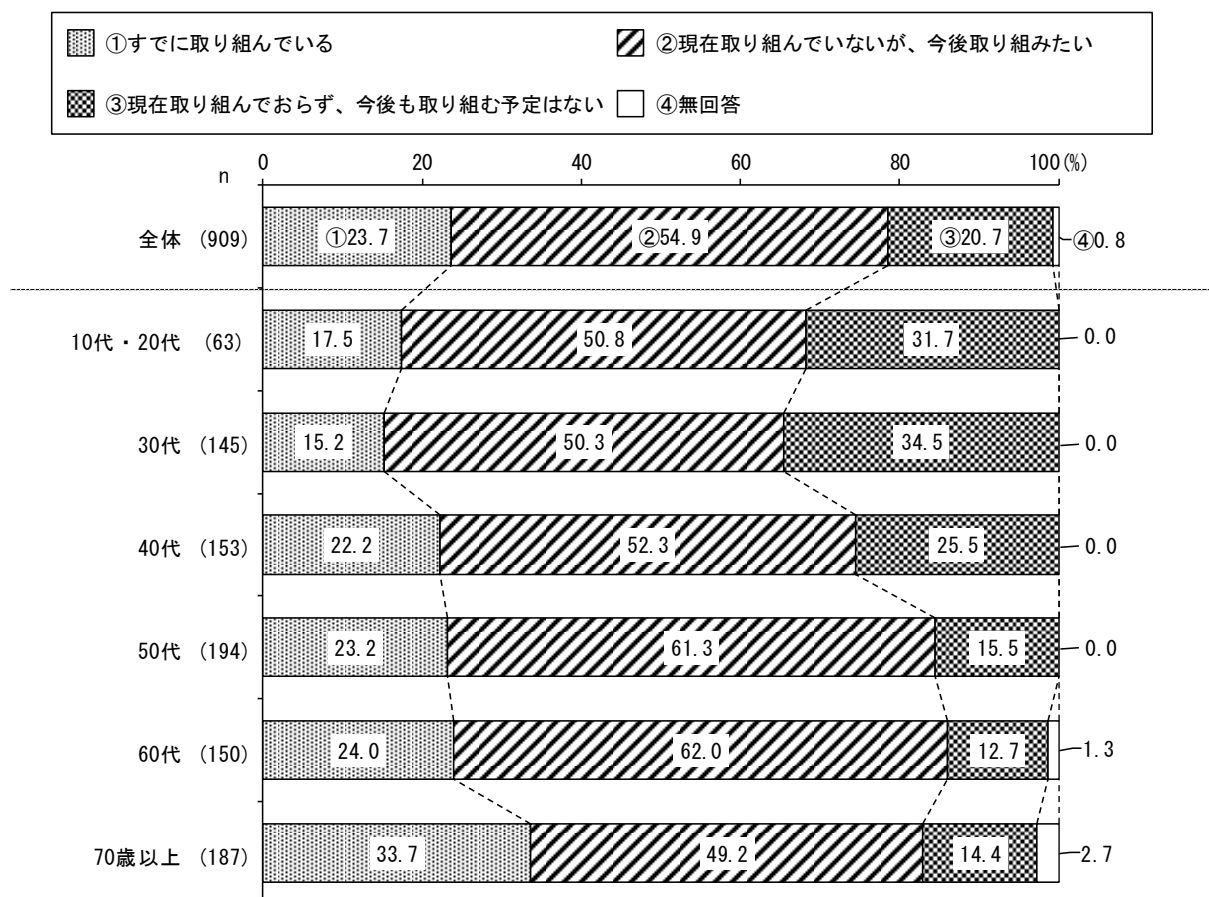
『オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、缶、食品トレー、ペットボトル等を
資源として排出する』



『スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、缶、食品トレー、ペットボトル等を資源として排出する』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は70歳以上（52.9%）が5割強と、全体（39.8%）を13.1ポイント上回っている。（図2-3-5）

図 2-3-6 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

『カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマスプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ』



『リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマスプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は30代（34.5%）が3割台半ば近くと、全体（20.7%）を13.8ポイント上回っている。

（図 2-3-6）

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

（４）ごみ・資源の出し方

◎『ペットボトル』では、「資源」の回収日に出すが8割強

問１０ 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、資源プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。 （ア～ケそれぞれで、あてはまるものにいくつでも○をつけてください） (n=909)						
	燃やすごみ （週２回）	金属・陶器・ガラスごみ （月２回）	資源 （週１回）	地域の集団回収	販売店等による回収（※１）	無回答
ア 新聞・チラシ	20.1%	0.7%	62.5%	18.9%	2.1%	2.4%
イ 雑誌・段ボール	5.3	0.2	79.0	18.3	0.3	0.9
ウ 雑がみ（菓子箱・包装紙等）	56.5	0.1	38.2	9.0	0.2	1.1
エ 資源プラスチック（※２）	15.7	2.0	81.5		3.1	2.5
オ びん	0.8	18.7	71.6	10.0	1.4	1.2
カ 缶	1.0	13.4	74.4	11.8	1.5	1.2
キ ペットボトル	2.5	2.1	81.5	10.7	6.6	0.9
ク スプレー缶・カセットボンベ	1.0	30.8	64.1			4.7
ケ 乾電池	1.2	25.0	56.2		16.6	3.9

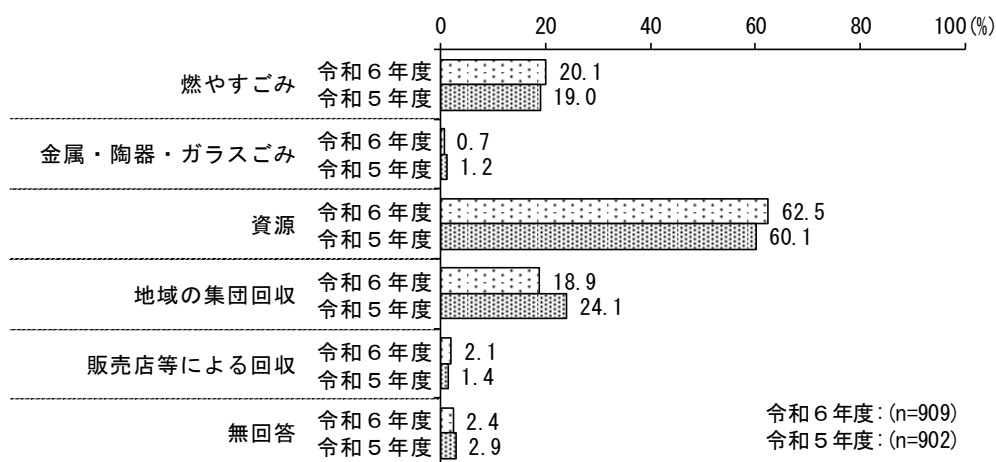
（※１）販売店等による回収とは、スーパーマーケット等での缶、食品トレイ、ペットボトルの店頭回収のほか、新聞販売店等による新聞紙の回収、生協等による宅配時の容器回収などを含みます。

（※２）資源プラスチックとは、容器包装プラスチック及び100%プラスチックでできている製品を指し、令和6年4月から週１回、資源・ごみ集積所で回収しています。

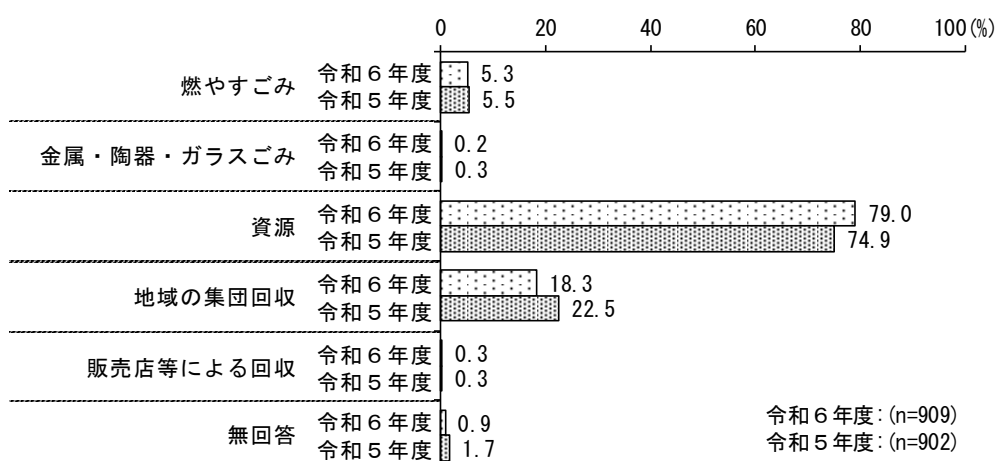
図 2-4-1 ごみ・資源の出し方（経年推移）

『(ア) 新聞・チラシ』・『(イ) 雑誌・段ボール』

『(ア) 新聞・チラシ』



『(イ) 雑誌・段ボール』



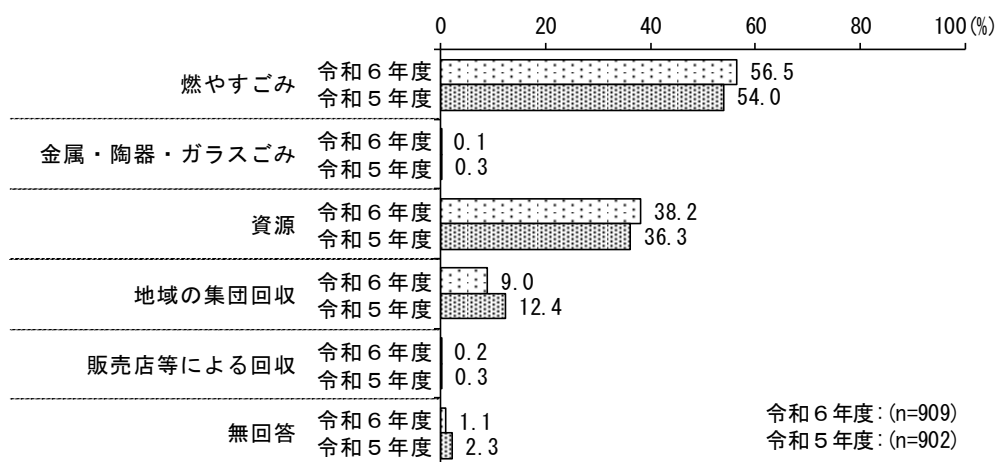
ごみ・資源の出し方についてそれぞれみると、『新聞・チラシ』では、「資源」(62.5%)が6割強で最も高く、次いで「燃やすごみ」(20.1%)が約2割、「地域の集団回収」(18.9%)が2割近くと続いている。

『雑誌・段ボール』では、「資源」(79.0%)が8割弱で最も高く、次いで「地域の集団回収」(18.3%)が2割近くと続いている。

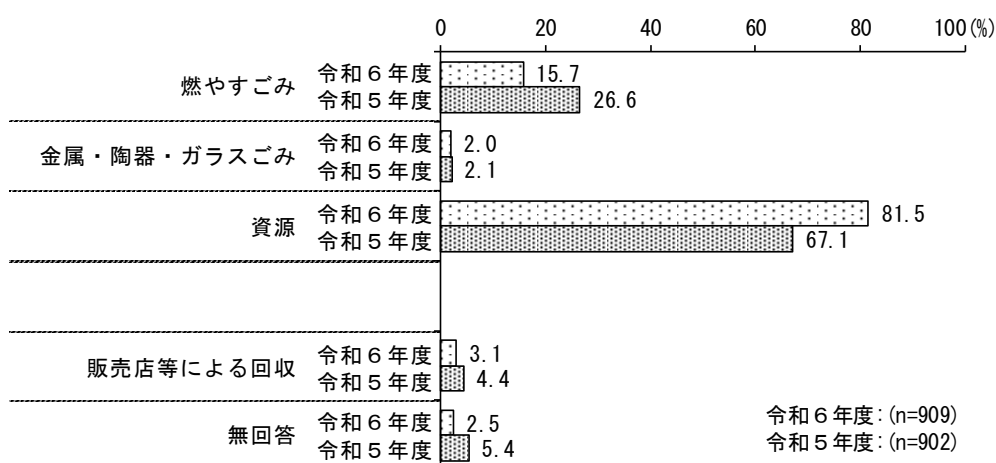
前回の調査結果（令和5年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「資源」(79.0%)が前回(74.9%)から4.1ポイント高くなっている。(図2-4-1)

図2-4-2 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』・『(エ) 資源プラスチック』

『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』



『(エ) 資源プラスチック』



『雑がみ（菓子箱・包装紙等）』では、「燃やすごみ」（56.5%）が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「資源」（38.2%）が4割近くとなっている。

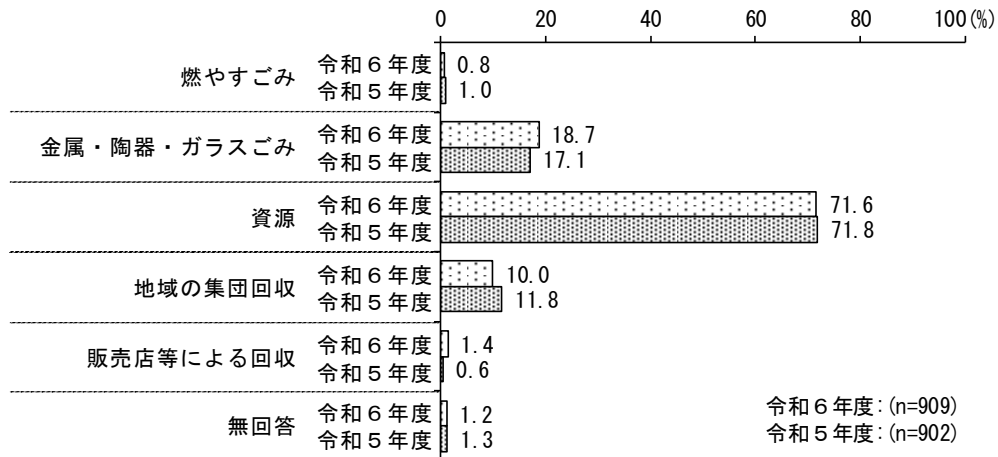
『資源プラスチック』では、「資源」（81.5%）が8割強で最も高く、次いで「燃やすごみ」（15.7%）が1割台半ばと続いている。

前回の調査結果（令和5年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「資源」（81.5%）が前回（67.1%）から14.4ポイント高くなっている。（図2-4-2）

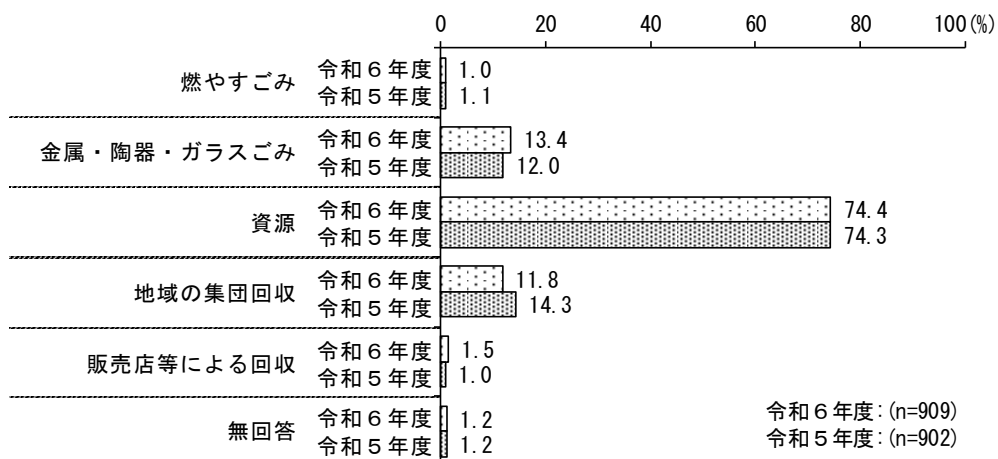
図 2-4-3 ごみ・資源の出し方（経年推移）

『(オ) びん』・『(カ) 缶』

『(オ) びん』



『(カ) 缶』

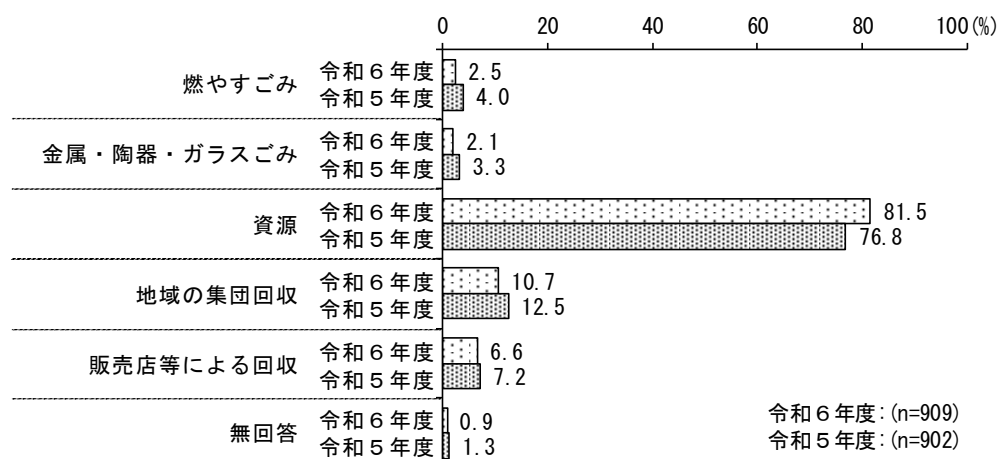


『びん』では、「資源」(71.6%) が 7 割強で最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(18.7%) が 2 割近く、「地域の集団回収」(10.0%) が 1 割と続いている。

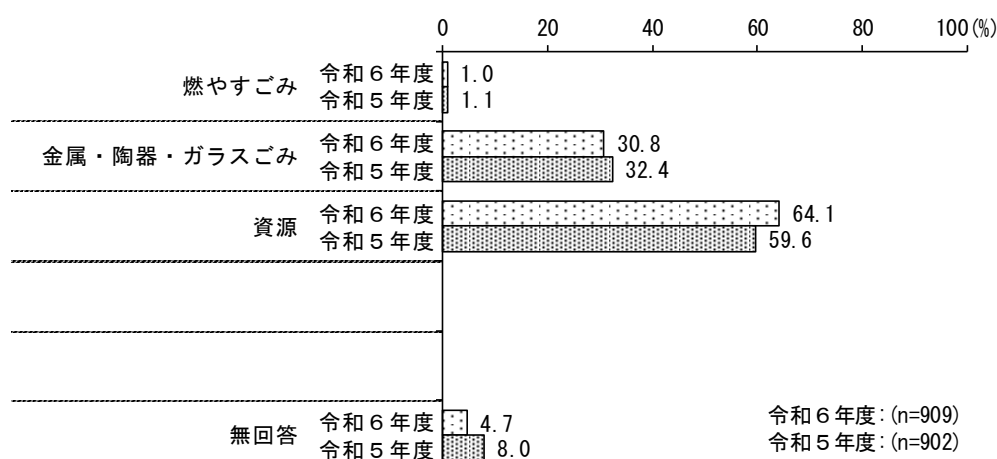
『缶』では、「資源」(74.4%) が 7 割台半ば近くと最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(13.4%) が 1 割台半ば近く、「地域の集団回収」(11.8%) が 1 割強と続いている。(図 2-4-3)

図2-4-4 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(キ) ペットボトル』・『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

『(キ) ペットボトル』



『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』



『ペットボトル』では、「資源」(81.5%)が8割強と最も高く、次いで「地域の集団回収」(10.7%)が約1割と続いている。

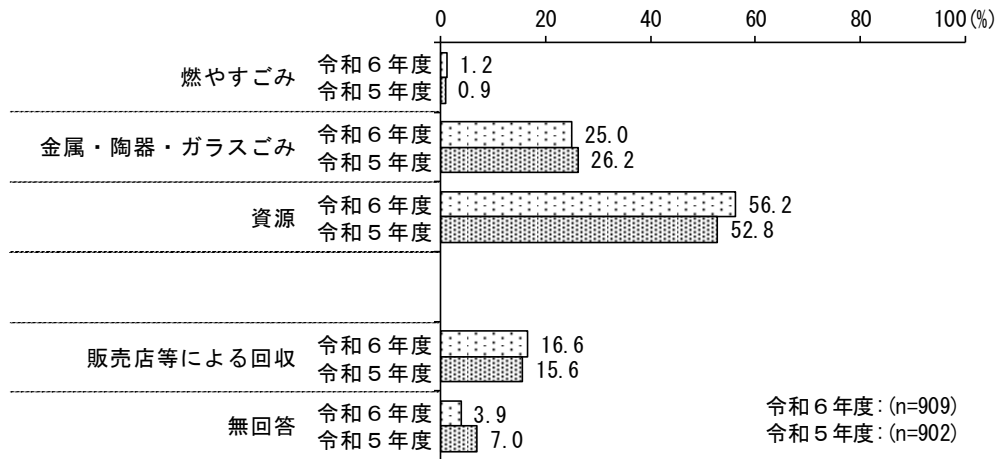
前回の調査結果（令和5年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「資源」(81.5%)が前回(76.8%)から4.7ポイント高くなっている。

『スプレー缶・カセットボンベ』では、「資源」(64.1%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(30.8%)が約3割と続いている。

前回の調査結果（令和5年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「資源」(64.1%)が前回(59.6%)から4.5ポイント高くなっている。（図2-4-4）

図 2-4-5 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ケ) 乾電池』

『(ケ) 乾電池』



『乾電池』では、「資源」(56.2%) が 5 割台半ばを超えて最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(25.0%) が 2 割台半ば、「販売店等による回収」(16.6%) が 1 割台半ばを超えている。(図 2-4-5)

（５）資源（古紙）の日または地域の集団回収に出している雑がみ

◎「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」が8割強

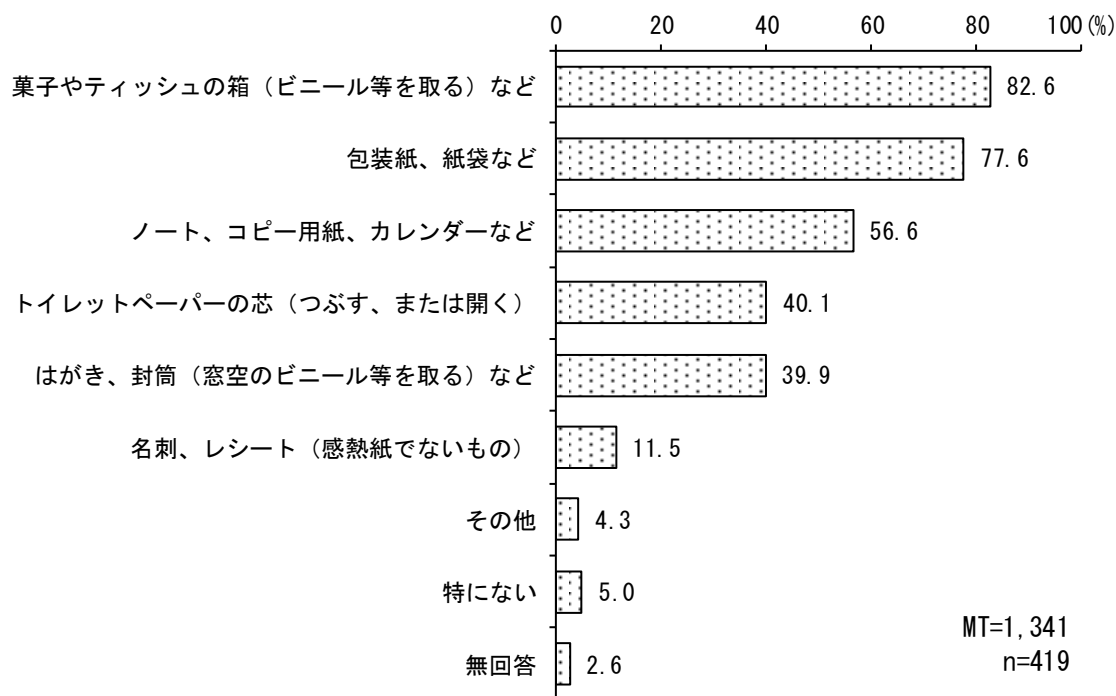
問10-1 問10の（ウ）雑がみ（菓子箱・包装紙等）で、「3」または「4」に○をした方
にお伺いします。

雑がみのうち、資源（古紙）の日または地域の集団回収に出しているのはどれで
すか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=419)
1 菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など	82.6%
2 包装紙、紙袋など	77.6
3 はがき、封筒（窓空のビニール等を取る）など	39.9
4 ノート、コピー用紙、カレンダーなど	56.6
5 トイレtpペーパーの芯（つぶす、または開く）	40.1
6 名刺、レシート（感熱紙でないもの）	11.5
7 その他	4.3
8 特にない	5.0
無回答	2.6

図2-5 資源（古紙）の日または地域の集団回収に出している雑がみ



資源（古紙）の日または地域の集団回収に出している雑がみは、「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」（82.6%）が8割強で最も高く、次いで「包装紙、紙袋など」（77.6%）が7割台半ば超え、「ノート、コピー用紙、カレンダーなど」（56.6%）が5割台半ば超えと続いている。

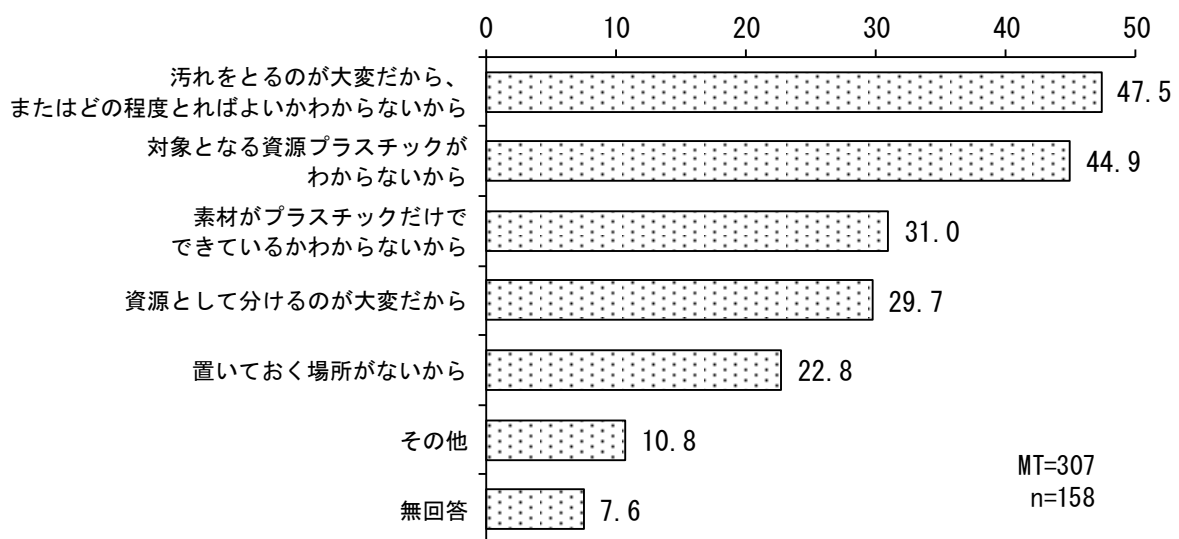
る。(図2-5)

(6) 資源プラスチックを資源として出していない理由

◎「汚れをとるのが大変だから、またはどの程度とればよいかわからないから」が4割台半ばを超え

問10-2 問10の(エ)資源プラスチックで、「1」または「2」に○をした方にお伺いします。資源プラスチックを資源として出していない理由は何ですか。 (あてはまるものにいくつでも○をつけてください)	
	(n=158)
1 対象となる資源プラスチックがわからないから	44.9%
2 素材がプラスチックだけでできているかわからないから	31.0
3 汚れをとるのが大変だから、またはどの程度とればよいかわからないから	47.5
4 置いておく場所がないから	22.8
5 資源として分けるのが大変だから	29.7
6 その他	10.8
無回答	7.6

図2-6 資源プラスチックを資源として出していない理由



資源プラスチックを資源として出していない理由は、「汚れをとるのが大変だから、またはどの程度とればよいかわからないから」(47.5%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「対象となる資源プラスチックがわからないから」(44.9%)が4割台半ば近く、「素材がプラスチックだけでできているかわからないから」(31.0%)が3割強と続いている。

(図2-6)

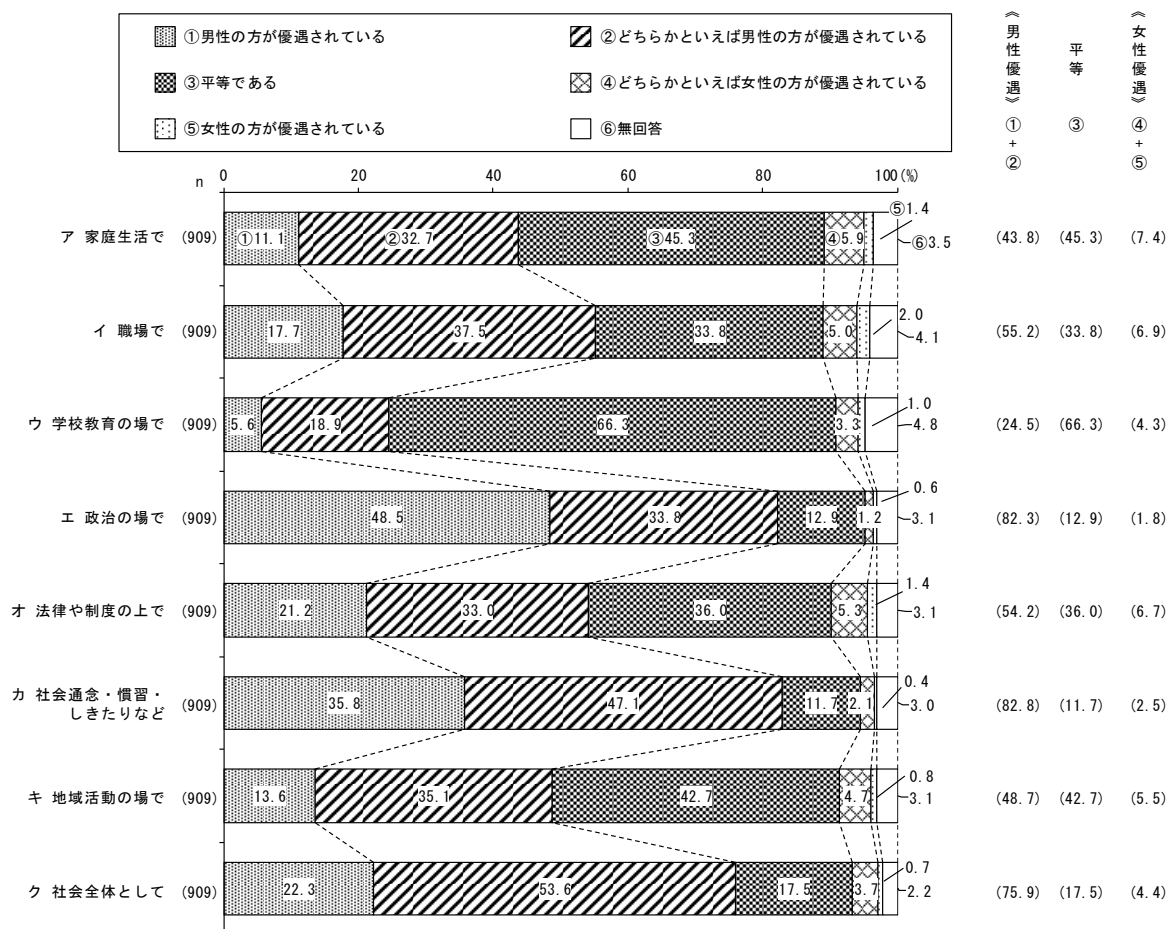
テーマ3 男女共同参画に関する意識について

（１）さまざまな分野での男女平等意識について

◎「平等である」と思う方が多いのは『学校教育の場で』で6割台半ば超え

問11 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。 (ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)						
	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	無回答
ア 家庭生活上で	11.1%	32.7%	45.3%	5.9%	1.4%	3.5%
イ 職場で	17.7	37.5	33.8	5.0	2.0	4.1
ウ 学校教育の場で	5.6	18.9	66.3	3.3	1.0	4.8
エ 政治の場で	48.5	33.8	12.9	1.2	0.6	3.1
オ 法律や制度の上で	21.2	33.0	36.0	5.3	1.4	3.1
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	35.8	47.1	11.7	2.1	0.4	3.0
キ 地域活動の場で	13.6	35.1	42.7	4.7	0.8	3.1
ク 社会全体として	22.3	53.6	17.5	3.7	0.7	2.2

図 3-1-1 さまざまな分野での男女平等意識について

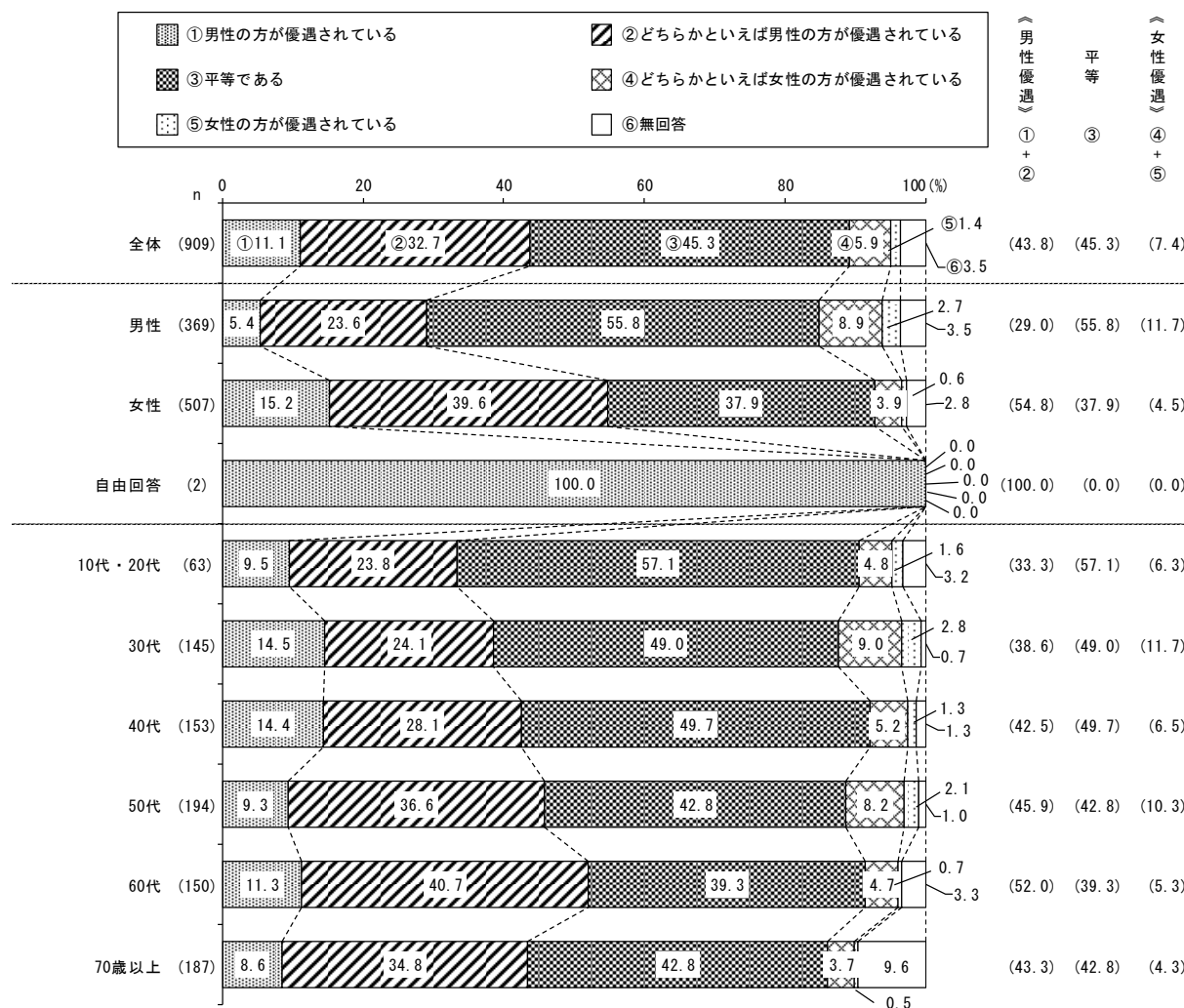


さまざまな分野での男女平等意識について、「平等である」は『学校教育の場で』（66.3%）が6割台半ばを超えと最も高くなっている。

《男性優遇》（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）について、『社会通念・慣習・しきたりなど』（82.8%）が8割強と最も高く、『政治の場で』（82.3%）も8割強と続いている。（図 3-1-1）

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

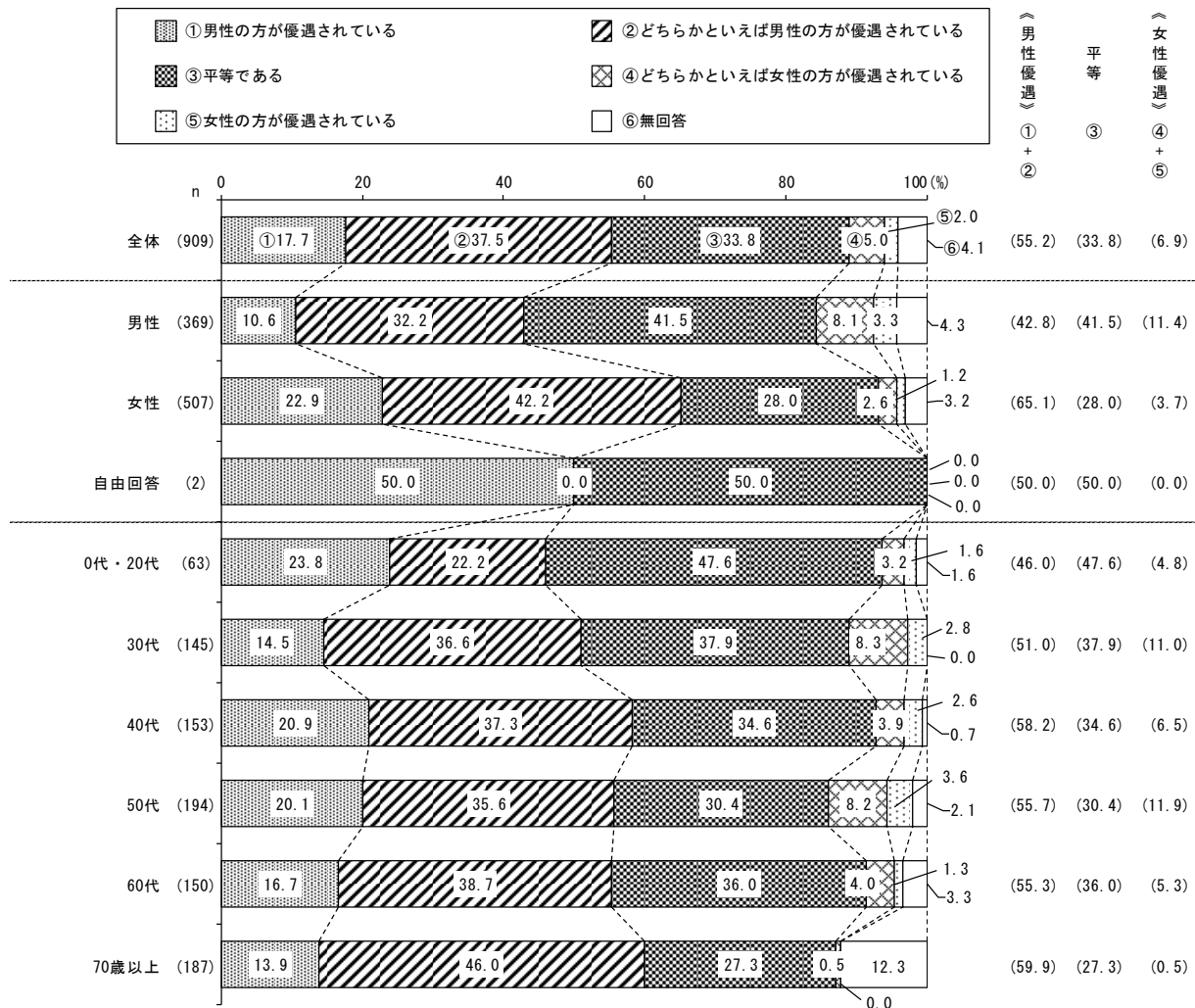
図3-1-2 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ア 家庭生活で』



『家庭生活で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（54.8%）が5割台半ば近くと、男性（29.0%）を25.8ポイント上回っている。

年代別でみると、《男性優遇》は60代（52.0%）が5割強と、全体（43.8%）を8.2ポイント上回っている。（図3-1-2）

図3-1-3 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『イ 職場で』

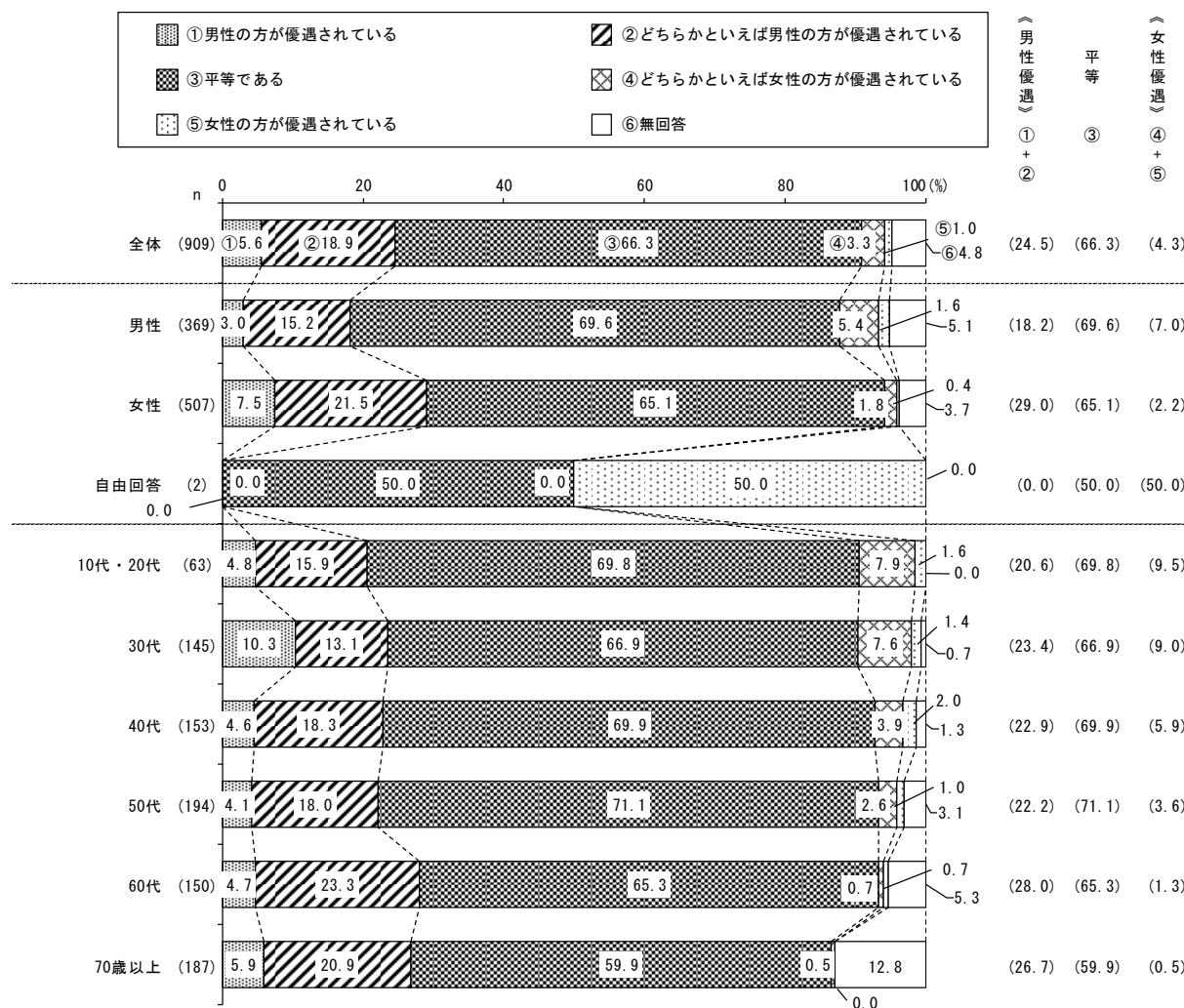


『職場で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性 (65.1%) が6割半ばと、男性 (42.8%) を22.3ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は10代・20代 (47.6%) が4割台半ばを超え、全体 (33.8%) を13.8ポイント上回っている。(図3-1-3)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

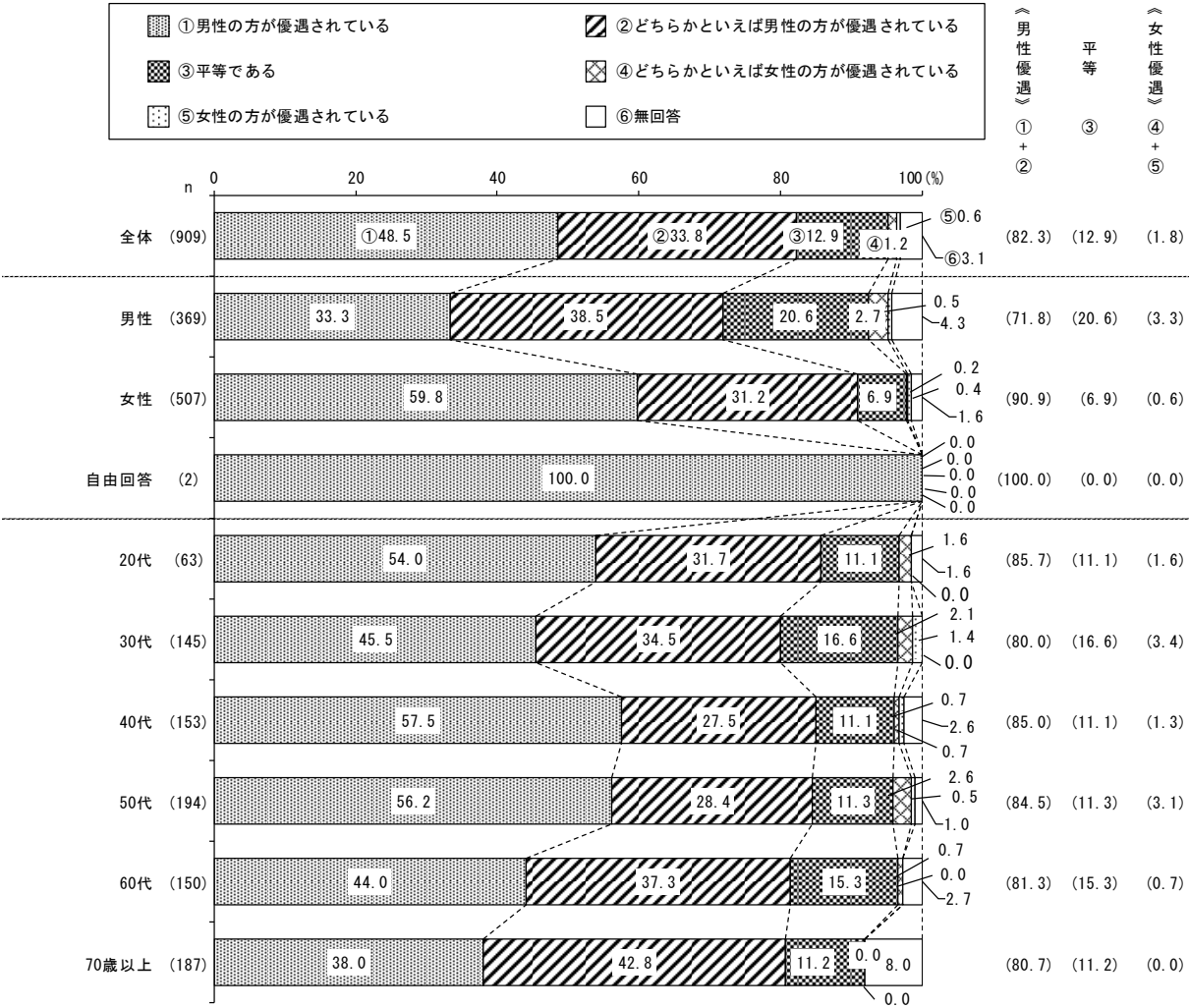
図3-1-4 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ウ 学校教育の場で』



『学校教育の場で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（29.0%）が3割弱と、男性（18.2%）を10.8ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は70歳以上（59.9%）が6割弱と、全体（66.3%）を6.4ポイント下回っている。（図3-1-4）

図 3-1-5 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『エ 政治の場で』

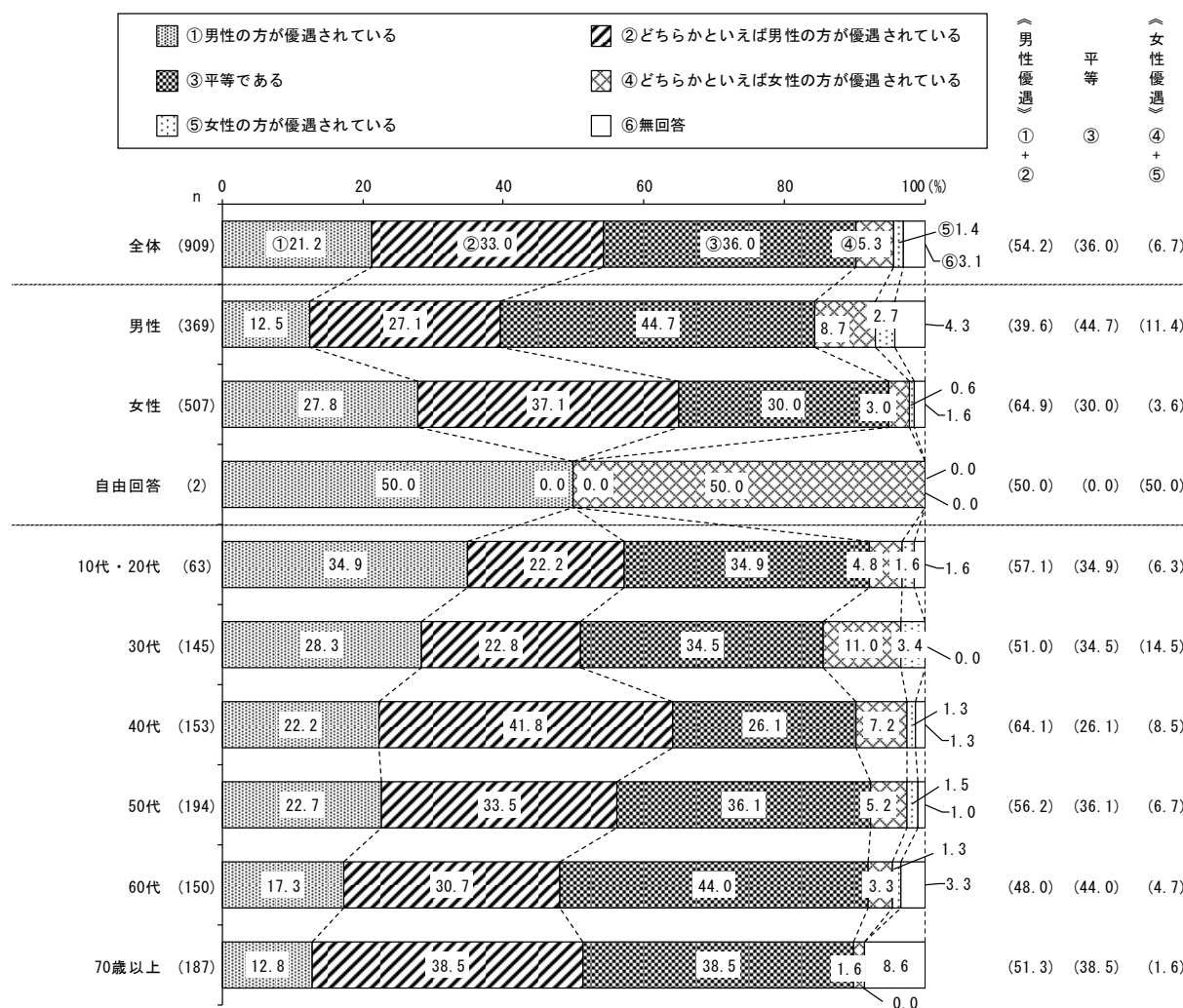


『政治の場で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性(90.9%)が約9割と、男性(71.8%)を19.1ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は30代(16.6%)が1割台半ばを超え、全体(12.9%)を3.7ポイント上回っている。(図3-1-5)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図3-1-6 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『オ 法律や制度の上で』

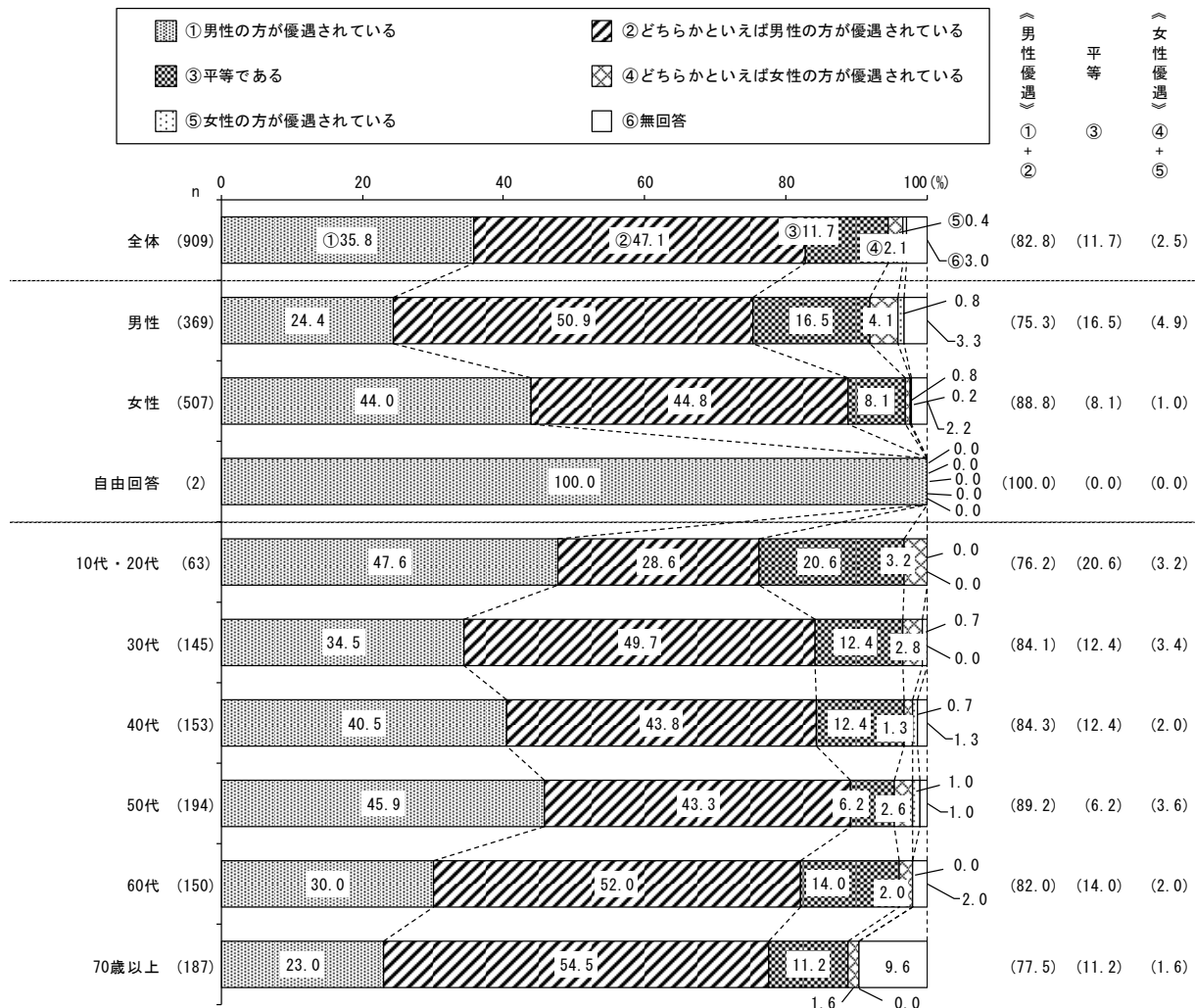


『法律や制度の上で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（64.9%）が6割台半ば近くと、男性（39.6%）を25.3ポイント上回っている。

年代別でみると、《男性優遇》は40代（64.1%）が6割台半ば近くと、全体（54.2%）を9.9ポイント上回っている。（図3-1-6）

図3-1-7 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)

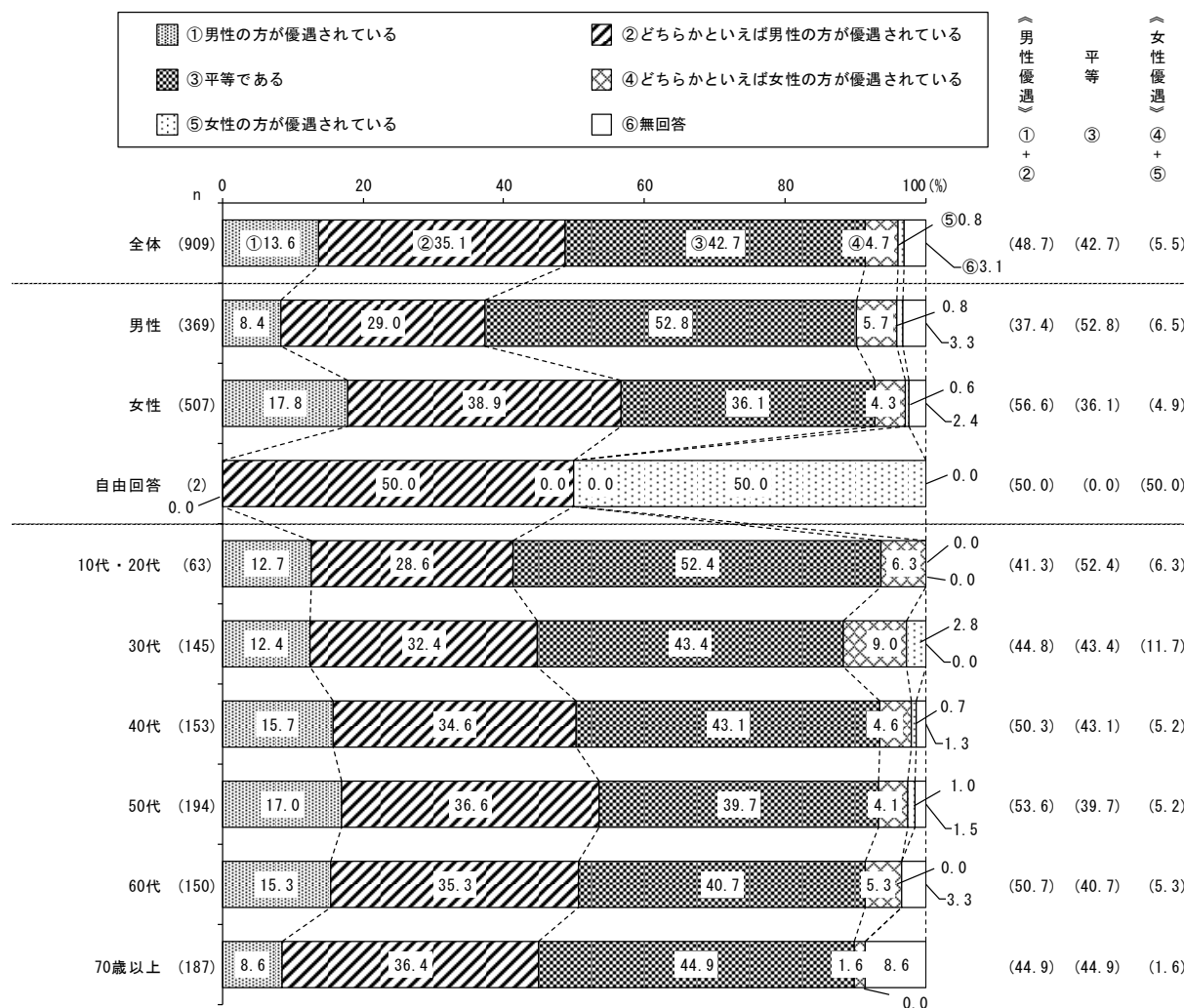
『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』



『社会通念・慣習・しきたりなど』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（88.8%）が9割近くと、男性（75.3%）を13.5ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は10代・20代（20.6%）が約2割と、全体（11.7%）を8.9ポイント上回っている。（図3-1-7）

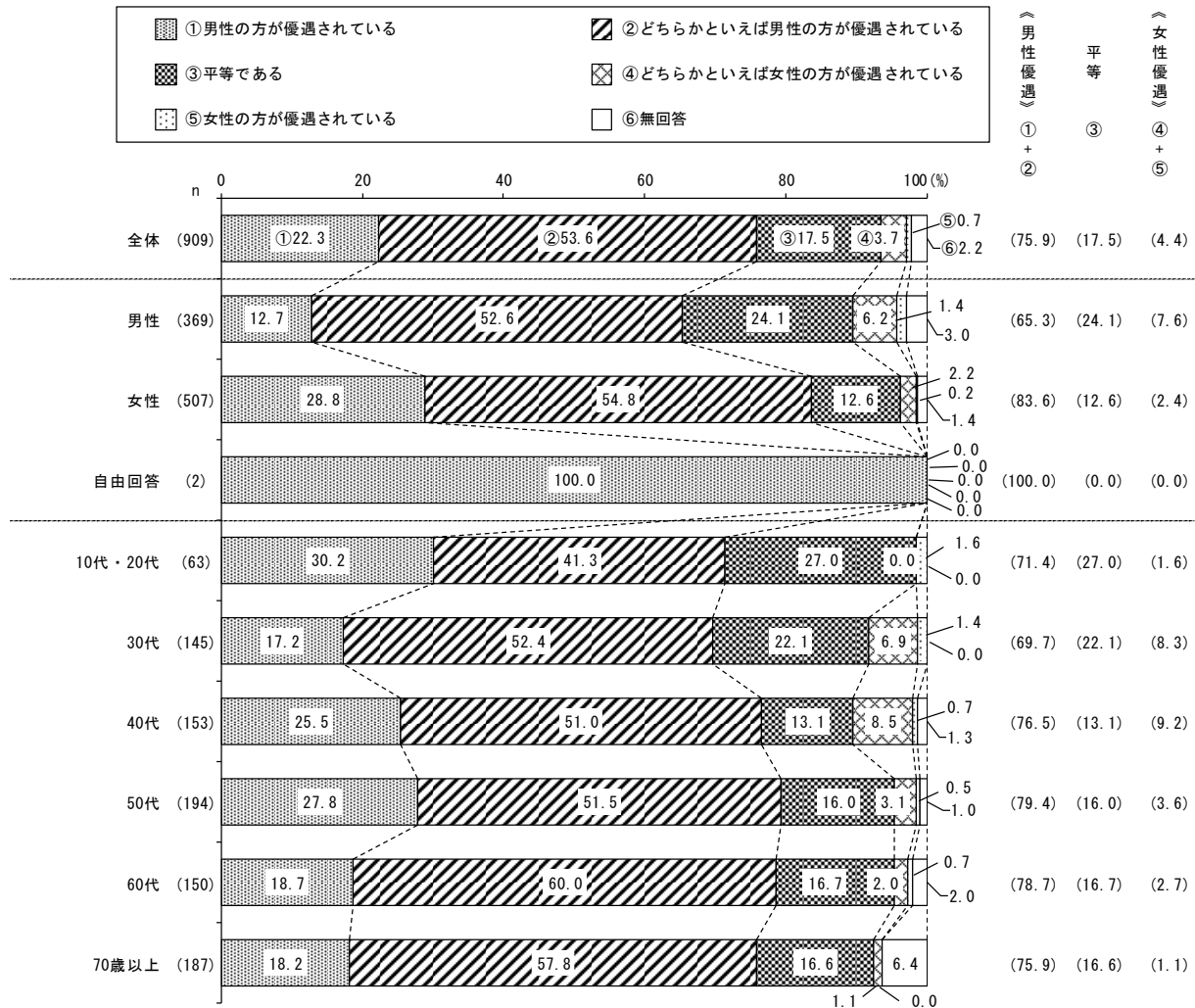
図3-1-8 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『キ 地域活動の場で』



『地域活動の場で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（56.6%）が5割台半ばを超え、男性（37.4%）を19.2ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は10代・20代（52.4%）が5割強と、全体（42.7%）を9.7ポイント上回っている。（図3-1-8）

図3-1-9 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ク 社会全体として』



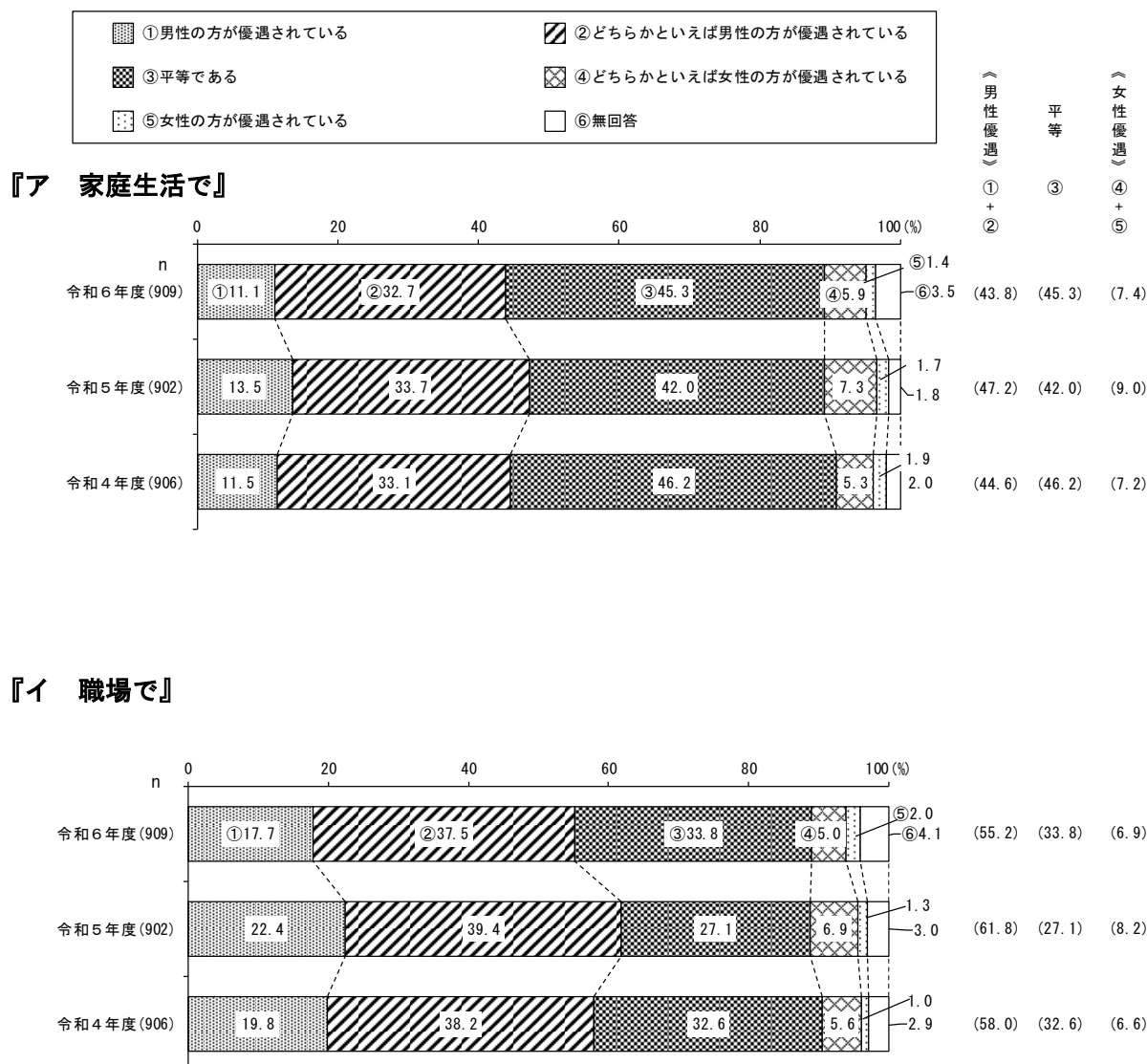
『社会全体として』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（83.6%）が8割台半ば近くと、男性（65.3%）を18.3ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は10代・20代（27.0%）が2割台半ばを超え、全体（17.5%）を9.5ポイント上回っている。（図3-1-9）

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図3-1-10 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『ア 家庭生活で』・『イ 職場で』

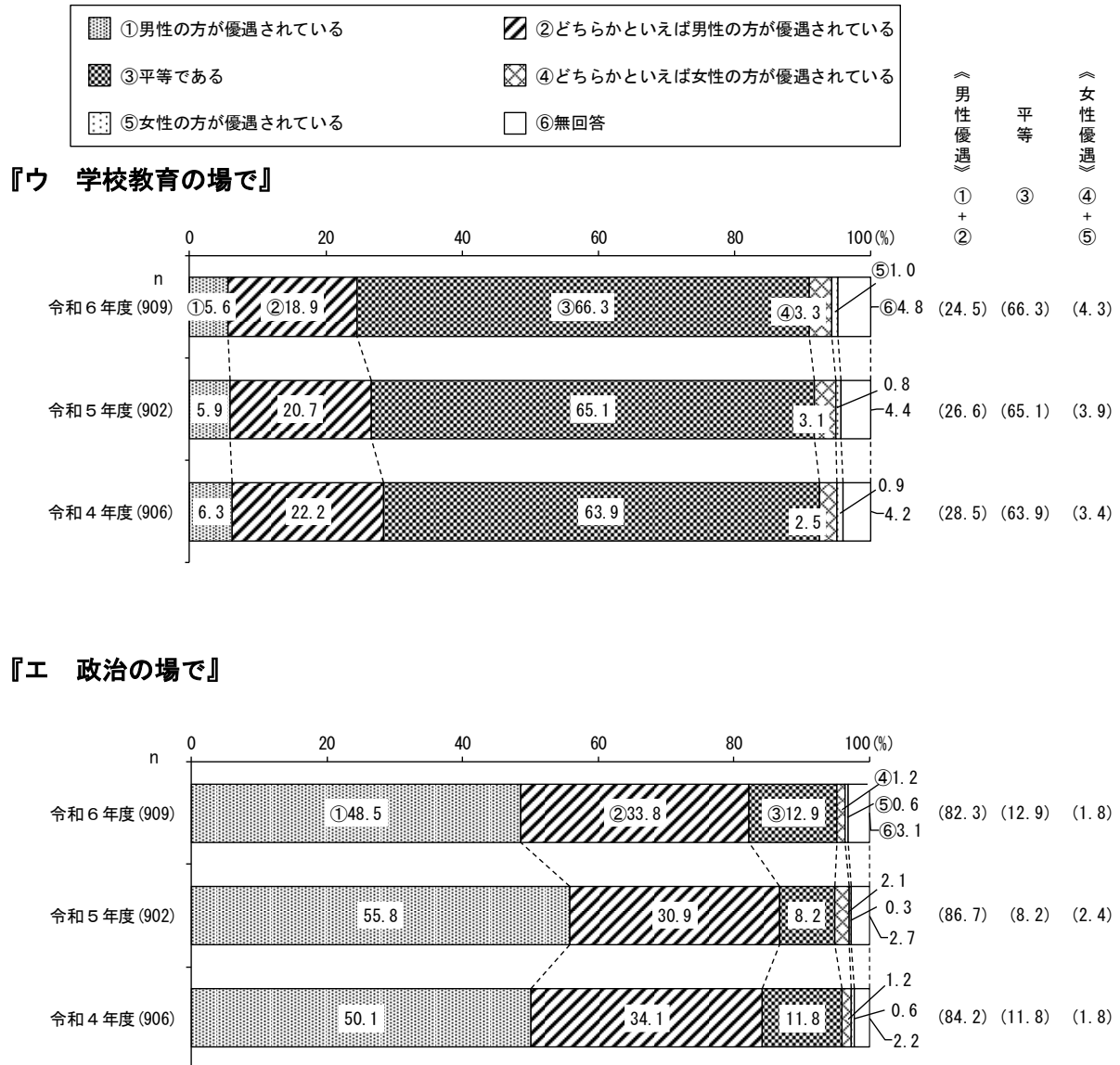


過去3年間の経年推移をみると、『家庭生活で』では《男性優遇》は令和5年度（47.2%）から令和6年度（43.8%）にかけて3.4ポイント低くなっている。

『職場で』では「平等である」は令和5年度（27.1%）から令和6年度（33.8%）にかけて6.7ポイント高くなっている。（図3-1-10）

図3-1-11 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『ウ 学校教育の場で』・『エ 政治の場で』



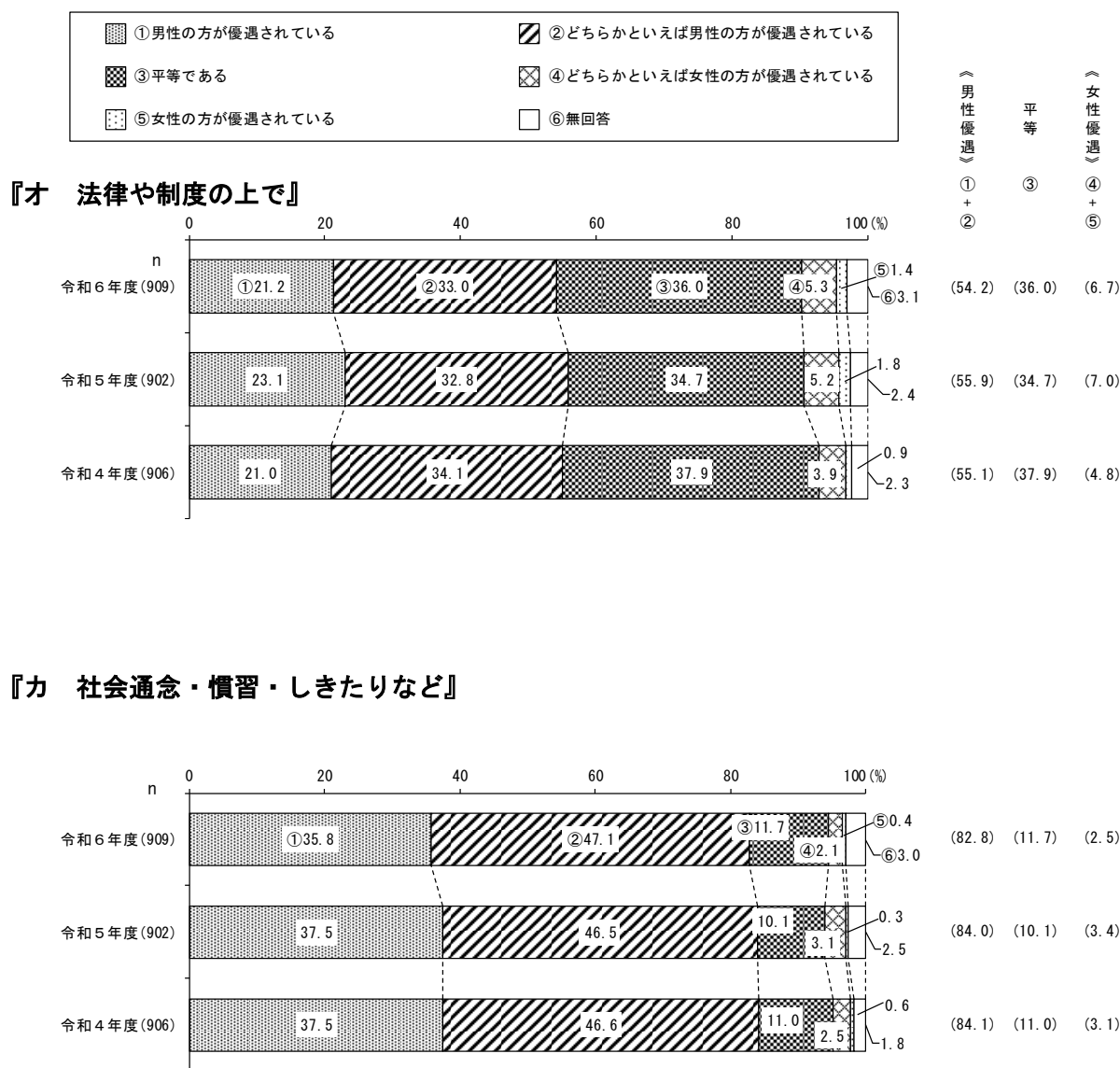
過去3年間の経年推移をみると、『学校教育の場で』では《男性優遇》は令和4年度（28.5%）から令和6年度（24.5%）にかけて4.0ポイント低くなっている。

『政治の場で』では「平等である」は令和5年度（8.2%）から令和6年度（12.9%）にかけて4.7ポイント高くなっている。（図3-1-11）

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図3-1-12 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『オ 法律や制度の上で』・『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』

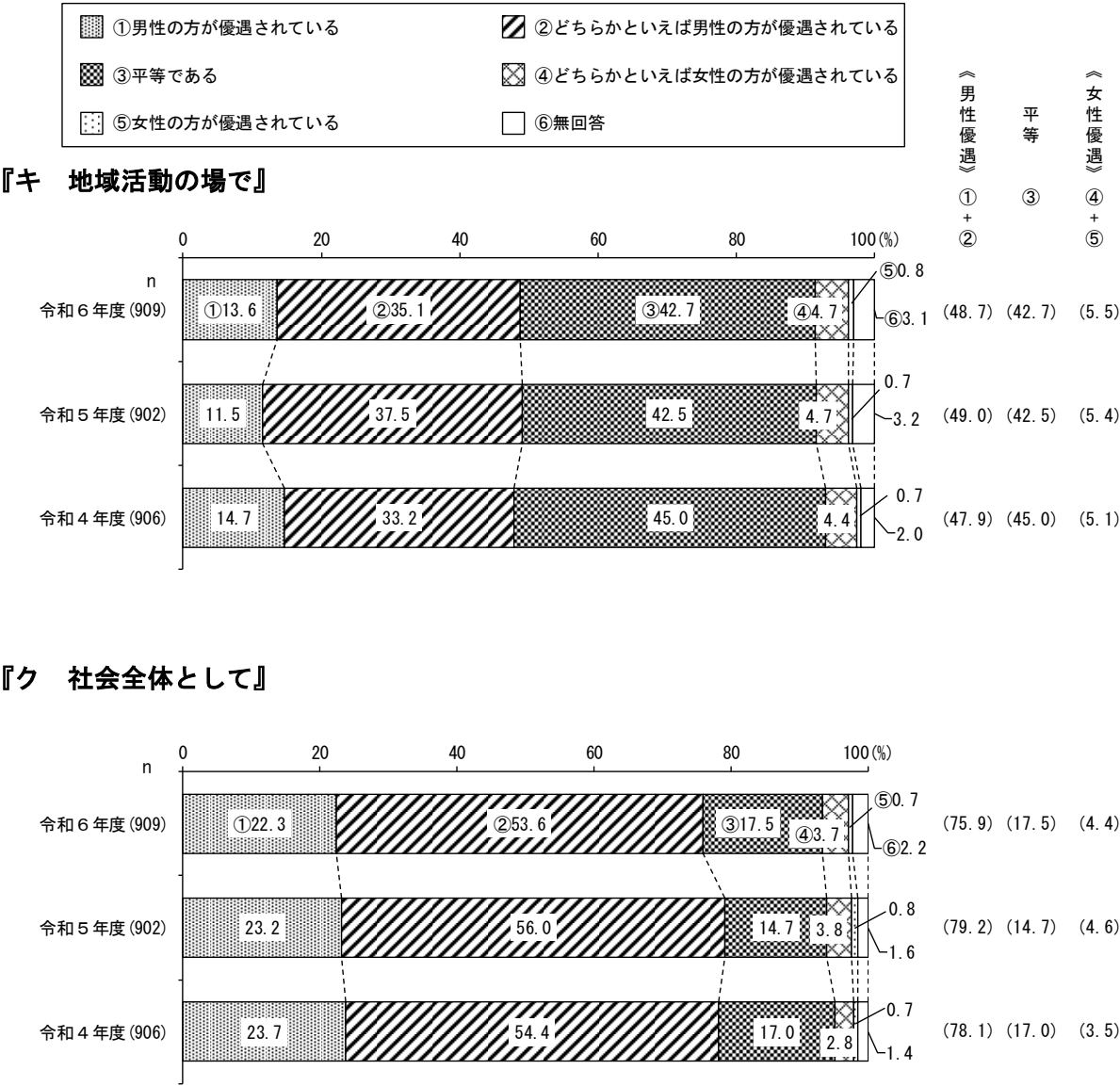


過去3年間の経年推移をみると、『法律や制度の上で』では《男性優遇》は令和5年度（55.9%）から令和6年度（54.2%）にかけて1.7ポイント低くなっている。

『社会通念・慣習・しきたりなど』では《男性優遇》は令和4年度（84.1%）から令和6年度（82.8%）にかけて1.3ポイント低くなっている。（図3-1-12）

図 3-1-13 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『キ 地域活動の場で』・『ク 社会全体として』



過去3年間の経年推移をみると、『地域活動の場で』では《男性優遇》は令和5年度（49.0%）から令和6年度（48.7%）にかけて0.3ポイント低くなっている。

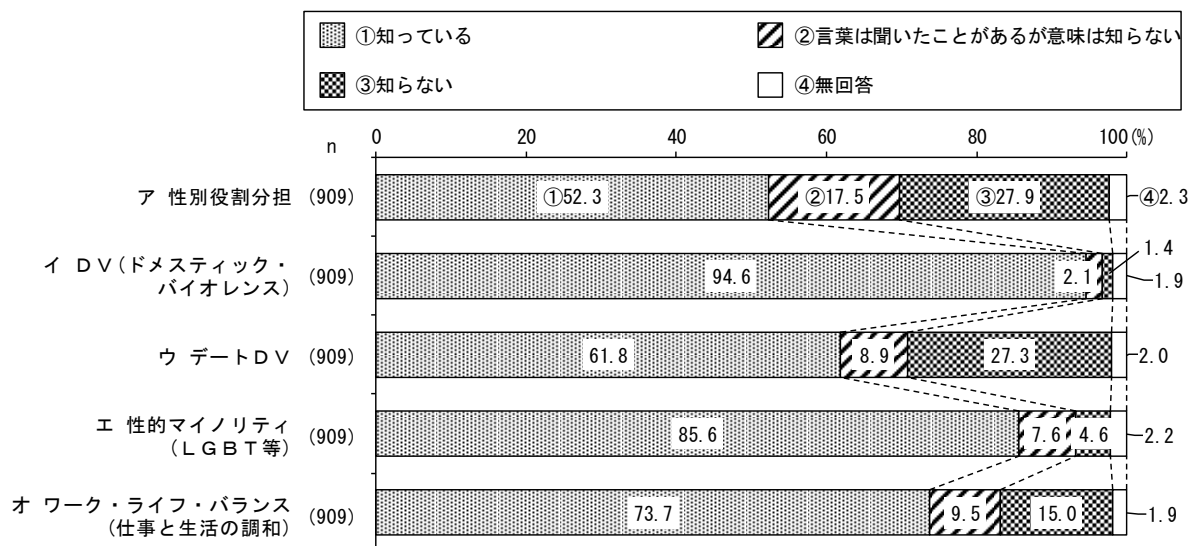
『社会全体として』では《男性優遇》は令和5年度（79.2%）から令和6年度（75.9%）にかけて3.3ポイント低くなっている。（図3-1-13）

（２）男女共同参画に関する言葉について

◎「知っている」と思う方が多いのは『DV（ドメスティック・バイオレンス）』が9割台半ば近く

問１２ 男女共同参画に関する以下の言葉について知っていますか。 (ア～オそれぞれで、１～３に１つだけ○をつけてください)				
	(n=909)			
	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない	無回答
ア 性別役割分担	52.3%	17.5%	27.9%	2.3%
イ DV（ドメスティック・バイオレンス）	94.6	2.1	1.4	1.9
ウ デートDV	61.8	8.9	27.3	2.0
エ 性的マイノリティ（LGBT等）	85.6	7.6	4.6	2.2
オ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	73.7	9.5	15.0	1.9

図３－２ 男女共同参画に関する言葉について



男女共同参画に関する言葉について、「知っている」は『DV（ドメスティック・バイオレンス）』（94.6%）が9割台半ば近くで最も高く、次いで『性的マイノリティ（LGBT等）』（85.6%）が8割台半ばと続いている。

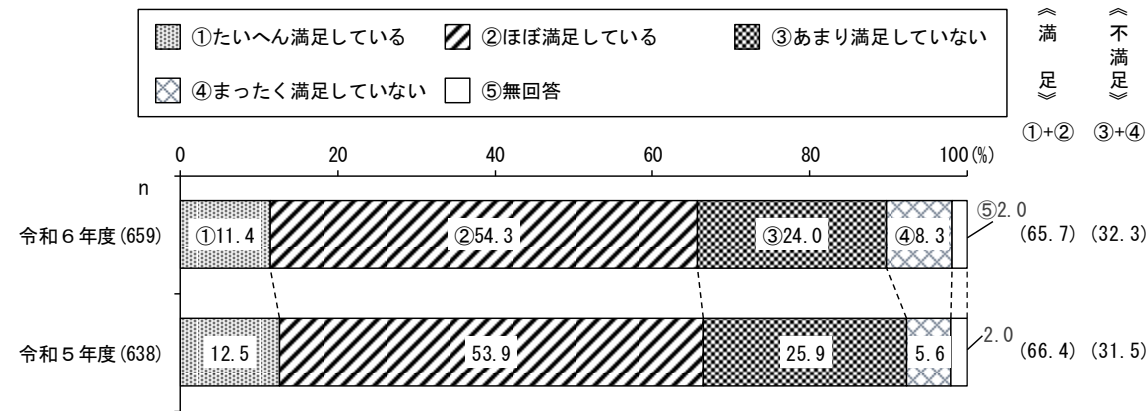
一方、「知らない」は『性別役割分担』（27.9%）が2割台半ば超え、『デートDV』（27.3%）も2割台半ば超えとなっている。（図３－２）

（３）仕事と生活のバランスの満足度

◎現在の仕事と生活のバランスに《満足》が６割台半ば

問１３ 働いているすべての方にお伺いします。		
あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。（○は１つ）		
		(n=659)
１	たいへん満足している	11.4%
２	ほぼ満足している	54.3
３	あまり満足していない	24.0
４	まったく満足していない	8.3
	無回答	2.0

図３－３ 仕事と生活のバランスの満足度
（経年推移）



仕事と生活のバランスの満足度について、《満足》（「たいへん満足している」＋「ほぼ満足している」）（65.7%）が６割台半ばとなっており、《不満足》（「あまり満足していない」＋「まったく満足していない」）（32.3%）が３割強となっている。

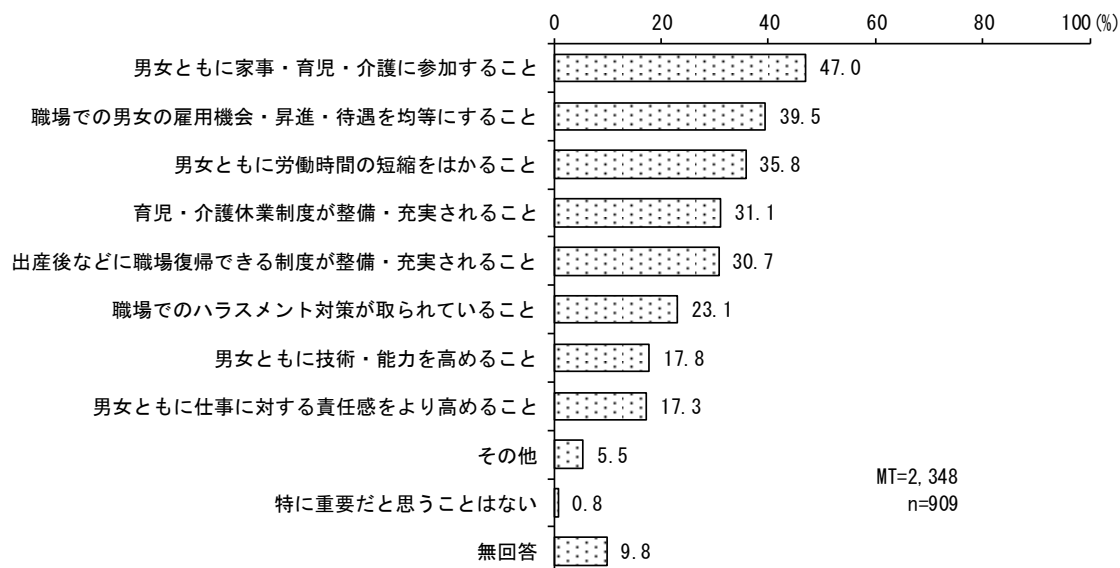
前回の調査結果（令和５年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、《満足》（65.7%）が前回（66.4%）より 0.7 ポイント低くなっている。（図３－３）

（４）男女とも働きやすい環境づくりについて

◎「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」が4割台半ば超え

問14 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。 （あてはまるものに3つまで○をつけてください）		(n=909)
1 男女ともに労働時間の短縮をはかること	35.8%	
2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること	47.0	
3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること	17.3	
4 男女ともに技術・能力を高めること	17.8	
5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること	39.5	
6 職場でのハラスメント対策が取られていること	23.1	
7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること	30.7	
8 育児・介護休業制度が整備・充実されること	31.1	
9 その他	5.5	
10 特に重要だと思うことはない	0.8	
無回答	9.8	

図3-4 男女とも働きやすい環境づくりについて



男女とも働きやすい環境づくりについて、「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」(47.0%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること」(39.5%)が4割弱、「男女ともに労働時間の短縮をはかること」(35.8%)が3割台半ばと続いている。

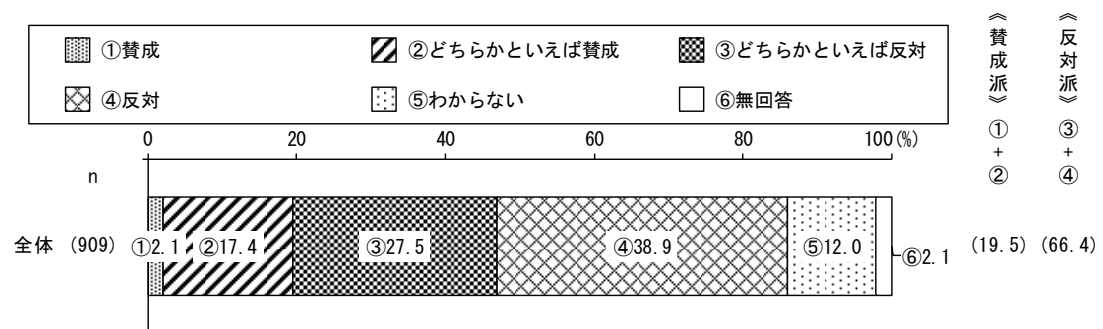
(図3-4)

(5)「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

◎《賛成派》が2割弱、《反対派》が6割台半ば超え

問15 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(○は1つ)		(n=909)
1	賛成	2.1%
2	どちらかといえば賛成	17.4
3	どちらかといえば反対	27.5
4	反対	38.9
5	わからない	12.0
	無回答	2.1

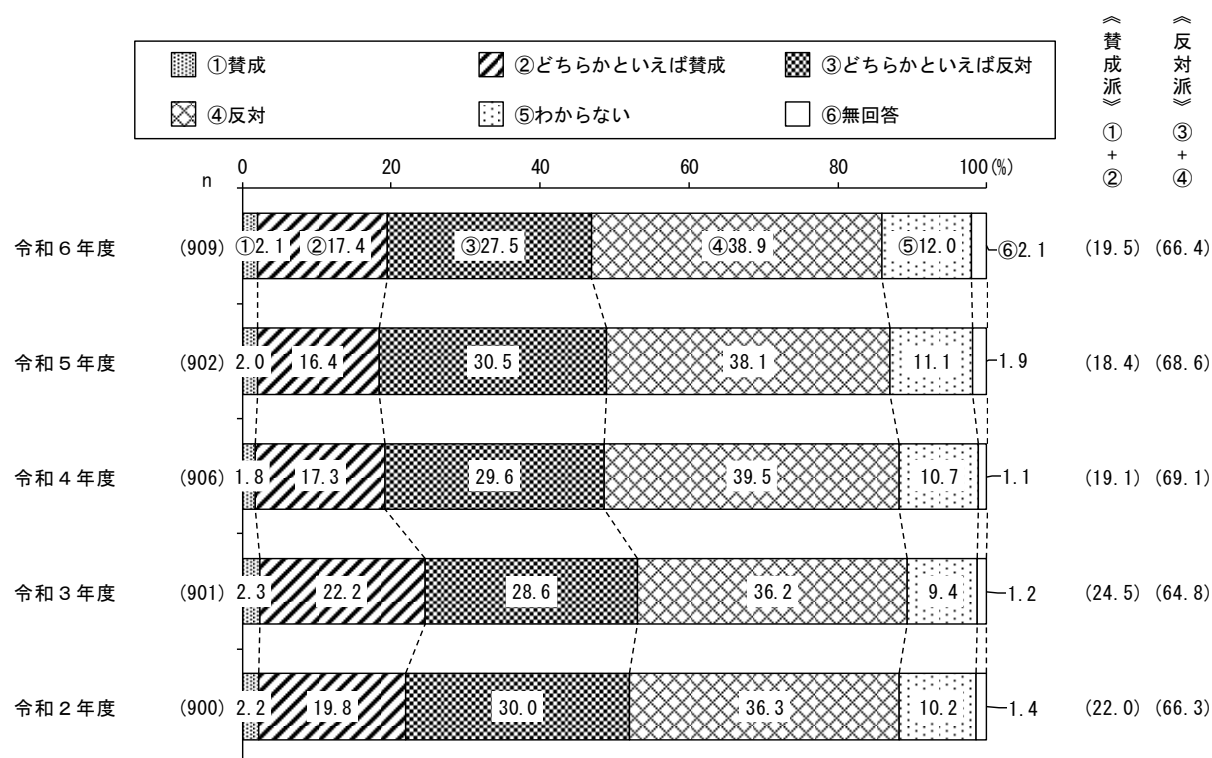
図3-5-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」(38.9%)が4割近くで最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(27.5%)が2割台半ばを超えている。

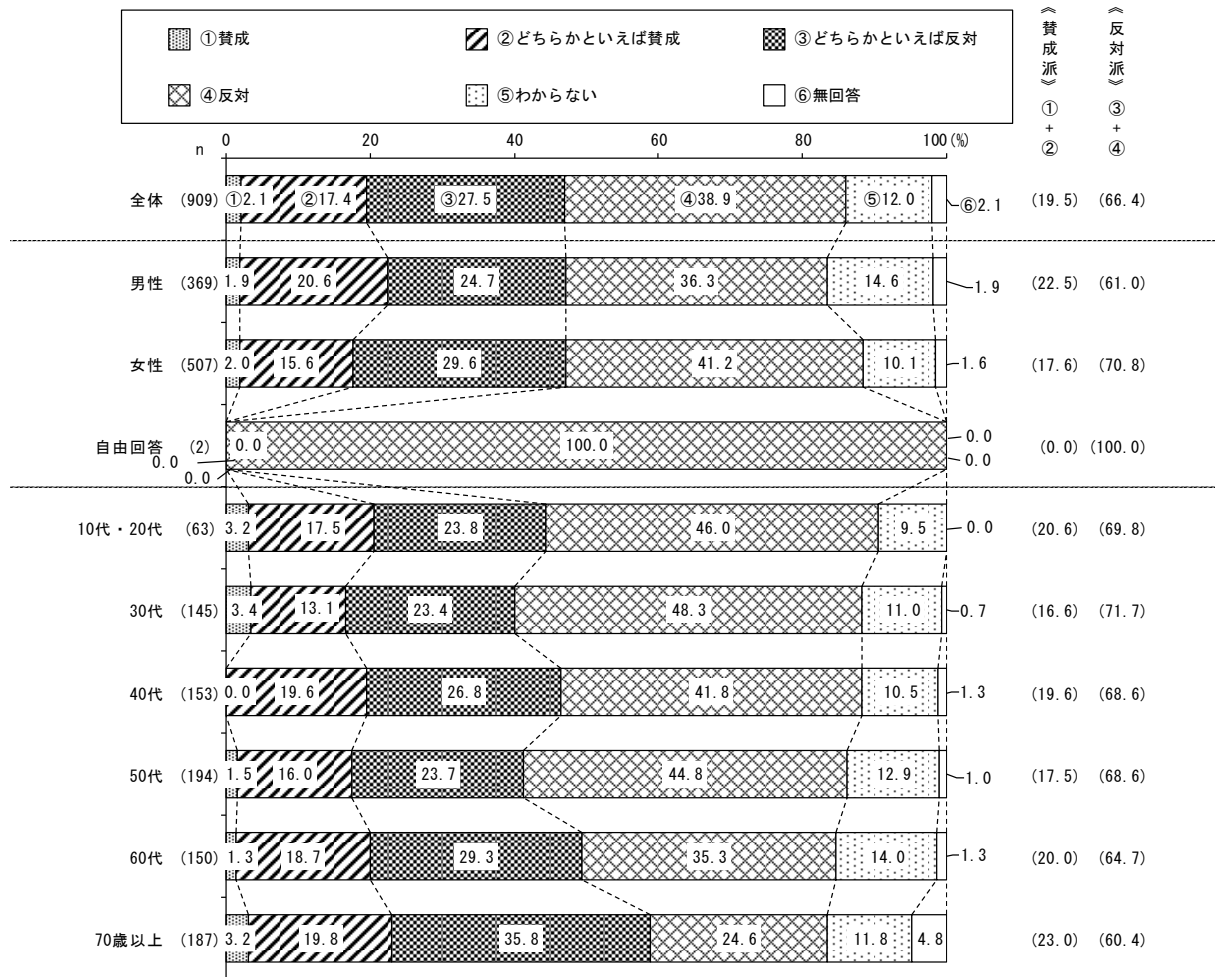
《賛成派》(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)(19.5%)が2割弱、《反対派》(「反対」+「どちらかといえば反対」)(66.4%)が6割台半ばを超えている。(図3-5-1)

図3-5-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
（経年推移）



過去5年間の経年推移をみると、《賛成派》の割合が令和2年度から令和3年度にかけて高くなり、令和3年度（24.5%）から令和5年度（18.4%）にかけて6.1ポイント低くなったものの、令和6年度（19.5%）は令和5年度（18.4%）より1.1ポイント高くなっている。（図3-5-2）

図3-5-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(性別・年代別)



性別でみると、《賛成派》は、男性（22.5%）が2割強と、女性（17.6%）を4.9ポイント上回っている。

年代別でみると、《賛成派》は70歳以上（23.0%）が2割台半ば近くと、全体（19.5%）を3.5ポイント上回っている。（図3-5-3）

（6）DVだと思ふ行為について

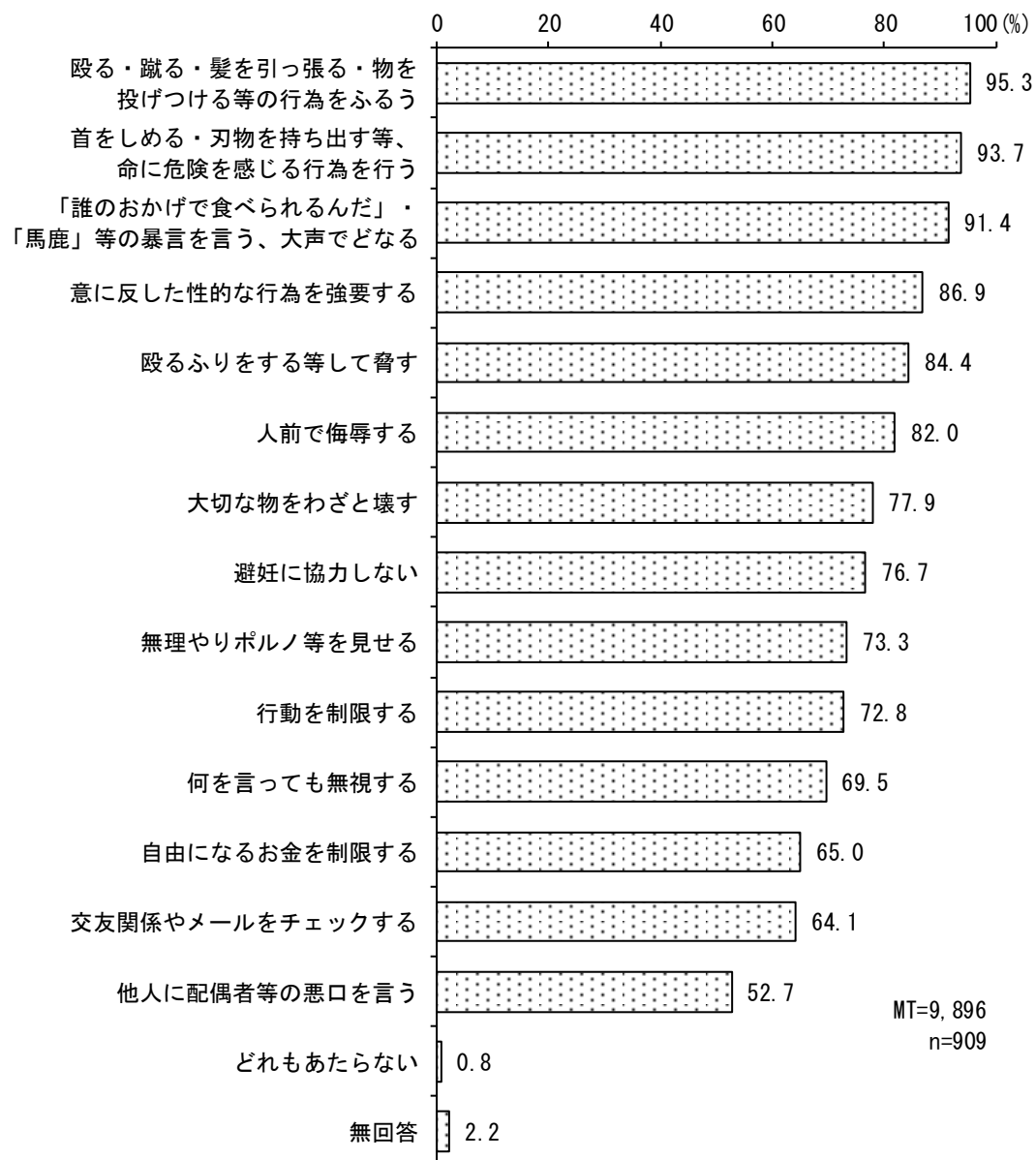
◎「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」が9割台半ば

問16 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）について、DVだと思ふ行為は次のうちどれですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=909)
1 何を言っても無視する	69.5%
2 行動を制限する	72.8
3 交友関係やメールをチェックする	64.1
4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる	91.4
5 人前で侮辱する	82.0
6 他人に配偶者等の悪口を言う	52.7
7 大切な物をわざと壊す	77.9
8 殴るふりをする等して脅す	84.4
9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう	95.3
10 首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う	93.7
11 自由になるお金を制限する	65.0
12 意に反した性的な行為を強要する	86.9
13 無理やりポルノ等を見せる	73.3
14 避妊に協力しない	76.7
15 どれもあたらない	0.8
無回答	2.2

図３－６－１ DVだと思う行為について

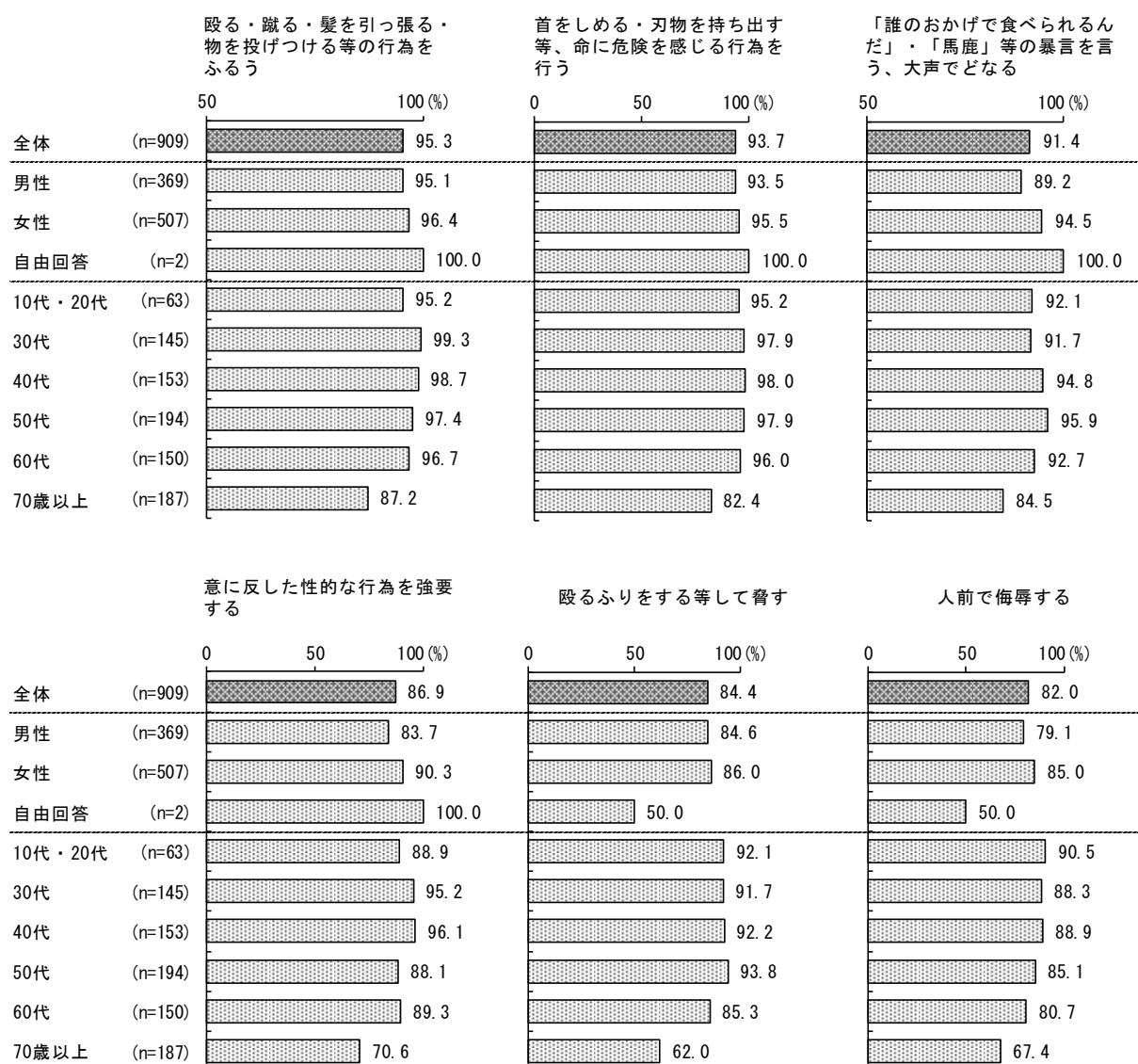


DVだと思う行為については、「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」(95.3%)が9割台半ばで最も高く、次いで「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」(93.7%)が9割台半ば近く、「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる」(91.4%)が9割強、「意に反した性的な行為を強要する」(86.9%)が8割台半ば超え、「殴るふりをする等して脅す」(84.4%)が8割台半ば近くと続いている。

全体で最も低い「他人に配偶者等の悪口を言う」(52.7%)は5割強となっている。

(図３－６－１)

図3-6-2 DVだと思う行為について
（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「意に反した性的な行為を強要する」は女性（90.3%）が約9割となっており、男性（83.7%）を6.6ポイント上回っている。

年代別でみると、すべての項目で70歳以上が最も低い割合となっており、特に「殴るふりをする等して脅す」（62.0%）が6割強となっており、全体（84.4%）を22.4ポイント下回っている。

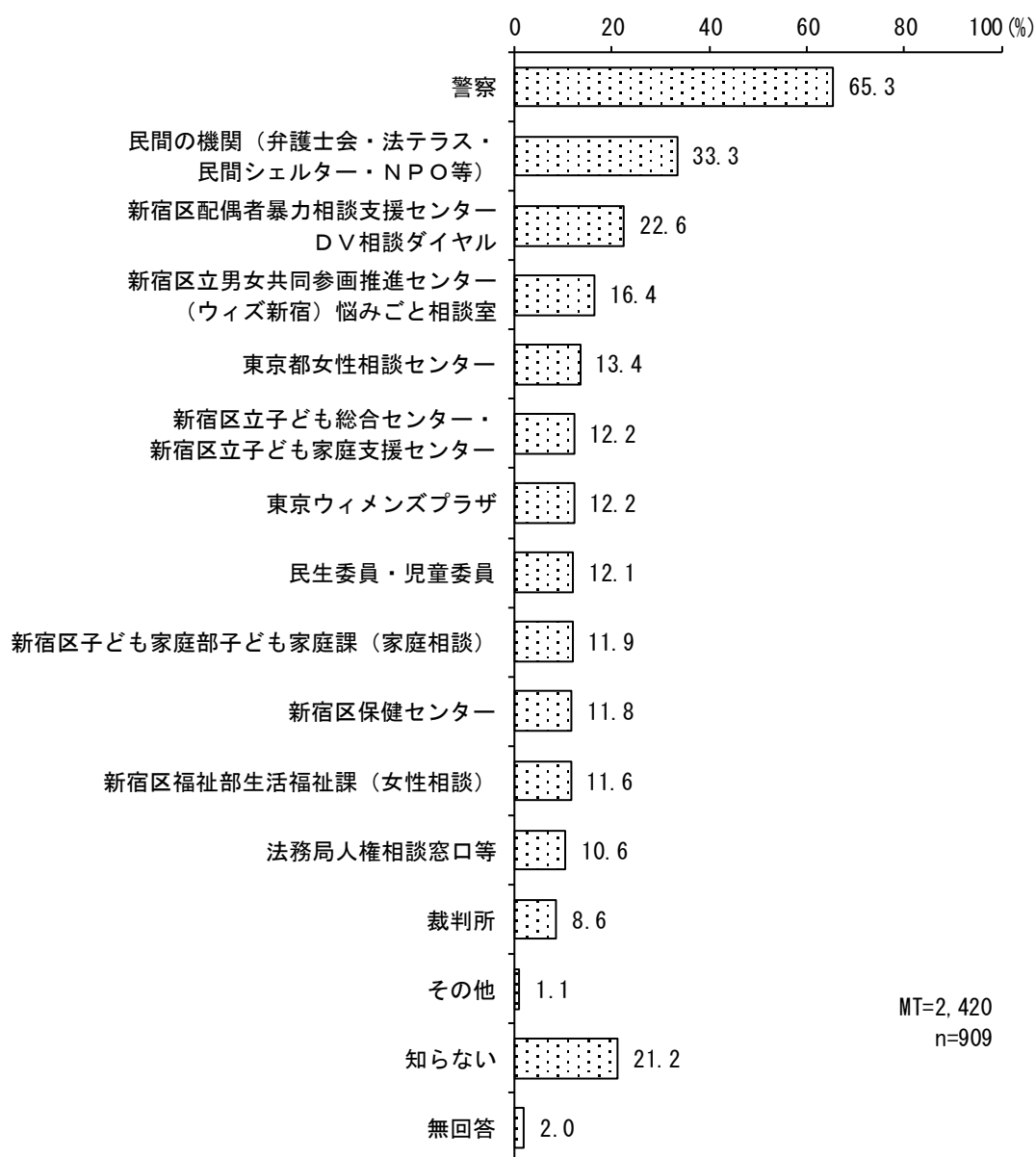
（図3-6-2）

(7) DVについての相談機関の窓口について

◎「警察」が6割台半ば

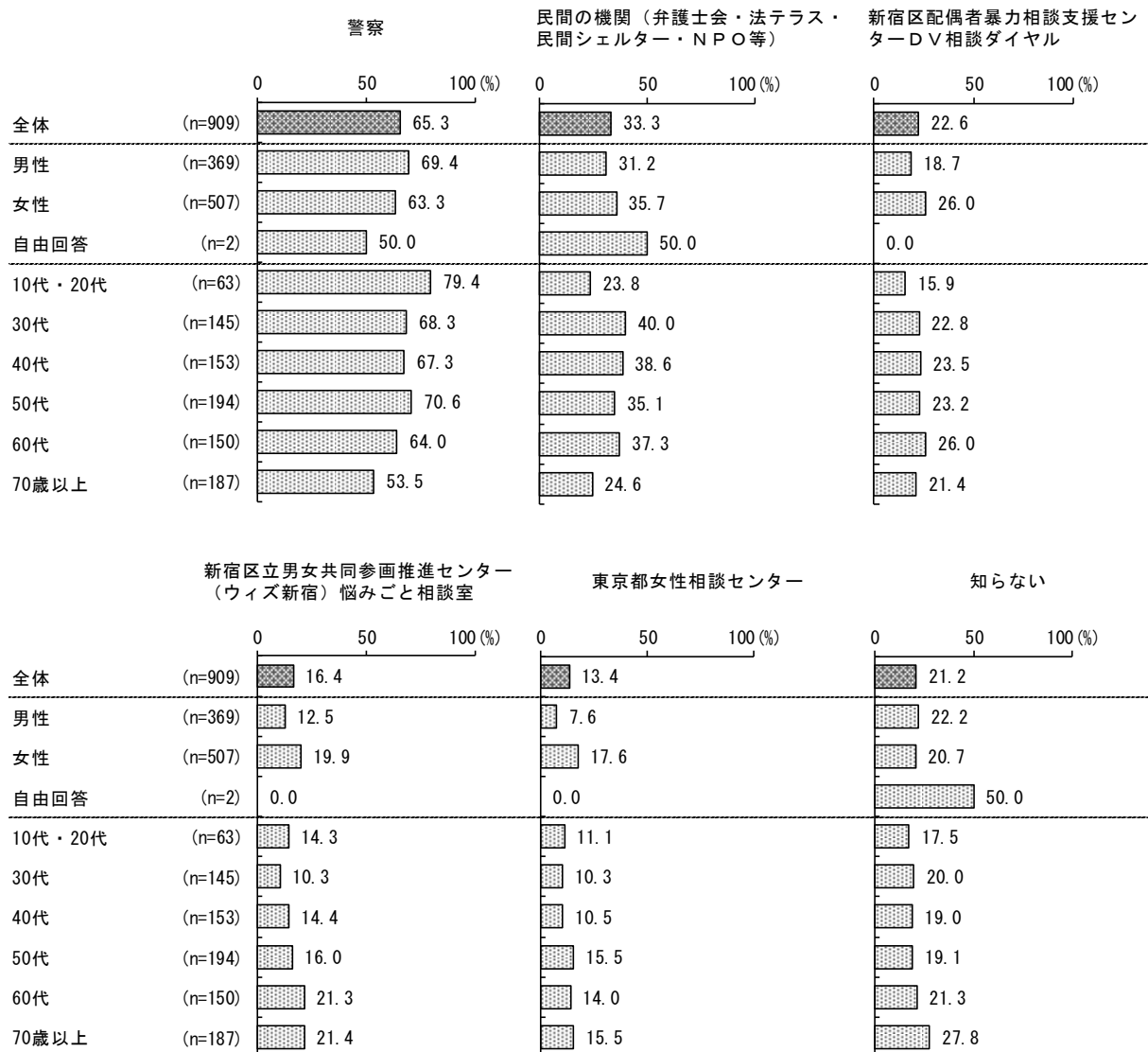
問17 DVについての相談機関の窓口を知っていますか。 (あてはまるものにいくつでも○をつけてください)		(n=909)
1	新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル	22.6%
2	新宿区立男女共同参画推進センター(ウィズ新宿)悩みごと相談室	16.4
3	新宿区福祉部生活福祉課(女性相談)	11.6
4	新宿区子ども家庭部子ども家庭課(家庭相談)	11.9
5	新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター	12.2
6	新宿区保健センター	11.8
7	東京都女性相談センター	13.4
8	東京ウィメンズプラザ	12.2
9	警察	65.3
10	法務局人権相談窓口等	10.6
11	裁判所	8.6
12	民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)	33.3
13	民生委員・児童委員	12.1
14	その他	1.1
15	知らない	21.2
	無回答	2.0

図3-7-1 DVについての相談機関の窓口について



DVについての相談機関の窓口について、「警察」（65.3%）が6割台半ばで最も高く、次いで「民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）」（33.3%）が3割台半ば近く、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」（22.6%）が2割強と続いている。一方、「知らない」（21.2%）が2割強となっている。（図3-7-1）

図3-7-2 DVについての相談機関の窓口について
(性別・年代別) 上位5項目+「知らない」



上位5項目と「知らない」について、性別でみると、「警察」は男性（69.4%）が7割弱と、女性（63.3%）を6.1ポイント上回っている。また、「新宿区立男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）悩みごと相談室」は女性（19.9%）が2割弱となっており、男性（12.5%）を7.4ポイント上回っている。

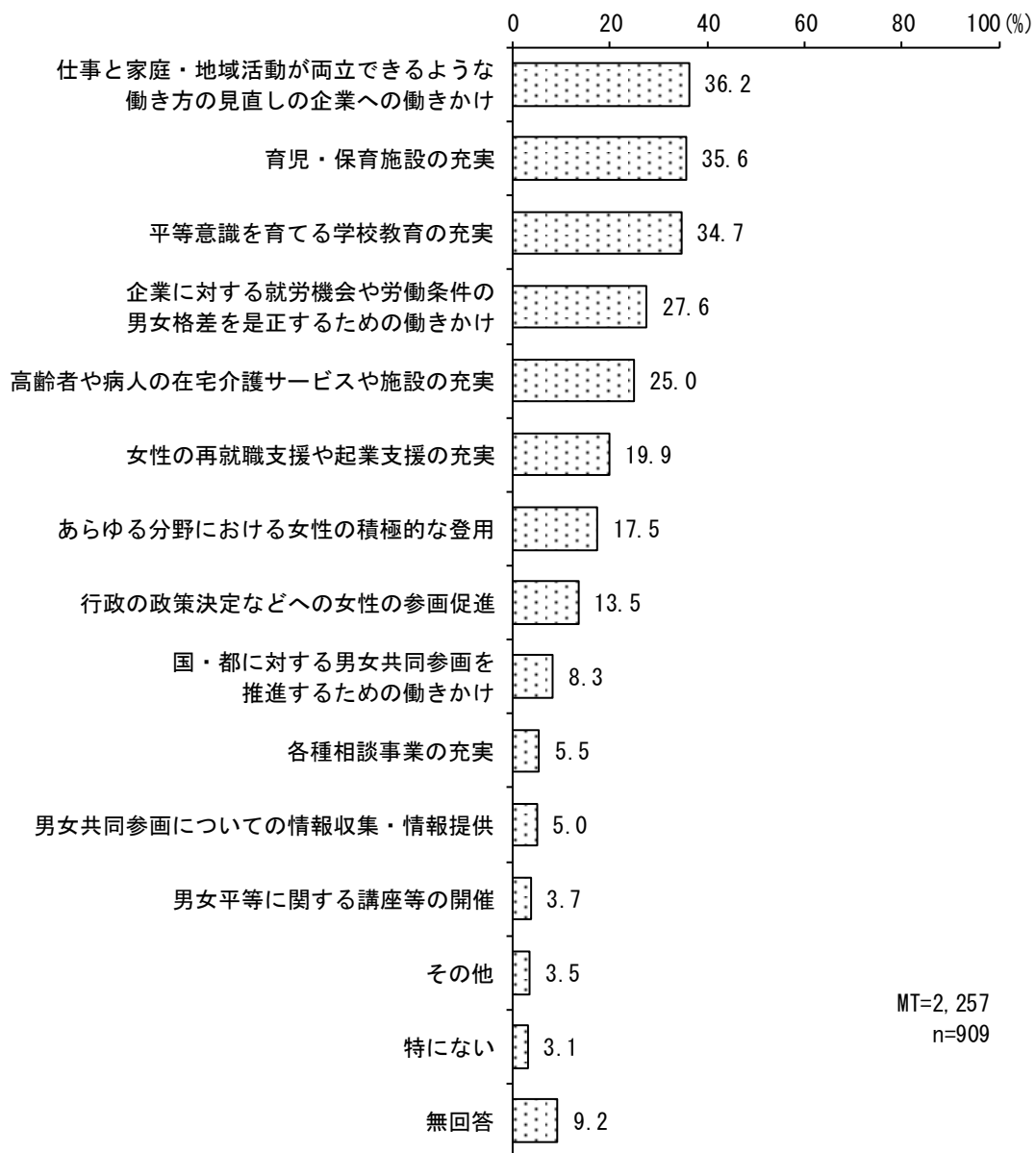
年代別でみると、「警察」は10代・20代（79.4%）が8割弱と、全体（65.3%）を14.1ポイント上回っている。（図3-7-2）

（８）男女共同参画を推進するために必要なことについて

◎「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」が３割台半ば超え

問１８ 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。 （あてはまるものに３つまで○をつけてください）	
	(n=909)
１ 平等意識を育てる学校教育の充実	34.7%
２ 男女平等に関する講座等の開催	3.7
３ 女性の再就職支援や起業支援の充実	19.9
４ 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	27.6
５ 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ	36.2
６ 育児・保育施設の充実	35.6
７ あらゆる分野における女性の積極的な登用	17.5
８ 行政の政策決定などへの女性の参画促進	13.5
９ 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実	25.0
１０ 各種相談事業の充実	5.5
１１ 男女共同参画についての情報収集・情報提供	5.0
１２ 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ	8.3
１３ その他	3.5
１４ 特にない	3.1
無回答	9.2

図３－８ 男女共同参画を推進するために必要なことについて



男女共同参画を推進するために必要なことについて、「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」(36.2%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「育児・保育施設の充実」(35.6%)が3割台半ばを超え、「平等意識を育てる学校教育の充実」(34.7%)が3割台半ば近くと続いている。(図３－８)

Ⅲ 資料（調査票）

令和6年度 新宿区区政モニターアンケート 第1回

- テーマ1 震災に備えて
テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて
テーマ3 男女共同参画に関する意識について

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印をつけてください**。設問によって、**1つだけの場合や、あてはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問いの最後に“（○は1つ）”などと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次に答える設問が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をした方におたずねします、など)
問いの前文や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、（ ）内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、

令和6年7月30日（火）までにご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するために必要なものです。開封後直ちに調査票から切り離しますので、調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係
電話 03-5273-4065（直通）
FAX 03-5272-5500



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

テーマ1 震災に備えて

地震は、いつどこで発生するかわかりません。地震を防ぐことはできませんが、その被害を抑えることはできます。そのためには、自宅の耐震化や家具転倒防止対策をしておくなど、日頃からの備えが大切です。新宿区では、皆様の住宅の耐震化と家具転倒防止対策についておたずねし、今後の取組の参考にしたいと考えています。

問1 あなたがお住まいの建物について、教えてください。(〇は1つ)

- 1 昭和56年（1981年）5月31日以前に建てられた木造住宅
- 2 昭和56年（1981年）6月1日以降、平成12年（2000年）5月31日以前に建てられた木造住宅
- 3 平成12年（2000年）6月1日以降に建てられた木造住宅
- 4 昭和56年（1981年）5月31日以前に建てられた非木造住宅
- 5 昭和56年（1981年）6月1日以降に建てられた非木造住宅
- 6 知らない

★区では、「建築物等耐震化支援事業」として下記の事業を行っています。

《 木造建物（住宅系）への支援事業 》	《 非木造建物への支援事業 》
・ 【無料】耐震診断（予備耐震診断・詳細耐震診断）技術者派遣 ・ 詳細耐震診断・補強設計への助成 ・ 耐震改修工事、工事監理への助成	・ 【無料】耐震アドバイザーの派遣、簡易耐震診断技術者派遣 ・ 耐震診断、補強設計への助成 ・ 耐震改修工事への助成

※令和5年度から新たに、新耐震木造住宅（昭和56年（1981年）6月1日以降、平成12年（2000年）5月31日以前に建てられた木造住宅）についても、本事業の対象になりました。

問2 あなたは上記★印の「建築物等耐震化支援事業」を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3 知らない

Ⅲ 資料（調査票）

問3 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。（○は1つ）

1 すでに受けた

2 受けたいが、まだ受けていない

3 受ける必要はない

4 わからない

→ 問3-1へ

問3-1 問3で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

耐震診断を受けていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

- 1 現在受けていないが、今後受ける予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）6月1日以降に建った新耐震基準の非木造建物、
または平成12年（2000年）6月1日以降に建った2000年基準の木造建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこに相談すればよいかわからないから
- 10 面倒だから
- 11 その他（)

問 4 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたい
 と思いますか。(○は1つ)

1	すでに補強工事を行った	→ 問 4 - 1 へ
2	行いたい、まだ行っていない	
3	行う必要はない	
4	わからない	

問 4 - 1 問 4 で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

1	現在行っていないが、今後行う予定だから
2	制度について知らなかったから
3	集合住宅のため自分の考えだけではできないから
4	建物の所有者が自分ではないから
5	昭和56年（1981年）6月1日以降に建った新耐震基準の非木造建物、 または平成12年（2000年）6月1日以降に建った2000年基準の木造建物だから
6	多額の費用がかかるから
7	倒壊しないと思うから
8	信頼できる業者がないから
9	相談したいがどこに相談すればよいかわからないから
10	自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから
11	面倒だから
12	その他 ()

Ⅲ 資料（調査票）

問5 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(○は1つ)

1	すでに取り付けている	
2	取り付けたいが、まだ取り付けていない	→ 問5-1へ
3	取り付ける必要はない	
4	わからない	

問5-1 問5で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

1	現在取り付けていないが、今後取り付ける予定だから
2	どのような器具を取り付ければよいかわからないから
3	家具や家屋に傷をつけるから
4	取付け作業が難しそうだから
5	お金がかかるから
6	倒れても危険ではないので、効果がないと思うから
7	面倒だから
8	転倒防止が必要な家具がないから
9	その他 ()

問6 あなたは、区が行っている**家具転倒防止器具取付け事業**（調査費・取付け費無料）（※）を知っていますか。(○は1つ)

1	知っている	2	知らない
---	-------	---	------

(※)「**家具転倒防止器具取付け事業**」…区が委託する業者がご自宅に伺って設置場所に適した家具転倒防止器具について調査のうえ、取付けを行います。調査費と取付け費は、区が負担しますが、家具転倒防止器具は利用者負担です。対象となる方は区内在住の方で、取付けは住宅部分に限ります。対象となる家具は、タンス、戸棚・棚類、冷蔵庫、テレビです。

テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて

新宿区では、「環境への負荷を少なくし、未来の環境を創るまち」の実現に向け、資源循環型社会の構築を目指しています。

ごみの発生抑制（リデュース：Reduce）、再使用（リユース：Reuse）、再生利用（リサイクル：Recycle）による「3R活動」の推進が重要になり、ごみとして処分する場合も、適正に分別する必要があります。

3R活動や食品ロス（※）の削減、資源・ごみの分別状況などをおたずねし、今後の普及啓発活動の向上に役立てていきたいと思ひます。

（※）食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、例えば、消費期限・賞味期限切れの食品や食べ残し、調理の際に過剰に除去した食べられる部分などを指します。

問7 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

【リデュース】	1 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する 2 買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする 3 食品ロスを出さないような取組を行っている 4 使い捨てになるものは、なるべく購入しない
【リユース】	5 詰め替え用商品を買う 6 リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する 7 リース・レンタルを活用する 8 修理、リフォームして使う
【リサイクル】	9 ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す 10 トイレtpペーパーなどは、再生品を選んで購入する
	11 その他（ ） 12 特にしていない

Ⅲ 資料（調査票）

問8 「食品ロス削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。

（ア～ケそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください）

	すでに取り組んでいる	現在取り組んでいないが、今後取り組みたい	現在取り組んでおらず、今後取り組み予定はない
ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	1	2	3
イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	1	2	3
ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	1	2	3
エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	1	2	3
オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	1	2	3
カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	1	2	3
キ 外出時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ	1	2	3
ク フードドライブ（※1）として食品を提供する	1	2	3
ケ フードシェアリングサービス（※2）を活用する	1	2	3

（※1）フードドライブとは、家庭等での未利用の食品（賞味期限内であるなど一定の条件があります）を回収し、食品を必要とする施設や家庭に配布することです。

（※2）フードシェアリングサービスとは、そのままでは廃棄されてしまう食品と購入希望者のマッチングを行う、スマートフォンアプリ等でのサービスのことです。

問9 「プラスチック使用削減やプラスチックごみ削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。

(ア～カそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	すでに 取り組んでいる	現在 取り組んでいないが、 今後 取り組みたい	現在 取り組んでおらず、 今後 取り組む 予定はない
ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない	1	2	3
イ マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトル等）をできる限り使用しない	1	2	3
ウ プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない	1	2	3
エ 区の資源回収を利用し、資源プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する	1	2	3
オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、缶、食品トレイ、ペットボトル等を資源として排出する	1	2	3
カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマープラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ	1	2	3

Ⅲ 資料（調査票）

問 10 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、資源プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

（ア～ケそれぞれで、あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	燃やすごみ (週 2 回)	金属・陶器・ ガラスごみ (月 2 回)	資 源 (週 1 回)	地域の 集団回収	販売店等による回収 (※ 1)
ア 新聞・チラシ	1	2	3	4	5
イ 雑誌・段ボール	1	2	3	4	5
ウ 雑がみ（菓子箱・包装紙等）	1	2	3	4	5
エ 資源プラスチック（※ 2）	1	2	3	—	5
オ びん	1	2	3	4	5
カ 缶	1	2	3	4	5
キ ペットボトル	1	2	3	4	5
ク スプレー缶・カセットボンベ	1	2	3	—	—
ケ 乾電池	1	2	3	—	5

（※ 1）販売店等による回収とは、スーパーマーケット等での缶、食品トレイ、ペットボトルの店頭回収のほか、新聞販売店等による新聞紙の回収、生協等による宅配時の容器回収などを含みます。

（※ 2）資源プラスチックとは、容器包装プラスチック及び 100%プラスチックでできている製品を指し、令和 6 年 4 月から週 1 回、資源・ごみ集積所で回収しています。

問１０－１ 問１０の（ウ）雑がみ（菓子箱・包装紙等）で、「３」または「４」に○をした方にお伺いします。

雑がみのうち、資源（古紙）の日または地域の集団回収に出しているのはどれですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

- | | | |
|---|------------------------|---|
| 1 | 菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など | |
| 2 | 包装紙、紙袋など | |
| 3 | はがき、封筒（窓空のビニール等を取る）など | |
| 4 | ノート、コピー用紙、カレンダーなど | |
| 5 | トイレットペーパーの芯（つぶす、または開く） | |
| 6 | 名刺、レシート（感熱紙でないもの） | |
| 7 | その他（ | ） |
| 8 | 特にない | |

問１０－２ 問１０の（エ）資源プラスチックで、「１」または「２」に○をした方にお伺いします。

資源プラスチックを資源として出していない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

- | | | |
|---|-----------------------------------|---|
| 1 | 対象となる資源プラスチックがわからないから | |
| 2 | 素材がプラスチックだけでできているかわからないから | |
| 3 | 汚れをとるのが大変だから、またはどの程度とればよいかわからないから | |
| 4 | 置いておく場所がないから | |
| 5 | 資源として分けるのが大変だから | |
| 6 | その他（ | ） |

テーマ3 男女共同参画に関する意識について

男女共同参画とは、男女が社会の対等な構成員として性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、責任を分かち合いながら、ともにあらゆる分野に参画することをいいます。

皆様から日常生活のなかでの男女共同参画に関する意識や実情をおたずねし、今後の取組の参考とさせていただきます。

問11 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。

（ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
ア 家庭生活で	1	2	3	4	5
イ 職場で	1	2	3	4	5
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
エ 政治の場で	1	2	3	4	5
オ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
キ 地域活動の場で	1	2	3	4	5
ク 社会全体として	1	2	3	4	5

問12 男女共同参画に関する以下の言葉について知っていますか。

（ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください）

	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない
ア 性別役割分担 ※性別によって男女で固定的な役割を分担すること	1	2	3
イ DV（ドメスティック・バイオレンス） ※配偶者やパートナーからの暴力	1	2	3
ウ デートDV ※恋人など親密な関係にある相手からの暴力	1	2	3
エ 性的マイノリティ（LGBT等）	1	2	3
オ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3

問 1 3 働いているすべての方にお伺いします。

あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 たいへん満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 ほぼ満足している | 4 まったく満足していない |

問 1 4 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | |
|------------------------------|
| 1 男女ともに労働時間の短縮をはかること |
| 2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること |
| 3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること |
| 4 男女ともに技術・能力を高めること |
| 5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にする |
| 6 職場でのハラスメント対策が取られていること |
| 7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること |
| 8 育児・介護休業制度が整備・充実されること |
| 9 その他 () |
| 10 特に重要だと思うことはない |

問 1 5 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 |
| | 5 わからない |

問 1 6 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）について、DVだと思う行為は次のうちどれですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 何を言っても無視する |
| 2 行動を制限する |
| 3 交友関係やメールをチェックする |
| 4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる |
| 5 人前で侮辱する |
| 6 他人に配偶者等の悪口を言う |
| 7 大切な物をわざと壊す |
| 8 殴るふりをする等して脅す |
| 9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう |
| 10 首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う |
| 11 自由になるお金を制限する |
| 12 意に反した性的な行為を強要する |
| 13 無理やりポルノ等を見せる |
| 14 避妊に協力しない |
| 15 どれもあたらない |

Ⅲ 資料（調査票）

問 17 DVについての相談機関の窓口を知っていますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

- 1 新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル
- 2 新宿区立男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）悩みごと相談室
- 3 新宿区福祉部生活福祉課（女性相談）
- 4 新宿区子ども家庭部子ども家庭課（家庭相談）
- 5 新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター
- 6 新宿区保健センター
- 7 東京都女性相談センター
- 8 東京ウィメンズプラザ
- 9 警察
- 10 法務局人権相談窓口等
- 11 裁判所
- 12 民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）
- 13 民生委員・児童委員
- 14 その他（)
- 15 知らない

問 18 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

（あてはまるものに3つまで○をつけてください）

- 1 平等意識を育てる学校教育の充実
- 2 男女平等に関する講座等の開催
- 3 女性の再就職支援や起業支援の充実
- 4 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
- 5 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ
- 6 育児・保育施設の充実
- 7 あらゆる分野における女性の積極的な登用
- 8 行政の政策決定などへの女性の参画促進
- 9 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実
- 10 各種相談事業の充実
- 11 男女共同参画についての情報収集・情報提供
- 12 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ
- 13 その他（)
- 14 特になし

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

※調査結果を統計処理する際に必要ですので、次ページ以降の回答者の属性もご記入ください。

※調査票についている「整理票」は、ご協力のお礼をお送りするために必要ですので、取り外さずにそのままご返送ください。区に到着後、整理票は調査票から取り外して保管しますので、調査票から個人が特定されることはございません。

回 答 者 の 属 性

問ア あなたのお住まいの地域（所管する特別出張所の地域）をお選びください。（○は1つ）

※あなたの地域は、宛名紙の下部枠内に記載されています。

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 簗笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

問イ あなたの性別をお選びください。（○は1つ）

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 () |
|------|------|-------|

問ウ あなたの年齢（満年齢）を、次の中からお選びください。（○は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 8 50～54歳 |
| 2 20～24歳 | 9 55～59歳 |
| 3 25～29歳 | 10 60～64歳 |
| 4 30～34歳 | 11 65～69歳 |
| 5 35～39歳 | 12 70～74歳 |
| 6 40～44歳 | 13 75～79歳 |
| 7 45～49歳 | 14 80歳以上 |

問エ あなたのご職業を、次の中からお選びください。（○は1つ）

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1 会社員・団体職員 | → 問エー1へ |
| 2 会社役員・団体役員 | |
| 3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など | |
| 4 自営業、自由業（開業医、弁護士、司法書士なども含む） | |
| 5 学生 | |
| 6 専業主婦・主夫 | |
| 7 無職 | |
| 8 その他 () | |

問エー1 問エで、「1」～「5」に○をした方にお伺いします。現在のあなたの職場・学校はどこにありますか。（○は1つ）

- | | |
|--------|--------|
| 1 新宿区内 | 2 新宿区外 |
|--------|--------|

Ⅲ 資料（調査票）

問オ 現在、あなたは誰かと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

1 子	1～7の方は、 → 問オ－1～問オ－2へ
2 妻または夫	
3 親	
4 祖父母	
5 孫	
6 兄弟姉妹	
7 その他（ ）	
8 ひとり暮らし	

問オ－1 問オで、「1」～「7」に○をした方にお伺いします。同居している人は、あなたを除いて全員で何人ですか。

（【 】の中に人数を記入してください。）

同居している人は、あなた＋【 】人

問オ－2 問オで、「1 子」に○をした方にお伺いします。同居している子の就学状況は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 一番上の子が小学校入学前 | 3 一番上の子が高・大学生 |
| 2 一番上の子が小・中学生 | 4 一番上の子が学校を卒業 |

問カ あなたは新宿区に住んで何年になりますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 1年未満 | 5 10年以上20年未満 |
| 2 1年以上3年未満 | 6 20年以上30年未満 |
| 3 3年以上5年未満 | 7 30年以上 |
| 4 5年以上10年未満 | |

問キ 現在のあなたの住宅の形態は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

一戸建て	集合住宅
1 持ち家の一戸建て	5 分譲マンション・アパート (自己所有のものを含む)
2 賃貸の一戸建て	6 賃貸マンション・アパート
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7 賃貸のUR都市機構(旧公団) ・公社のマンション・アパート
4 その他 ()	8 賃貸の都営・区営住宅
	9 社宅・公務員官舎
	10 その他 ()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、

整理票を取り外さず、

7月30日(火)までにご返送ください。

(返送・問合せ先)

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係

電話 03-5273-4065(直通)

FAX 03-5272-5500

令和6年度第1回新宿区区政モニターアンケート

令和6年11月発行

編集・発行

新宿区総合政策部区政情報課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話（03）5273-4065（直通）

印刷物作成番号

2024-24-2106

この印刷物は、業者委託により320部印刷製本しています。その経費として、1部あたり561円（税込み）がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。

